

科目名	心理学概論				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP1 教養基礎 (EC) DP1 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 (EC) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。				
科目概要	本科目では、心理学の成り立ちおよび代表的な理論について、基礎的かつ全般的な理解を深めることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。 ①心理学の歴史的背景から成立過程 ②人の心の基本的な仕組み及び働き（心理学の諸分野）(i) 系統発生的基盤 (ii) 個体発生的基盤 (iii) 認知的基盤 (iv) 言語的基盤 (v) 社会的基盤 (vi) 制度的基盤 (vii) 文化的基盤 (viii) 適応的基盤 (ix) 個人的基盤 (x) 心理学の展開				
到達目標	1. 人の心理の基本的なしくみ及び働きについて理解する 2. 心理学が対象としている分野や活動の全般を網羅する				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学の歴史と成り立ち 第2回：心の生物学的基盤 第3回：感覚・知覚 第4回：学習 第5回：記憶 第6回：言語 第7回：思考 第8回：動機づけ 第9回：感情 第10回：心の発達 第11回：知能 第12回：パーソナリティ 第13回：社会と個人 第14回：心の健康と不適応 第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	知識付与型の授業に加えて PBL（課題解決型学習）などを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索や入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	前回までのリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践② 心理学概論				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	授業内容を振り返り、新たに気づき理解を深めたこと、質問をリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	基礎演習 I (EC)
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	教育・保育・心理の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。 大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、教育・保育・福祉・心理への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。 3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。 5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 6. レジюме、レポートの書き方を修得する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;和久田佳代、二宮貴之、福重浩之、内山敏 (全員で毎回担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;主な担当者&gt;</p> <p>第1回：和久田佳代 学びへの導入 スチューデントスキルとスタディースキルとは 事前事後学修について WebClass による学修の記録</p> <p>第2回：和久田佳代 読み方のヒント 読むことの重要性 三色ボールペン方式で読む</p> <p>第3回：和久田佳代 文章の書き方 説明文には型がある 大学生活の目標を立てる DP ルーブリックについて</p> <p>第4回： 『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する</p> <p>第5回： 『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる</p> <p>第6回： 図書館の使い方 大学図書館、図書館サポーターを活用しよう 大学生活で困ったときには 学習支援室や学生相談室等を活用しよう</p> <p>第7回：二宮貴之 コンピュータを活用するー基本的な使い方ー 情報倫理を学ぼう コンピュータの基本的な操作を確認しよう</p> <p>第8回：福重浩之 社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール ボランティアのすすめ (アドバイザータイム)</p> <p>第9回：二宮貴之 レジюмеの作り方 要旨をアウトプットする 体験談から大学生活について学ぶ (1)</p> <p>第10回：内山敏 資料整理の仕方 授業資料・ノートを整理して活用しよう 体験談から大学生活について学ぶ (2)</p> <p>第11回：和久田佳代 レポートの書き方 (1) レポート作成スケジュール レポートの中に文献を登場させる方法</p>

	<p>第12回： レジュメに基づき、発表する（『ロボットが家にやってきましたら…』） 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える</p> <p>第13回：和久田佳代 定期試験・レポート課題等に対する心得 学修時間・学修行動を振り返る（アドバイザータイム）</p> <p>第14回： レジュメに基づき、意見交換（『ロボットが家にやってきましたら…』） 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる</p> <p>第15回： 学びの確認 まとめ レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する</p> <p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p>				
アクティブラーニング	○ディスカッション、○グループワーク 少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、WebClass に学びを記録する。				
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。				
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックは授業中に提示するとともに、WebClass に掲載する。				
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中及びWebClass を通して行う。				
指定図書	遠藤薫『ロボットが家にやってきましたら…人間と AI の未来』岩波書店 もう1冊は、以下参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
質問する、問い返す	名古屋 隆彦	岩波書店	940	9784005008544	
参考図書	授業にて紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>毎回、WebClass に学びを記録する。 小レポート（第3回、第5回、第7回、第9回） 上記も含め、毎回、主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。 （目安時間 40 分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	聖隷クリストファー大学 HP 図書館、ICT センター、キャンパスライフ等 大学 ICT 推進協議会『情報倫理デジタルビデオ小品集』				
オフィスアワー	<p>和久田佳代 国際教育学部 2709 時間については初回授業時に提示する。 二宮 貴之 国際教育学部 2602 福重 浩之 国際教育学部 2607 内山 敏 国際教育学部 2710</p>				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	基礎演習Ⅱ (EC)
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、教育・保育・福祉・心理への関心を深め、学ぶ動機を強める。</li> <li>2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。</li> <li>3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。</li> <li>4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。</li> <li>5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモチベーションを高める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;和久田佳代、二宮貴之、福重浩之、内山敏 (全員で毎回担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;主な担当者&gt;</p> <p>第1回：和久田佳代 オリエンテーション 図書館利用・文献検索について</p> <p>第2回：二宮貴之 レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(1)</p> <p>第3回：福重浩之 レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(2)</p> <p>第4回：内山敏 参考文献リストの作り方・研究倫理について</p> <p>第5回：本学図書館を利用する 参考文献リストを作成する</p> <p>第6回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(1)</p> <p>第7回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(2)</p> <p>第8回：体験談からキャリアデザインを考える 社会人基礎力</p> <p>第9回：選択したテーマについて発表し、討論する(1)</p> <p>第10回：選択したテーマについて発表し、討論する(2)</p> <p>第11回：系・資格取得ガイダンス</p> <p>第10回：卒業研究発表会へ出席し、教育・保育の課題を学ぶ(1)</p> <p>第11回：卒業研究発表会へ出席し、教育・保育の課題を学ぶ(2)</p> <p>第14回：定期試験に向けて (アドバイザータイム)</p> <p>第15回：レポートのまとめ (提出前の最終チェック)</p> <p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p>
アクティブラーニング	<p>○PBL (課題解決型学習)、○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション</p> <p>あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。WebClass に学びを記録する。</p>
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。

課題に対する フィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業内で紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	WebClass に学びを記録する。 大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとに行う。 (目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	和久田佳代 国際教育学部 2709      時間については初回授業時に提示する。 二宮 貴之 国際教育学部 2602 福重 浩之 国際教育学部 2607 内山 敏 国際教育学部 2710				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	キャリアデザイン				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 56 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 教養基礎 (SC) DP4 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (SC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。				
科目概要	本講義では、社会で「働く」ことの意義を大学で「学ぶ」こととの関連で理解した上で、就職活動に必要な知識、技術並びに心構えを学びながら、社会人として求められる基礎力を身に着ける。そして、学生一人ひとりが「人」として、「社会福祉専門職者」としての人生設計をいかに創造していくのかについて考える。				
到達目標	1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力・表現力などを身につける。 3. 自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。				
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; &lt;授業テーマ、内容&gt;</p> <p>第1回：井川、福重、仲、渡邊 社会で「働く」とは、働くこととストレスについて 社会人として求められる力、社会人基礎力とは何か</p> <p>第2回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける① (外部講師) あいさつ、みだしなみ、礼儀作法などのマナーを身につける</p> <p>第3回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける② (外部講師) アサーションとは何か、問題解決のステップ</p> <p>第4回：井川、福重、仲、渡邊 採用側が学生に望むこと (ゲストスピーカー2名)</p> <p>第5回：井川、福重、仲、渡邊 模擬面接を体験する (キャリア職員)</p> <p>第6回：井川、福重、仲、渡邊 4年生による就職活動報告会 社会福祉の現場に就職が決まっている先輩から、就職活動の実際を学ぶ</p> <p>第7回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける③ (キャリア職員) エントリーシートの書き方を学んだ上で、各自で作成を試みる</p> <p>第8回：井川、福重、仲、渡邊 自己分析と自分のキャリアデザインを描く 自己分析の方法を学び、自分のキャリアデザインを考える</p>				
アクティブラーニング	グループワークや共同作業を織り込んだプログラムを展開する。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する				
評価方法	授業態度 20%、提出物等 80%				
課題に対するフィードバック	積極的に提出課題やリアクション等へコメントする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	・加藤容子他（2014）『わたしのキャリア・デザイン 社会・組織・個人』ナカニシヤ出版 ・笹川孝一（2014）『キャリアデザイン学のすすめ 仕事、コンピテンシー、生涯学習社会』 法政大学出版局				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：事前課題に必ず取り組んだ上で授業に参加すること。 事後学修：リアクションペーパーや事後課題に丁寧に取り組むことで、授業の理解度を自己評価すること。 目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	井川 淳史（2603 研究室） メール：atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉、介護、教育、保育の実務経験を有する講師が教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	英語Ⅲ					
科目責任者	Donald Patterson					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 教養基礎 (EC) DP7 教養基礎					
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。					
到達目標	1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。					
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第1回：Introduction to the Course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第2回：Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする 第3回：Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する 第4回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする 第5回：Taking Vital Signs バイタルサインを確認する 第6回：発表会 第7回：まとめ、中間テスト 第8回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする 第9回：Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする 第10回：Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する 第11回：Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする 第12回：Coping with Emergencies 緊急時に対処する 第13回：グループ発表会 第14回：グループ発表会 第15回：最終テスト、まとめ					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、その他「ロールプレイング」					
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。					
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、レポート 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表 20%、最終テスト 20%					
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価 (プレゼンテーション)					
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder (作者) (Cengage センゲージ)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	パターソン・ドナルド (Donald Patterson) (5704 研究室) メール : patterson@seirei.ac.jp 時間については初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	キリスト教教育					
科目責任者	太田 雅子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP1 専門基礎					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。					
科目概要	キリスト教・聖書の世界観・価値観に基づく教育について学ぶ。教育に何を願い、何のために働くのか。教師に与えられた課題や、求められる資質とは何か。どのような姿勢で学校教育の働きに携わっていくべきかなどについて理解を深める。					
到達目標	1. キリスト教教育における世界観・児童観について理解を深める。 2. 聖書・キリスト教的価値観と現代の教育への影響について理解する。 3. 教師に与えられた使命・課題・資質について理解する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：聖書の人間観（子ども観）・幸福観について <仲義之> 第2回：聖書の世界観 <仲義之> 第3回：聖書の世界観—CS ルイス <太田雅子> 第4回：聖書の世界観—ナルニア国物語 <太田雅子> 第5回：キリスト教教育・保育の働きと・教師の役割・ミッション（ゲストスピーカー）<太田雅子> 第6回：教師・保育者としての成長（求められる資質）（ゲストスピーカー）<太田雅子> 第7回：仕えるということ—マザーテレサ <太田雅子> 第8回：愛するということ—マザーテレサ <太田雅子> 第9回：現代における教育の課題とキリスト教教育 <仲義之> 第10回：キリスト教教育の特色と保育・教育への応用 <仲義之> 第11回：キリスト教教育・保育の実践—理解する上での視点 <太田雅子・仲義之> 第12回：キリスト教教育・保育の実践について—聖隷クリストファー小学校見学 <太田雅子>> 第13回：キリスト教教育・保育の実践について—大学クリストファーこども園見学 <太田雅子> 第14回：キリスト教の行事（クリスマス等）<仲義之> 第15回：まとめ（レポート課題）<太田雅子>					
アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業参加態度（リアクションペーパーや各課題を含む）：50% レポート課題：50% レポート課題はルーブリックを用いて評価を行う—内容・基準は授業内で説明する。					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」「中学校・高等学校」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	教育原理				
科目責任者	内崎 哲郎				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	この授業では、「教育」や「子ども」をめぐる思想や制度の歴史や多様性を学ぶことで、現代の教育を捉え直し、教育の基本をつかむ。 「教育はどういう営みか」という基本的な問いに始まり、日本そして諸外国の教育の思想と歴史を振り返り、その今日的意義を考える。 さらに、日本の学校教育の制度的枠組みを理解し、その教育の目的と内容、方法を確認する。				
到達目標	1. 教育の基礎知識（意義・目的、思想と歴史の変遷、内容・方法、制度等）について説明できる。 2. 教育とはどういうものか、先人たちの思想を理解し、教育の歴史と哲学に関して、知識・理解を深めることができる。 3. 教育の基本である「学習指導要領」の内容・教育観を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：教育とは何か？ 第2回：学校とは何か？ 第3回：17世紀の教育思想と教育の歴史 第4回：18世紀の教育思想と教育の歴史 第5回：19～20世紀の教育思想と教育の歴史 第6回：日本の新教育運動 第7回：産業革命と公教育の誕生 第8回：日本の教育制度の歴史 第9回：幼児期から児童期の教育制度 第10回：教育行政 第11回：学習指導要領の変遷 第12回：教育課程に関する法令 第13回：教育課程とカリキュラム 第14回：教師の職務と専門性 第15回：社会教育と生涯学習				
アクティブラーニング	・講義中心の授業であるが、レポートの作成を通して、表現志向で、思考力を活性化させるため、アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポートの課題を出す。				
授業内の ICT 活用	・授業の進行は、プロジェクターや教材提示装置を活用して行う。				
評価方法	60%：レポート（毎時間、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。） 10%：授業、レポートへの取組姿勢 30%：定期試験（ルーブリックを用いて評価する。）				
課題に対するフィードバック	・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。 ・定期試験（教育の意義や目的、教育思想と歴史の変遷、内容や方法、制度等について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。）				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学習では、前時の授業の最後に示した内容について、課題意識をもたせ、課題解決に向けて見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。(30分)</p> <p>事後学習では、授業内容について概要を把握し、課題に対して自身なりの気付きや感想、考察をレポートにまとめる。(60分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教職概論 (国際教育学部)				
科目責任者	飯田 真也				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門基礎				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	本科目は、今日の日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力を理解することを目的とします。教員の職務内容の全体像について理解を深めると同時に、教員研修の必要性や教員が果たすべき服務上・身分上の義務と身分保障について理解します。また、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担してチームとして組織的に諸課題に対応する必要性について理解していることを目標とします。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。</li> <li>2. 教員の職務内容の全体像や、教員研修の意義や生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し、服務上、身分上の義務及び身分保障を理解する。</li> <li>3. 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</li> </ol>				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：教員になるために：学校と教員免許状 第2回：教職の意義と教員の役割：保育・教育現場の実際から 第3回：教員の職務「授業」の変遷（江戸時代～現在） 第4回：教育制度の変遷とその背景 第5回：学校にいる教職員と法的根拠 第6回：教育に関わる法令等：教育基本法を中心とした理解 第7回：教職員に関わる法令等 第8回：学校の日を決めるものと理想の時間割 第9回：教員の職務内容：教科指導 第10回：教員の職務内容：生徒指導 第11回：チームとしての学校：ケーススタディによる理解深化 第12回：地域との連携：コミュニティ・スクール 第13回：学校運営：令和の日本型学校教育と理想の学校 第14回：教員育成：教員育成指標と理想の先生 第15回：まとめ及び授業内容理解度調査				
アクティブラーニング	問に対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習				
授業内の ICT 活用	WebClass の活用				
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 40% 授業内容理解度調査 60% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。				
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。				
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』・文部科学省・東洋館出版社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	必要に応じて授業で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	課題（レポート）への準備（事前学修） 毎回、記述による学習記録及び内容の定着を図る学習（事後学修） （目安時間 40 分） 第 15 回前：レポート「学校や教師に関する図書を読み、考えをまとめる」（280 分＝7 回分を要す）				
オープンエデュケーションの活用	実際の事例を題材とした教職への関心の喚起と、その後のレポート作成に伴う資料収集				
オフィスアワー	飯田 真也 (2712 研究室) メール: shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00 (「在室」表示なら声をかけてください)				
実務経験に関する記述	本科目は「教育行政職」及び「公立小学校管理職」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	発達心理学				
科目責任者	鈴木 文子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門基礎				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、生涯発達の中台となる乳幼児期および児童期以降の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①認知機能の発達及び感情・社会性の発達 (i) 外界認知の発達 (ii) 思考とことばの発達 (iii) 感情の発達 (iv) 対人関係の発達 (v) 発達の生物学的基礎、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達 (i) 自己と他者の認知 (ii) 自己の発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 (i) 出生前期 (ii) 新生児期 (iii) 乳児期 (iv) 幼児期 (v) 児童期 (vi) 青年期 (vii) 成人期・老年期、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 (定型発達と非定型発達)、⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援 (高齢者の心理発達の課題と必要な支援)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について理解できる</li> <li>2. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できる</li> <li>3. 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：発達心理学とは 第2回：外界認知の発達 第3回：思考とことばの発達 第4回：感情の発達 第5回：対人関係の発達 第6回：発達の生物学的基礎 第7回：自己と他者の認知・自己の発達 第8回：出生前期・新生児期 第9回：乳幼児期の発達 (1)：愛着関係について 第10回：乳幼児期の発達 (2)：コミュニケーションの発達 第11回：児童期：自尊感情の発達 第12回：青年期の特徴と支援：アイデンティティの確立 第13回：成人初期・中期の特徴と支援：恋愛と結婚 第14回：成人後期・老年期の特徴と支援：中年の危機 現代の高齢者 第15回：定型発達と非定型発達・発達を支援するとは</p>				
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを用いて授業を行います。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、グループワーク、プレゼンテーションの準備を行い、プレゼンテーションはプロジェクターを使用して行います。WebClass を利用します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	<p>課題について、授業中に口頭で全体に対してフィードバックを行い、個別のフィードバックには Web Class を用いる。</p> <p>リアクションペーパーの内容については、授業中に全体に対してコメント内容を紹介しながらフィードバックを行う。</p>				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑫ 発達心理学				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
発達心理学	本郷 一夫	遠見書房	2600	9784866160627	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習として、各回のテーマについて分からないことや知らない用語について、本やインターネットで調べておく。事後学修として、リアクションペーパーの記入や課題を通して授業内容を振り返り、さらに発展学習として提示された課題について調べてまとめる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」として、医療、福祉、教育の分野で実践経験のある教員が担当します。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際バカロレア教育入門
科目責任者	Morten J. Vatn
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門基礎
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際的視野を持つ人間へと育つためには、国際教育とは何かについて、国際バカロレア (IB) の枠組み—概論を通して理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際教育の歴史と国際バカロレア (IB) の理念を理解する。</li> <li>2. 国際バカロレア (IB) の学習者像のそれぞれの特性の重要性と役割を把握する。</li> <li>3. 国際カリキュラムは何のためのものかについて考える。</li> <li>4. 国際バカロレア (IB) の「学習と指導」について省察する。</li> <li>5. 国際バカロレア (IB) の「学習コミュニティ」について考察する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          &lt;担当教員名&gt;ヴァテン</p> <p>第 1 回：教育を通じてより良い世界を築く：グローバル時代の人間形成          ヴァテン</p> <p>第 2 回：新学習指導要領と国際バカロレア          ヴァテン、ゲストスピーカー (江里口)</p> <p>第 3 回：アウトワード・バウンド：頭と心と手による発達          ヴァテン</p> <p>第 4 回：「ホンモノの問い」と「グローバルな文脈」とは？          ヴァテン</p> <p>第 5 回：IB のすべてのプログラムの中心となる 4 つの基本的かつ相互に関係する要素①：          「国際的視野」 ヴァテン、ゲストスピーカー (江里口)</p> <p>第 6 回：IB のすべてのプログラムの中心となる 4 つの基本的かつ相互に関係する要素②：          「IB の学習者像」          ヴァテン</p> <p>第 7 回：IB のすべてのプログラムの中心となる 4 つの基本的かつ相互に関係する要素③：          「幅広く、バランスのとれた、概念的で、相互につながりのあるカリキュラム」          ヴァテン</p> <p>第 8 回：IB のすべてのプログラムの中心となる 4 つの基本的かつ相互に関係する要素④：          「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」          ヴァテン</p> <p>第 9 回：「指導のアプローチ」：「教える」から「学びを起こすファシリテーター」へ          ヴァテン</p> <p>第 10 回：「学習のアプローチ」：学ぶべき価値があることは？          ヴァテン</p> <p>第 11 回：協働性：児童と教師の関係、児童間関係          ヴァテン</p> <p>第 12 回：協働性：教職員間関係、学校と保護者間関係          ヴァテン</p> <p>第 13 回：インクルージョンへの取り組み          ヴァテン</p> <p>第 14 回：一人一人の成長と成果を支える評価方法          ヴァテン</p> <p>第 15 回：「社会性と情動の学習」への取り組み、振り返り          ヴァテン</p>
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。

評価方法	授業参加：45% 毎回の課題（レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む）：55%  ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。					
指定図書	講義の中で随時、案内する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	講義の中で随時、案内する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
IB 教育がやってくる! 【改訂版】	江里口 歡人	松柏社	1600	9784775402887		
事前・事後学修	授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。 ① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで） ② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること（各40分、2回から15回まで） ③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること） ④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ルーブリックで自己評価してから提出すること（80分）					
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構）が提供するリソースなどを活用する。					
オフィスアワー	所属学部：国際教育学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。					
実務経験に関する記述	本科目は 幼稚園、認定こども園、小学校・インターナショナルスクールでの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場がある。					

科目名	教育心理学（教育・学校心理学）				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、子どもの心身の発達および学習に関する心理学理論を学び、それを保育や教育の実践に活かす方法や、優れた保育・教育の実践を支える心理学的根拠を学ぶことを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①教育現場において生じる問題及びその背景 (i) 教育の制度・法律・倫理 (ii) 教育・学校の環境 (iii) 学校における問題の理解、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 発達と教育 (ii) 教授・学習 (iii) 教育分野における心理学的援助 (iv) 教育分野における心理学的アセスメント (v) 児童生徒に対する心理学的援助 (vi) 援助者・関係者への心理学的援助</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場において生じる問題及びその背景について理解できる</li> <li>2. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</li> <li>3. 援助者・関係者への心理学的援助及び連携について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：教育・学校心理学の意義  第2回：子どもの発達課題への取り組みの理解と援助  第3回：子どもの教育課題への取り組みの援助  第4回：スクールカウンセリングの枠組み  第5回：子どもの多様な援助者によるチーム援助  第6回：3段階の心理教育的援助サービス  第7回：発達障害の理解と援助  第8回：不登校の理解と援助  第9回：いじめの理解と援助  第10回：非行の理解と非行をする子どもの援助  第11回：学校における危機対応  第12回：学級づくりの援助  第13回：学校づくりの援助  第14回：地域ネットワークづくりの援助  第15回：教育・学校心理学と公認心理師の実践</p>				
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをスクリーン表示や口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑱ 教育・学校心理学				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 教育・学校心理学 第2版	野島一彦	遠見書房	2800	9784866161389	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	特別支援教育
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な理由により特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;伊藤信寿、櫻井典啓 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる</p> <p>第 2 回 肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等を含む様々な障害の特性について 伊藤 目標：肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる</p> <p>第 3 回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 櫻井 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる</p> <p>第 4 回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 櫻井 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる</p> <p>第 5 回 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 櫻井 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる</p> <p>第 6 回 特別支援教育を学校づくり 伊藤 目標：特別支援教育における課題を考え、理想的な学校をつくる 事前学習：現時点で考えられる課題をまとめる</p> <p>第 7 回 特別支援教育における専門家の役割について 伊藤 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる</p>

	<p>第 8 回 教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤</p> <p>目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる</p>					
アクティブラーニング	Think-Pair-Share を行っていく。					
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います					
評価方法	小テスト (50%)、レポート (30%)、授業中内の課題 (20%) レポート、課題はルーブリックを用いない					
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に小テストを行い、不明な点がある場合、解説する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新・はじめて学ぶ社会福祉 特別支援教育と障害児の保育・福祉	杉本 敏夫	ミネルヴァ書房	2800	9784623095704	冊子版	
特別支援教育総論 [第2版]	川合 紀宗	北大路書房	2300	9784762832208	冊子版	
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題を遂行する (30 分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	伊藤 信寿 (リハビリテーション学部) (3514 研究室) 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください					
実務経験に関する記述	本科目は「特別支援教育巡回相談」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	教育課程論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、学校教育（小学校・幼稚園）で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本的原理と方法（手法）、学習指導要領・幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。児童・幼児の発達や学習との関連から系統的に構築された教育計画の実際を学ぶ。さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて、指導計画案を作成し実践する。
到達目標	1. 学校教育（小学校・幼稚園）において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
授業計画	<p>&lt;科目担当&gt;太田知実、太田雅子、飯田真也、福重浩之、杉山沙旺美 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：太田知実 現行の学習指導要領下の学校（幼稚園）教育の社会的状況と検討課題</p> <p>第2回：太田知実 教育課程の意義と役割及び機能</p> <p>第3回：太田知実 教育課程の編成の原理とガイドライン（学習指導要領）の内容との関係性</p> <p>第4回：太田知実 学習指導要領の改訂の変遷・性格と基本構造</p> <p>第5回：太田雅子 幼稚園教育要領の改訂の変遷・性格と基本構造（全体的な計画）</p> <p>第6回：太田雅子 フィンランド・ニュージーランドの教育</p> <p>第7回：太田知実 カリキュラム・マネジメントの意義と重要性・小テスト</p> <p>第8回：太田知実 長期的指導計画の作成（小学校）</p> <p>第9回：太田知実 短期的指導計画の作成（小学校）（教科横断的学習を意識して）</p> <p>第10回：太田雅子 指導計画の作成・自発的学びを意識して（幼稚園）</p> <p>第11回：太田雅子 指導計画の作成の実際（幼稚園）</p> <p>第12回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（1）</p> <p>第13回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（2）</p> <p>第14回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（1）</p> <p>第15回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（2）</p> <p>定期試験は行いません</p>
アクティブラーニング	指導計画を作成し模擬保育・模擬授業を行う。さらに教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。

授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業態度 20%、課題提出物の評価・小テスト 40%、小レポート 40%					
課題に対する フィードバック	各回に記入するリアクション・ペーパー（小レポート）について、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。また、指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。					
指定図書	小学校学習指導要領 解説・総則編 幼稚園教育要領解説					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育・教育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動(遊び)や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 知実(看護学部所属)(1210 研究室) メール:tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は授業初回時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園教諭・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	道徳理論と指導法
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基盤となる価値、道徳性の概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらに、それを踏まえ、道徳教育の要としての「道徳の時間」の目標や特質、小学校における授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを主目的とする。
到達目標	1. 道徳とは何か、その今日的意義と重要性について理解できる。 2. 小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容について理解できる。 3. 道徳教育の全体指導計画の意義を理解し、教育活動全体を通しての指導の必要性について説明できる。 4. 「道徳の時間」の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 内崎哲郎、仲義之 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：子どもの心の成長と道徳教育の意義 内崎哲郎  第2回：道徳教育の歴史 内崎哲郎  第3回：学習指導要領総則に示された道徳教育 内崎哲郎  第4回：学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」の意義 内崎哲郎  第5回：道徳科学習指導案作成の手順 内崎哲郎  第6回：資料を基に学習指導案の作成 内崎哲郎  第7回：道徳科の授業の実際の様子（映像）に学ぶ 内崎哲郎  第8回：模擬授業の指導案作成 内崎哲郎  第9回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業①） 内崎哲郎  第10回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業②） 内崎哲郎  第11回：宗教的情操を育む道徳教育（聖書による授業） 仲義之  第12回：命の尊厳を育む道徳教育（聖書による授業） 仲義之  第13回：「考え、議論する道徳」の授業作り 内崎哲郎  第14回：道徳科の授業における指導方法・指導技術 内崎哲郎  第15回：道徳科の評価 内崎哲郎</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク）</li> <li>・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開</li> <li>・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業</li> <li>・作成した指導案のプレゼンテーション</li> <li>・アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポートの課題</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションや個人検討でまとめたものや学習指導案のプレゼンテーションとしてプロジェクターや教材提示装置を活用して行う。</li> <li>・授業のビデオ映像を活用する。</li> </ul>
評価方法	<p>40%：レポート（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。）  30%：学習指導案の作成と模擬授業  30%：定期試験）ルーブリックにしたがって評価する。）</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。</li> <li>・道徳教育の意義や目標、「特別の教科 道徳」の特質や目標について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。</li> </ul>
指定図書	・「小学校学習指導要領」

他は以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編	文部科学省／〔著〕	廣済堂あかつき	135	9784908255359	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校学習指導要領 ポイント総整理 特別の教科 道徳」永田繁雄（東洋館出版社）</li> <li>・「自ら学ぶ『道徳教育』」押谷由夫（保育出版社）</li> </ul>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修では、前時の授業の最後に示した内容について、課題意識をもたせ、課題解決に向けての見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。（30分）</li> <li>・事後学修では、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想をレポートにまとめる。（60分）</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法					
科目責任者	鈴木 光男					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	特別活動と総合的な学習の時間について教育課程上の位置づけと役割を理論的に検討する。そのうえで、教員の現代的な役割を確認したうえで、指導法の観点から特別活動と総合的な学習の時間の実践事例を検討する。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代学校の教育課程の基本理解をふまえ、特別活動と総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけと役割について捉えることができる。</li> <li>・教員の現代的な役割を理解したうえで、特別活動と総合的な学習の時間について教育実践の観点から具体的事例をもとに、指導法に関する知識と技法について理解している。</li> </ul>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;鈴木光男 梅澤収</p> <p>第1回：イントロダクション 鈴木光男 本授業の概要・進め方・評価について、学習指導や参考書を紹介する。</p> <p>第2回：現代学校の教育課程と学習指導要領①：小学校編 梅澤収</p> <p>第3回：現代学校の教育課程と学習指導要領②：中・高編 梅澤収</p> <p>第4回：特別活動の内容①：学級活動 梅澤収</p> <p>第5回：特別活動の内容②：児童会（生徒会）、クラブ活動、学校行事 梅澤収</p> <p>第6回：特別活動の実践① 梅澤収 事例を検討する。</p> <p>第7回：特別活動の実践② 梅澤収 事例と体験から実践を構想する（ワークシート）。</p> <p>第8回：グループワークⅠ 上記構想案の発表 梅澤収</p> <p>第9回：特別活動と総合的な学習の時間の体験①（ワークシート） 鈴木光男</p> <p>第10回：特別活動と総合的な学習の時間の体験②：グループ討論 鈴木光男 兵庫教育大学附属小学校の「うれしの活動」等の実践事例をもとに検討する。</p> <p>第11回：総合的な学習の時間のカリキュラムデザイン 鈴木光男 学習指導要領の前文・SDGs の関連から求められるカリキュラムや実践の方向</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の実践① 鈴木光男 事例を検討する。</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の実践② 鈴木光男 事例と体験から実践を構想する（電子黒板やミライシード等 ICT の活用）。</p> <p>第14回：グループワークⅡ 上記構想案の発表 鈴木光男</p> <p>第15回：授業全体の総括 鈴木光男</p>					
アクティブラーニング	グループでのディスカッション・グループワーク 小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業内の ICT 活用	Web 動画の視聴をしたり、指導資料を活用したりする。また、ICT を活用した授業実践を構想したりする。					
評価方法	授業の到達目標と授業への参加・取組状況を、3つの観点をもとに総合的に評価する。 ①レポート・試験（40%）（試験は、第2～8回の授業を範囲としたもの） ②課題設定、検討・議論、表現・発表等のコンピテンシー（40%） ③学習意欲・態度（20%）					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する。					
指定図書	小学校学習指導要領・同総則解説・特別活動解説・総合的な学習の時間解説					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK for school 総合的な学習の時間 <a href="https://www.nhk.or.jp/school/sougou/">https://www.nhk.or.jp/school/sougou/</a>				
オフィスアワー	鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育方法・技術論
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びのプロセスや具体的方法(授業・保育の展開)を理解する。子どもの思考力・表現力を促すための方法や教材・ICT活用等の方法・能力を身につける。さらに個々が指導計画案を作成し、実践と振り返り、課題の明確化を行い次に繋げられるようにする。
到達目標	1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;飯田真也、太田知実、太田雅子、竹本石樹、モーテンヴァテン &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：太田雅子・太田知実 これからの時代にふさわしい教育・育成すべき資質・能力とは</p> <p>第2回：太田知実 教師に求められる指導力とは：アクティブ・ラーニングの視点からの学習のあり方</p> <p>第3回：太田知実 授業づくりの原理</p> <p>第4回：太田知実 教育目標・学習評価論</p> <p>第5回：太田知実 学習環境の種類と工夫(小テスト)</p> <p>第6回：太田雅子・太田知実 学習の形態、保育の形態</p> <p>第7回：太田雅子(ゲストスピーカー) 学びと教材の活用の実際①</p> <p>第8回：太田雅子(ゲストスピーカー) 学びと教材の活用の実際②(教材の考案)</p> <p>第9回：竹本石樹 情報教育メディアの活用と技術(基本)</p> <p>第10回：竹本石樹 情報教育メディアの活用と技術(実践)</p> <p>第11回：モーテンヴァテン 探究型学習・問題解決学習の実践に向けての方法①</p> <p>第12回：モーテンヴァテン 探究型学習・問題解決学習の実践に向けての方法②</p> <p>第13回：太田雅子・モーテンヴァテン・飯田真也 保幼：コンセプトマップの活用法 小：学習問題(課題)と思考①：板書による提示</p> <p>第14回：飯田真也 学習問題(課題)と思考②：教師の「問い」と子どもの反応の受け止め</p> <p>第15回：飯田真也 学習問題(課題)と思考③：アクティブラーニングを支える指導の技とその構造</p>
アクティブラーニング	指導計画、教材研究と教材活用、情報メディアの活用、アクティブラーニングを視点とした学習等、実際の授業を想定した実技を行う。
授業内の ICT 活用	ICT を用いて教材作成を行う。
評価方法	授業への取り組み：20%

	小テスト：30% 課題提出物（振り返りレポート）：50%				
課題に対する フィードバック	指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。				
指定図書	必要に応じて資料として配布する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	必要に応じて授業で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い模擬授業・保育等の指導計画作成や準備をすること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	飯田 真也 (2712 研究室) メール: shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00				
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園・小学校教諭・中学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	生徒・進路指導論				
科目責任者	内崎 哲郎				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	学校は子どもを育てる場であるが、正確には、子ども自ら育つように働きかける場である。そのために欠かせないことが生徒指導と進路指導であり、両指導とも教育課程の内外を通して行うものである。本授業では、いじめや不登校等の課題を切り口にしながらも、すべての子どもが「学校が楽しい」と実感でき、かつ、子どもたちの主体性や自己有用感を育むために必要な働きかけについて各自が考えていくことで、学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義を理解することを主目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義について理解できる。</li> <li>2. 子どもの主体性と自己有用感を育むために必要な視点を理解できる。</li> <li>3. 生徒指導と進路指導はすべての教職員や家庭・地域等と連携をして行うことで効果が上がることを理解できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：生徒指導の意義と原理  第2回：教育課程と生徒指導  第3回：生徒指導体制と展開  第4回：小学校の生徒指導体制  第5回：児童理解  第6回：問題行動  第7回：いじめの対応  第8回：不登校の対応  第9回：生徒指導に関する法と制度  第10回：生徒指導の秘訣  第11回：進路指導の変遷  第12回：キャリア教育  第13回：小学校におけるキャリア教育  第14回：キャリア・カウンセリング  第15回：学校・家庭・地域と連携して取り組む生徒指導・進路指導</p>				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク）</li> <li>・講義中心の授業であるが、レポートの作成を通して、表現志向で、思考力を活性化させるため、アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポートの課題を出す。</li> </ul>				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進行は、プロジェクターや教材提示装置を活用して行う。</li> <li>・ビデオ映像を活用する。</li> </ul>				
評価方法	<p>60%：レポート（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。）  10%：授業、レポートへの取組姿勢  30%：定期試験（ルーブリックを用いて評価する。）</p>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。</li> <li>・定期試験（生徒指導や進路指導の役割や意義について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。）</li> </ul>				
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校学習指導要領」</li> <li>他は以下に記載します。</li> </ul>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
生徒指導提要—令和4年12月—	文部科学省	東洋館出版社	900	9784491051758	

参考図書	「生徒リーフ」(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター) 他は以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
研修でつかえる生徒指導事例50	勝平教著	学事出版	1800	9784761922917	
小学校キャリア教育の手引き [改訂版]	.	教育出版	780	9.7843163003e+12	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修では、前時の授業の最後に示した内容について、課題意識をもたせ、課題解決に向けて見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。(30分)</li> <li>・事後学修では、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想をレポートにまとめる。(60分)</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育相談				
科目責任者	中村 洋子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	学校や幼児教育領域において教育相談やカウンセリングマインドの理解を深めることは、子どもの健全な育成にとって欠かせない領域である。この授業では、子どもの発達に即した教育相談の理論と相談援助の具体的事例をもとに実践力を育成する。また子どもや保護者への具体的な対応を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義や基礎となる諸理論を理解する。</li> <li>2. カウンセリングマインドなど教員としての基本的な姿勢、技法を学ぶ。</li> <li>3. 子ども理解や保護者への対応の方法について理解する。</li> </ol>				
授業計画	<p>授業計画 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 現代の子育てをめぐる状況と教師に求められる役割</p> <p>第2回：教育相談とは何か 教師の行う教育相談の役割と特徴</p> <p>第3回：教育相談の理論 カウンセリングとカウンセリングマインドの考え方を理解する カウンセリングの基礎にある代表的な理論</p> <p>第4回：相談援助の技術 ①カウンセリングマインドを活かす聴き方</p> <p>第5回：相談援助の技術 ②カウンセリングマインドを活かす保護者との関係づくり</p> <p>第6回：子ども理解 ①発達の視点から子どもを理解する</p> <p>第7回：子ども理解 ②問題のアセスメント アセスメントの対象と方法</p> <p>第8回：子ども理解 ③問題行動のとらえ方</p> <p>第9回：いじめの問題への対応と現状</p> <p>第10回：不登校への対応と現状</p> <p>第11回：特別な支援を必要とする子どもへの対応 ①理解と支援の考え方の基本</p> <p>第12回：特別な支援を必要とする子どもへの対応 ②支援の実際の基礎</p> <p>第13回：障害を持つ子ども・気になる子どもの保護者への対応</p> <p>第14回：「難しい保護者」・不適切な養育環境への対応</p> <p>第15回：地域社会や関係機関との連携と協働</p>				
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた教育相談支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	筆記試験 (60%)、課題提出物 (30%)、授業への取り組み・発表 (10%) 計 100% (課題提出物については、講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容などの全体から判断します)				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
教師のための教育相談	西本絹子	萌文書林	2000	9784893473172	
参考図書	『カウンセリングテクニック 2 「気にしたい子」「困っている子」と関わるカウンセリング』諸富祥彦. 金山健一. 佐々木肇子 (2022) ぎょうせい 『カウンセリングテクニック 3 特別支援と愛着の問題に生かすカウンセリング』諸富祥彦.				

	曾山和彦, 米澤好史 (2022) ぎょうせい 『カウンセリングテクニック 4 保護者とのよい関係を積極的に作るカウンセリング』 諸富祥彦, 黒沢幸子, 神村栄一 (2022) ぎょうせい				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分あててください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が教育相談支援における実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	幼児理解の理論と方法				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	教育・保育の専門職としての幼児理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて学ぶ。具体的には、1. 幼児理解の具体的な方法である観察、記録、省察・保育の改善について、実際に体験しながら理解する。2. 教師間・保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。3. 発達支援や幼小接続における幼児理解のあり方について検討する。4. 保護者支援における知識・技術についての理解を深める。				
到達目標	1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方及び基礎的態度について理解する。 2. 幼児理解の具体的な方法について理解し実践する。 3. 幼児理解と評価（反省・改善）について理解する。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：幼児理解とは 子どもを取り巻く社会 家庭と子どもの成長・発達における課題</p> <p>第2回：適切な幼児理解に向けて①：子どもとの信頼関係作り 適切な幼児理解に向けて②：子どもの行動と内面の理解</p> <p>第3回：適切な幼児理解に向けて③：教師間での情報共有・学び合い 適切な幼児理解に向けて④：保護者との情報共有・相互理解</p> <p>第4回：幼児理解と評価の具体的な方法①：触れ合いを通して・記録と考察 幼児理解と評価の具体的な方法②：観察・記録の工夫</p> <p>第5回：幼児理解と評価の具体的な方法③：エピソード記録を取ってみる 幼児理解と評価の具体的な方法④：記録からの読み取りー学び・発達と援助・指導 ドキュメンテーション・ラーニング・ストーリー</p> <p>第6回：幼児理解と評価の具体的な方法⑤：記録からの読み取り 集団生活と教師の役割</p> <p>第7回：幼児理解と評価の具体的な方法⑥：記録からの読み取り いざこざ・葛藤場面</p> <p>第8回：幼児理解と評価の具体的な方法⑦：指導計画と評価 幼児の姿と援助・指導の改善 発達上の課題が見られる子どもの理解及び保護者に対する個別支援ーカウンセリングの知識と技術 幼児理解と評価の具体的な方法⑧：学びや発達の連続性と小学校への接続 幼児理解のための原理・対応の方法についての総括（小テスト）</p>				
アクティブラーニング	現場での観察・記録をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み（活動への参加、記録、ディスカッション等）：40% 学びの記録（小レポート）：20% 小テスト：40% ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	各回に記入する学びの記録（小レポート）をもとに、次の授業でフィードバックや解説を行う。				
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」「幼稚園教育要領（解説付き）」 他は以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼児理解に基づいた評価 平成3 1年3月	文部科学省／著	チャイルド本社	250	9784805402832	

参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。 原則として40分程度の事前・事後学習をすること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	情報活用指導法
科目責任者	竹本 石樹
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の   位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	「情報活用能力」とは、どのような能力であるのかについて様々な文献やデータを整理することを通して理解を深める。また理論と実践を往還させながら、学習指導、校務推進、情報モラル等における「情報活用能力」の確実な育成を目指す。
到達目標	世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である「情報活用能力」を育成する。 引用：「教育の情報化に関する手引-追補版-」（文部科学省，2020）
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス「情報活用能力」概説（学習指導、校務推進、情報モラル）</p> <p>第 2 回：学習指導（個別場面、交流場面等）における ICT 活用①（講義と模擬授業準備）</p> <p>第 3 回：学習指導（個別場面、交流場面等）における ICT 活用②（模擬授業とリフレクション）</p> <p>第 4 回：学習指導（思考場面、協働学習場面等）における ICT 活用①（講義と模擬授業準備）</p> <p>第 5 回：学習指導（思考場面、協働学習場面等）における ICT 活用②（模擬授業とリフレクション）</p> <p>第 6 回：校務推進における ICT 活用の概要と実践</p> <p>第 7 回：情報モラル教育、メディア・リテラシー教育の概要と実践</p> <p>第 8 回：これからの学校と ICT 活用（総括）</p> <p>定期試験</p>
アクティブラーニング	
授業内の ICT 活用	
評価方法	授業振り返りシート（40%）、レポート（60%）

課題に対するフィードバック	
指定図書	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校 学習指導要領（平成 29 年告示）」（文部科学省, 2017）</li> <li>・「教育の情報化に関する手引-追補版-」（文部科学省, 2020）</li> <li>・「小学校プログラミング教育の手引（第三版）」（文部科学省, 2020）</li> </ul>
事前・事後学修	
オープンエデュケーションの活用	
オフィスアワー	
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	



科目名	教育実習指導 (幼)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5, 6, 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	幼稚園、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、幼稚園、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬保育・模擬授業などに取り組み、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	1. 教育実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 2. 実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 3. 実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹、太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。</p> <p>(1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 研究授業の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解</p> <p>2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。併せて、教育内容の理解と深化を図る。</p> <p>&lt;授業計画と担当者&gt;</p> <p><b>【事前指導】</b></p> <p>第1回 (杉山・渡邊) : オリエンテーション、事前訪問マナー、手続き等  第2回 (杉山・渡邊) : プレ実習と保育者の配慮点について (クリストファーこども園)  第3回 (渡邊) : クリストファーこども園におけるプレ実習  第4回 (渡邊) : 3・4・5 歳児の発達の特徴  第5回 (杉山・渡邊) : 指導計画について  第6回 (杉山) : 実習日誌について  第7回 (太田・杉山) : 実習課題・ルーブリックの作成  第8回 (太田・渡邊・杉山) : 模擬保育① (計画)  第9回 (太田・渡邊・杉山) : 模擬保育② (実践)  第10回 (太田・渡邊・杉山) : 模擬保育③ (振り返り)  第11回 (全員) : 実習直前指導</p> <p><b>【事後指導】</b></p> <p>第12回 (杉山・渡邊) : 実習の振り返り (幼稚園教諭の役割)  第13回 (杉山・渡邊) : 実習の振り返り (グループディスカッション)  第14回 (全員) : 3 年生に向けての実習報告会①  第15回 (全員) : 3 年生に向けての実習報告会②・まとめ</p>
アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	課題 (20%)、授業への取り組み (20%)、レポート (20%)、

	実習報告会 (20%)、模擬授業の教材研究・指導案 (20%) 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。				
課題に対する フィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部 科学省／〔著〕 厚生 労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
幼稚園教育要領解説 平成30年 3月		フレーベル館	240	9.7845778145e+12	
参考図書	なし。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】 (60分) 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習園／実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する。</p> <p>【事後学修】 (60分) 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す。</p>				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室)、鈴木 光男 (1613 研究室)、飯田 真也 (2712 研究室)、竹本 石樹、 杉山沙旺美 (2609 研究室)、太田 雅子 (5707 研究室)、渡邊拓真 時間については初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園教諭」「保育士」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業 の実施について	なし				

科目名	教育実習指導 (小)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では ICT を活用した授業の在り方、日常的な授業を行うなどして実践力を培う。事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義を理解しながら、実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。</li> <li>2. 教育実習生として学校の教育活動に参画する心構えを形成し、教育実習および教員免許取得までに習得すべき知識や技能を理解する。教育現場において教員に求められる実践および実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</li> <li>3. 教育実習時の成果や課題をまとめることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育実習の意義・目的・内容の理解</li> <li>(2) 教育実習の方法の理解</li> <li>(3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子供の人権尊重についての理解。</li> <li>(4) 教育実習課題の明確化</li> <li>(5) 研究授業の準備、指導</li> <li>(6) 実習記録の意義・方法の理解</li> <li>(7) 実習施設の理解</li> </ol> </li> <li>2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。併せて、教育内容の理解と深化を図る。 (事前指導)</li> </ol> <p>第1回 オリエンテーション(1)～(3) 第2回 実習校の教育目標、研究テーマ、特長等への理解 第3回 教育実習に向けてⅠ 第4回 教育実習に向けてⅡ 第5回 学びを支える手立てとしての ICT 活用 第6回 ICT を活用した授業 第7回 ICT 活用を踏まえた指導案作成 (国語科・算数科) 第8回 指導案作成 第9回 指導案分析 第10回 模擬授業 第11回 生徒指導と学級経営 第12回 教育実習課題の明確化 (事後指導) 第13回 ふりかえり (面接) 第14回 第15回 報告会</p>
アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内の ICT	なし

活用						
評価方法	授業への取り組み (25%)、レポート (25%)、 実習報告会 (25%)、模擬授業の教材研究・指導案 (25%) 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。					
課題に対する フィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
小学校学習指導要領 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	201	9784491034607		
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する (60分)。</p> <p>【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す (60分)。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) 時間については初回授業時に提示する。 鈴木 光男 (1613 研究室) 飯田 真也 (2712 研究室) 竹本 石樹					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	教育実習（幼・小）（幼）				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	4 単位（120 時間） 選択 5, 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	幼稚園・認定こども園または小学校インターンシップ I II III で実習した小学校で、4 週間の実習を行う。実習の主な内容は、幼稚園、①見学・観察、②保育参加・補助、③部分実習、④全日実習を体験する。小学校では、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導（授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語（外国語活動）などはその中から 1~2 時間程度は担当する）、④全日指導。小学校インターンシップ I II III から連続するため、本科目では③④が中心となる。				
到達目標	1. 幼稚園、小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 園児、児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 園児、児童の実態に即した指導案（略案・細案）を立て、実践・評価できる。				
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹、太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容（段階）は、①見学・観察、②保育・教育参加・補助、③部分実習／部分指導、④全日実習／全日指導を体験する。この実習では幼稚園、小学校における教育の実際を体験することにより、園児、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習校からの評価（40%） 実習日誌・指導案等（30%） 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館	240	9784577814475	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9.7845778145e+12	
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p><b>【事前学修】</b> 各学年の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、指導計画案／学習指導案は園児、児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に関する目標や学習過程のみの略案（60分）。</p> <p><b>【事後学修】</b> 実習終了後は、幼稚園、小学校教諭の仕事・授業の進め方や園児、児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする（60分）。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重浩之（2607 研究室） メール：hirokyu-f@seirei.ac.jp 杉山沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」「幼稚園教諭」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育実習 (幼・小) (小)				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	4 単位 (120 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	小学校インターンシップ I II で実習した小学校で、3 週間の実習を行う。実習の主な内容は、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導 (授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語 (外国語活動) などはその中から 1~2 時間程度は担当する)、④全日指導。小学校インターンシップ I II から連続するため、本科目では③④が中心となる。				
到達目標	1. 小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 児童の実態に即した指導案 (略案・細案) を立て、実践・評価できる。				
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容 (段階) は、①見学・観察、②教育参加・補助、③部分指導、④全日指導を体験する。この実習では小学校における教育の実際を体験することにより、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習校からの評価 (40%) 実習日誌・指導案等 (30%) 学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	東洋館出版社	201	9784491034607	
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	<b>【事前学修】</b> 各学年の子供の発達の理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、学習指導案は児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に				

	<p>関する目標や学習過程のみの略案 (60 分)。</p> <p><b>【事後学修】</b></p> <p>実習終了後は、小学校教諭の仕事・授業の進め方や児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする (60 分)。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	教職実践演習（幼・小）
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2単位（30時間） 選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	<p>授業は大きく2つに分けることができる。</p> <p>第1は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。</p> <p>第2は、教育現場、関連機関における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。</p>
到達目標	<p>大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の4項目について確認する。</p> <p>①教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること</p> <p>②社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること</p> <p>③幼児・児童理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること</p> <p>④領域・教科等の指導力の基礎を形成していること</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;鈴木、飯田、福重、竹本、渡邊</p> <p>*学修進度やその時々保育・教育動向などを踏まえて柔軟に学修内容を変更したり、授業の順番を入れ替えたりする。その場合は、事前に連絡する。</p> <p>第1回 グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WebClass 教職カルテに基づくここまでの学修・実習のふり返り</li> <li>・令和の日本型教育やこれからの保育・教育について検討・意見交換</li> </ul> <p>第2回 ICTを採り入れた保育・教育実践事例の検討と意見交換（授業・保育における技の実際）：竹本・鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを採り入れた新たな授業・保育構想</li> </ul> <p>第3回 研究授業・責任実習 模擬授業発表合評会：鈴木・飯田・福重・竹本／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな授業・保育構想による模擬授業・模擬保育の発表合評会</li> <li>・板書の練習（チョークの持ち方・書き方・使い方等）</li> <li>・電子黒板等 ICT の活用</li> </ul> <p>第4回 演習（小）「板書指導・ノート指導のコツ」（幼）「子供理解のコツ」：福重／渡邊</p> <p>第5回 講義「子供の主体性を育むかわり方」：鈴木</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチングスキルの体験的实践を交えたコーチングの理解</li> </ul> <p>第6回 講義「教師の仕事と心得」：飯田</p> <p>第7回 講義（浜松市元校長・園長ゲストスピーカー）「幼稚園と小学校の教育」：鈴木／渡邊</p> <p>第8・9回 教育者としての感性①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（幼）こども園やたっくんでの実践：渡邊</li> <li>・（小）IB教育の探究的な実践の検討：鈴木</li> </ul> <p>第10回 コミュニティスクールの実践：鈴木</p> <p>第11回 講義とグループ討論「持続可能な社会の創り手を育成する教育」：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・society5.0やSDGs・ESDなど今日的な課題を踏まえた教育の検討</li> </ul> <p>第12回 特別支援学校の授業参観（交流）：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別（発達）支援教育の理解</li> </ul> <p>第13回 特別支援学校の教育概要の説明：鈴木／渡邊</p> <p>第14回 特別支援学校の授業や保育の参観（事後研修）：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校参観訪問を通じた学びの共有</li> </ul> <p>第15回 まとめ—教師になることへの期待と希望：鈴木・飯田・福重・竹本／渡邊</p>

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通じた課題把握と模擬授業の教材研究					
授業内の ICT 活用	電子黒板等 ICT の活用やミライシードなどを使った授業実践事例に学び、基本的な扱いを理解する。					
評価方法	学習への積極性・参加態度など：30% リアクションペーパーや授業・保育構想などの課題：40% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」「幼稚園教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国語科指導法					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	本授業では、国語科指導の意味・役割、技術を中心に、国語科を教えることは子どもにとって何を意味するのか、子どもにとって価値ある学びとはどのようなものか、人間として成長していく子どもに、国語科は何ができるのか、を考えていく。 「みんなで楽しむ」ことを基本に、実のある授業にしていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科における学びの問題と教育方法の課題について理解する。</li> <li>・国語科における学びの問題に答え得る授業とは何かを理解する。</li> <li>・模擬授業のデザインと実践を通して、基礎的実践力を身につける。</li> </ul>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンスー学びの問題と教育方法の課題</p> <p>第2回：学びの問題に答え得る授業Ⅰー教師の言葉、教授行為を中心に</p> <p>第3回：学びの問題に答え得る授業Ⅱーこれからの教育方法（聞く・話す）</p> <p>第4回：学びの問題に答え得る授業Ⅲーこれからの教育方法（書く）</p> <p>第5回：学びの問題に答え得る授業Ⅳーこれからの教育方法（読む）</p> <p>第6回：学びの問題に答え得る授業Ⅴーこれからの教育方法（書写）</p> <p>第7回：学びの問題に答え得る授業Ⅵーこれからの国語科教育方法を中心に（ICTの活用法を含む）</p> <p>第8回：学びの問題に答える授業からの構想Ⅰ（教材研究）</p> <p>第9回：学びの問題に答える授業からの構想Ⅱ（指導案作成）</p> <p>第10回：模擬授業と分析Ⅰ（聞く・話す）</p> <p>第11回：模擬授業と分析Ⅱ（書く）</p> <p>第12回：模擬授業と分析Ⅲ（読む）</p> <p>第13回：模擬授業と分析Ⅳ（書写）</p> <p>第14回：模擬授業と分析Ⅴ（ICT活用）</p> <p>第15回：新しい実践を創造するためには</p>					
アクティブラーニング	毎時間、提出される教育課題に対し、小集団で主体的、対話的にどのような指導方法が良いのか話し合い、解決していく。また、模擬授業は個人で立案、発表し、全体で考察する。					
授業内の ICT 活用	グループ発表、模擬授業でのプレゼンテーションではパワーポイントの利用を推奨する。 WebClass の活用					
評価方法	(1)授業に対する姿勢 15% (2)授業後レポート（毎時間） 5%、 (3)模擬授業 30% (4)最終確認試験 50% 計 100%					
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
小学校学習指導要領解説 国語編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	162	9784491034621		
参考図書	授業中に随時資料等を配布する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別	

					／備考
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClass にまとめ、次回の授業に臨む。（40分程度）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会科指導法					
科目責任者	中村 俊哉					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等社会科の理論、目標、内容、教育方法、他教科の関連、情報機器の活用などの基礎的知識を理解することができる。</li> <li>・指導案を作成し、模擬授業などを行うことができる。</li> </ul>					
到達目標	初等社会科教育の理論と実践、学習指導要領の目標・内容・方法について理解したうえで、授業を構成し、展開できる方法を身につけ、実際に指導案を作成し、模擬授業ができるようにする。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・小学校社会科授業実践と分析</p> <p>第2回：小学校社会の目標・内容・指導上の留意点</p> <p>第3回：小学校社会科の成立過程と変遷</p> <p>第4回：小学校社会の原理と現状と課題－社会的味方・考え方・問題解決・主体性・思考力・表現力・公民的資質等－</p> <p>第5回：小学校社会科の単元計画－幼児教育から高等学校までの系統性・他教科との関連－</p> <p>第6回：小学校社会科の教育課程－学習指導要領・指導書・教科書の関連－</p> <p>第7回：小学校社会科地域学習の学習指導－授業実践記録から（児童の実態と教材性の重要性）－</p> <p>第8回：学習指導案の書き方①－教科書や指導案を比較分析・指導案の構成・授業展開・評価－</p> <p>第9回：学習指導案の書き方②－児童・地域の実態・情報機器の利用・板書の役割－</p> <p>第10回：学習指導案の作成・検討</p> <p>第11回：模擬授業・模擬授業の分析①（地域学習）</p> <p>第12回：模擬授業・模擬授業の分析②（生活環境を支える諸活動）</p> <p>第13回：模擬授業・模擬授業の分析③（産業・国土学習）</p> <p>第14回：模擬授業・模擬授業の分析④（歴史・政治）</p> <p>第15回：模擬授業・模擬授業の分析⑤（国際理解・環境）まとめ</p>					
アクティブラーニング	模擬授業やグループワークを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（20%）、指導案・模擬授業（20%）					
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	事前学修としては、配布したプリントを行う。 事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。(目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	算数科指導法					
科目責任者	飯田 真也					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	算数科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について ICT の活用法を含めて学ぶ。そのうえで、実際に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行うことで、算数科の授業を担当するための指導力を身につける。					
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：授業とは何か：算数授業のゴール</p> <p>第2回：目標・全体構造・系統性の理解及び年間計画作成</p> <p>第3回：「プログラミング教育」の理解を深める ICT 活用と教材開発</p> <p>第4回：「数と計算」「図形」のつまずき分析と対策法検討</p> <p>第5回：「測定」「変化と関係」「データの活用」のつまずき分析と対策法検討</p> <p>第6回：教科書研究から指導法を検討し、指導案を作成する</p> <p>第7回：「数と計算」低学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第8回：「数と計算」中学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第9回：「数と計算」高学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第10回：「図形」低学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第11回：「図形」高学年の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第12回：「測定」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第13回：「変化と関係」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第14回：「データの活用」の学習指導法と模擬授業（反省・改善点検討を含む）</p> <p>第15回：まとめ及び授業内容理解度調査</p>					
アクティブラーニング	つまずき分析の協議を通した子どもの思考過程の探究 模擬授業の立案、実施、授業検討会の実施					
授業内の ICT 活用	WebClass の活用					
評価方法	授業態度・模擬授業・振り返りの記述・課題（算数教科書研究レポート・指導案）60% 授業内容理解度調査 40% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。					
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。 つまずき分析や模擬授業をもとにフィードバック、並びにフィードフォワードする。					
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）算数編』・文部科学省・東洋館出版社					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	必要に応じて授業で紹介					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	第1回～6回：学習指導要領該当箇所の精読（事前・事後学習）					

	第7回～14回：指導案の作成と模擬授業の準備、振り返り（事前・事後学習） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間 80 分=2 回分を要する）
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	理科指導法				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義やグループワークを通して、授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を整理する。</li> <li>・授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を活用し、3～4人のグループで、学習指導案や板書計画を作成し、教材、教具等を準備し模擬授業を行う。</li> <li>・模擬授業後には、全体で授業リフレクションを行う。参加者は、模擬授業に対するコメント（優れている点、課題となる点や改善策等）を記述し、発表する。授業者は、コメントを参考にした改善学習指導案、改善板書計画を作成し、提出する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の論理（目標、内容、評価等）と子どもの論理（資質・能力、見方・考え方、自然認識等）が調和したカリキュラム設計、授業設計、学習評価計画を行い、学習指導案を作成することができる。【マクロ的視点】</li> <li>・子供の学びを深めたり広げたりする指導技術（発問、板書、教材提示、情報機器及び教材の活用等）を学習指導案へ取り入れることができる。【ミクロ的視点】</li> <li>・模擬授業を行い、授業リフレクションを通して授業改善の視点を身に付け、自主・自律的な授業改善に結び付けることができる。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：「理科」授業を活かした「理科指導法」</p> <p>第2回：理科授業におけるマクロ的視点の理解①</p> <p>第3回：理科授業におけるマクロ的視点の理解②</p> <p>第4回：理科授業におけるミクロ的視点の理解①</p> <p>第5回：理科授業におけるミクロ的視点の理解② *情報機器及び教材の活用</p> <p>第6回：模擬授業計画（学習指導案作成、板書計画作成、背景となる学問領域の理解）</p> <p>第7回：模擬授業とリフレクション①：小学校3年生の内容：A区分</p> <p>第8回：模擬授業とリフレクション②：小学校3年生の内容：B区分</p> <p>第9回：模擬授業とリフレクション③：小学校4年生の内容：A区分</p> <p>第10回：模擬授業とリフレクション④：小学校4年生の内容：B区分</p> <p>第11回：模擬授業とリフレクション⑤：小学校5年生の内容：A区分</p> <p>第12回：模擬授業とリフレクション⑥：小学校5年生の内容：B区分</p> <p>第13回：模擬授業とリフレクション⑦：小学校6年生の内容：A区分</p> <p>第14回：模擬授業とリフレクション⑧：小学校6年生の内容：B区分</p> <p>第15回：総括（改善学習指導案の検討、改善板書計画の検討）</p>				
アクティブラーニング	模擬授業、ディスカッション、グループワーク、リフレクションを融合させて行う。				
授業内の ICT 活用	Google for Education 系アプリ、デジタル教科書、実物投影機、プレゼンテーションソフト等を効果的に活用する。				
評価方法	模擬授業コメント 30%、改善指導案（板書計画を含む） 40%、授業の取組 30%				
課題に対するフィードバック	模擬授業のための学習指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバックする。				
指定図書	「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	適宜プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	学習指導案の作成と模擬授業コメントの記述、改善指導案の作成等（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修）（目安時間1時間）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生活科指導法				
科目責任者	飯田 真也				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	生活科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について学ぶ。そのうえで、幼小接続を視点としたり、教科書研究を基にしたりした学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業の実施及び授業検討会を行うことで、生活科の授業を担当するための指導力を身につける。				
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：スタートカリキュラムとしての生活科の意義：幼小接続の課題</p> <p>第2回：幼児教育と小学校教育の特徴：幼小接続カリキュラムを構想する視点</p> <p>第3回：幼小接続単元構想</p> <p>第4回：幼小接続単元構想に基づく学習指導案の検討・作成</p> <p>第5回：幼小接続単元の実際：「学校生活」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第6回：幼小接続単元の実際：「生活や出来事」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第7回：幼小接続単元の実際：「地域生活」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第8回：幼小接続単元の実際：「公共施設の利用」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第9回：幼小接続単元の実際：「飼育・栽培」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第10回：接続単元の実際：他教科横断の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第11回：接続単元の実際：他領域横断の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第12回：ICTを含めた教材開発の実際</p> <p>第13回：教科書研究に基づいた単元構想・指導案立案</p> <p>第14回：教科書研究に基づいた単元構想の実際①：協議と修正案作成</p> <p>第15回：教科書研究に基づいた単元構想の実際②：協議と修正案作成</p>				
アクティブラーニング	現場実践の動画による検討や考察、協議 グループ等による模擬授業の立案と発表、協議				
授業内の ICT 活用	WebClass の活用				
評価方法	<p>次の評価項目を得点化して評定します。</p> <p>出席点：30－欠席数×6 ※欠席数は授業前後調査参加度による</p> <p>幼小接続単元指導案及び授業：30</p> <p>個人単元構想指導案及び協議：20</p> <p>授業振り返り：10</p> <p>模擬授業の質：10</p> <p>※合計 60 点に達していても、(模擬) 授業として未達の場合は、特別再試験を実施します。</p>				
課題に対するフィードバック	模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバックする。				
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）生活編』・文部科学省・東洋館出版社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要に応じて授業で紹介				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	指導案の作成と模擬授業の準備、修正案作成（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修）（指導案関係：目安時間1時間/週） 課題レポート：8時間程度				
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続				
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:30（第2水曜日を除く）				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	音楽科指導法
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	1) 学習指導に必要な知識や指導力を身につける。 2) 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 3) 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：授業づくりの基礎1 学習指導要領を基に「教育内容」「教材」「評価」などを整理する。</p> <p>第2回：授業づくりの基礎2 学習指導要領を基に「音楽の要素」「ICT」「指導の留意点」などを整理する。</p> <p>第3回：音楽遊び 音楽遊びとその展開について実践を通して理解する。</p> <p>第4回：弾き歌いの授業 第1～3 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第5回：弾き歌いの授業 第4～6 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第6回：合唱の授業 合唱教材を取り上げその指導方法について理解する</p> <p>第7回：合唱の授業 合唱曲を仕上げその指導方法と評価方法について理解する。</p> <p>第8回：器楽の授業 鍵盤ハーモニカを教材で取り上げ基本的な奏法と指導法について理解する。</p> <p>第9回：器楽の授業 打楽器、鍵盤楽器等用いて合奏を行いその指導法について理解する。</p> <p>第10回：音楽鑑賞の授業 小学校の鑑賞教材を取り上げその指導法について理解する。</p> <p>第11回：音楽づくりの授業 音楽づくりを経験しその指導法について理解する。</p> <p>第12回：学習指導案の作成 学習指導要領を基に単元計画と指導案の作成について理解する。</p> <p>第13回：学習指導案の作成 指導案を作成しその作成方法について理解する。</p> <p>第14回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を理解する。</p> <p>第15回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を振り返る。</p> <p>定期試験</p>
アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修する時間を設定しています。 音楽鑑賞や演奏に対してグループや個人で意見交換する場を設け、聴いた「音楽や音」からどのようなことを感じたのかを表出し合い学びを深めます。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。 また、他国の教育法についても動画を通して学修する。
評価方法	指導案の評価 30% 共通教材の弾き歌い 30% 定期試験 40% (レポート)
課題に対する	指導案の作成、弾き歌いや歌唱表現について課題ごとに講評します。

フィードバック					
指定図書	下記を指定図書とします。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
【改訂版】最新初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用	初等科音楽教育研究会 ／編	音楽之友社	2000	9784276821026	
参考図書	参考図書・資料については適宜紹介・配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	指定図書を読み、音楽科の指導方法・理論、各楽曲の譜読みを事前に行っておいて下さい。 事前・事後学修はそれぞれ1時間程度行って下さい。				
オープンエデュケーションの活用	小学校の児童が演奏する器楽や合奏に関する動画を視聴し鑑賞教育を実施します。				
オフィスアワー	二宮 貴之 (2602 研究室) メール: takayuki-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	図画工作科指導法
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を、子供の成長と表現・製作の発達といった観点から、また“Education through Art (美術による教育)”と“Education for Art (美術の教育)”の観点や、美術教育の歴史の変遷などからとらえ直し、この教科特有の意味や価値について認識を深める。その上で、具体的な題材や授業を構想する力、子供の自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量的の形成をはかるものとする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術教育の歴史の変遷と今日的な課題について理解する。</li> <li>2. 図画工作科の教育的意味や価値について理解し、題材や授業を構想し、作品を試作し指導案を作成することができるようになる。</li> <li>3. 様々な表現方法に応じた子供の表現のあり方を理解し、子供の表現活動について理解することができるようになる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>美術教育の理念と課題</p> <p>第1回：美術教育の目標／美術教育の変遷—その理念と思想— ・図画工作科学習の課題と意義を考察・検討する。</p> <p>第2回：子供の成長と表現 ・明治期の臨画教育や「〇〇式」と言われる描画指導など美術教育における様々な指導法の検討から新学習指導要領で求める図画工作科のあり方を検討・考察する。</p> <p>第3回：図画工作科の性格と目標・評価 / 図画工作科の学習指導の基本 ・図画工作科で育む学力と自発的・主体的な学習者を育てるための教師のあり方を考察・検討する。</p> <p>第4回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—① ・造形遊びについて理解し、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第5回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—② ・表したいことを絵に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第6回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—③ ・表したいことを立体に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第7回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—④ ・表したいことを工作に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第8回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—⑤ ・浜松市美術館等と連携・協力した鑑賞のあり方や対話型鑑賞・アートゲームなどの実践的な題材や ICT を活用した指導の実例を通じて、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>授業づくり</p> <p>第9回：学習指導案の作成① ・学習指導案の全体的な書式をはじめ目標や評価規準、児童観・題材観・指導観などについてそれぞれに記入するポイントを理解する。</p> <p>第10回：学習指導案の作成② ・試作することを通して学習過程を構想し、導入の工夫や ICT の効果的な利用による意欲化の手立てを考える。</p> <p>第11回：指導案の作成③</p>

	<p>・各自作成した学習指導案をもとにしてした模擬授業を構想し、その準備を進める。</p> <p>第12回：模擬授業の公開・検討①</p> <p>・各自の学習指導案をもとに模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第13回：模擬授業の公開・検討②</p> <p>・前時の学びを互いに振り返り、課題を絞って模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第14回：模擬授業の公開・検討③</p> <p>・これまでの学びを総括するように模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>・図画工作科学習による主体的・対話的で深い学びを検討し、協議することで、本科目の総括をする。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
アクティブラーニング	<p>グループでのディスカッション・実践現場の観察を通じた課題把握と模擬授業の教材研究・模擬授業の公開</p> <p>小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。</p>				
授業内の ICT 活用	<p>Web 動画の視聴をしたり、各教科書会社のデジタル教科書や指導資料を活用したりする。</p> <p>また、模擬授業で ICT を活用した授業実践に取り組んだりする。</p>				
評価方法	<p>(1) 授業で課した課題の評価…40%</p> <p>*試験はなく、学習指導案と試作した作品、並びに模擬授業に関する課題レポートを課す。</p> <p>(2) 授業態度（事前・事後学修の提出物、参加態度など）…60%</p> <p>*毎時間の作品の制作態度や事前・事後学修をまとめたスケッチブックなども評価材料とし、総合的に判断し評価する。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。</p> <p>レポートはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する。</p>				
指定図書	<p>大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	「小学校学習指導要領」（文部科学省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）				
オープンエデュケーションの活用	<p>・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。</p> <p>NHK「キミなら何つくる？」</p> <p><a href="https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000">https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000</a></p>				
オフィスアワー	鈴木 光男（1613 研究室） メール：mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	家庭科指導法				
科目責任者	小清水 貴子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	学習指導要領等を通して、小学校家庭科の教科目標、指導内容と評価、情報機器及び教材の効果的な活用を含めた指導法について学びます。学習指導案の作成、情報機器を活用した模擬授業の実施と振り返りを通して、子どもの認識や思考等の実態を視野に入れた授業設計や授業改善の視点を身につけます。				
到達目標	学習指導要領に示された小学校家庭科の教育目標や指導内容、指導方法について理解するとともに、情報機器を活用して具体的な授業場面を想定して授業設計を行う力を身につけます。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：小学校家庭科の教科目標、指導内容と授業設計のポイント 第2回：「A家族・家庭生活」の指導内容と授業設計 第3回：「A家族・家庭生活」の模擬授業の実践と振り返り、授業改善 第4回：「A家族・家庭生活」の情報機器及び教材の効果的な活用法 第5回：「B衣食住の生活」の食生活の指導内容と授業設計 第6回：「B衣食住の生活」の食生活の模擬授業の実践と振り返り、授業改善 第7回：「B衣食住の生活」の食生活の情報機器及び教材の効果的な活用法 第8回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の指導内容と授業設計 第9回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の模擬授業の実践と振り返り、授業改善 第10回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の情報機器及び教材の効果的な活用法 第11回：「C消費生活と環境」の指導内容と授業設計 第12回：「C消費生活と環境」の模擬授業の実践と振り返り、授業改善 第13回：「C消費生活と環境」の情報機器及び教材の効果的な活用法 第14回：小学校家庭科の学習評価 第15回：まとめ				
アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，模擬授業，対話・討議を行います。				
授業内の ICT 活用	情報機器を活用した授業設計および模擬授業を行います。				
評価方法	課題レポート (60%)，毎回の演習および授業の最後に提出する小レポート (40%) 演習・レポートで評価するが，ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説をします。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
小学校学習指導要領解説 家庭編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	95	9784491034669	
【新版】授業力UP家庭科の授業	伊藤葉子／編著	日本標準	2000	9.7848208065e+12	
参考図書	授業において適宜資料を配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	毎回の授業で本時のまとめと次時の予告をします。授業内容について復習するとともに、次時の事前課題に取り組んでください。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下のURLの番組の視聴路を進めます。 NHK for School カテイカ <a href="https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/">https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/</a>
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「家庭科教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	体育科指導法					
科目責任者	和久田 佳代					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	新学習指導要領に基づく体育科の目標・内容、全体構造を理解し、望ましい体育授業のあり方を探求する。 実際に学習指導案を作成し、模擬授業や場面指導を実践し、指導方法を身につける。					
到達目標	小学校体育科の目標・内容を理解し、学習指導案を作成することができる。 現代社会の児童にあった体育科のあり方を考察できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 体育について考える</p> <p>第2回：現代の子供の体力・運動能力と健康 小学校体育科の目標と内容</p> <p>第3回：体育科における主体的・対話的で深い学び</p> <p>第4回：体育科における評価の在り方 学びと指導と一体となった評価</p> <p>第5回：授業設計と学習指導案の作成</p> <p>第6回：領域別指導法① 体づくりの運動遊び、体づくり運動</p> <p>第7回：領域別指導法② 器械・器具を使つての運動遊び、器械運動</p> <p>第8回：領域別指導法③ 走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動</p> <p>第9回：領域別指導法④ 水遊び、水泳運動</p> <p>第10回：領域別指導法⑤ ゲーム、ボール運動（ゴール型）</p> <p>第11回：領域別指導法⑥ ゲーム、ボール運動（ネット型、ベースボール型）</p> <p>第12回：領域別指導法⑦ 表現リズム遊び、表現運動</p> <p>第13回：領域別指導法⑧ 保健</p> <p>第14回：模擬授業 学習指導案の評価と修正 ICT の効果的な活用 運動が苦手な児童への指導の工夫・配慮</p> <p>第15回：学習指導要領の理解（確認）と授業設計（まとめ） 確認テスト</p> <p>*実技の際は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p>					
アクティブラーニング	○実技、演習○グループワーク ○ディスカッション					
授業内の ICT 活用	浜松市の小学校現場で活用されている Google Classroom を活用します。 確認テスト等には WebClass を活用します。					
評価方法	模擬授業 30% 毎回の活動と授業後のフィードバック 30% 確認テスト 40%					
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックします。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
小学校学習指導要領解説 体育編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	312	9784491034676		
参考図書	文部科学省『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』 白旗和也「体育指導超入門」明治図書 下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校体育	国立教育政策研究所教育課程研究センター	東洋館出版社	1000	9784491041285	
事前・事後学修	指定図書に関連する部分を予習・復習する。(目安時間 40 分) 指導の計画、準備、評価を行う。				
オープンエデュケーションの活用	文部科学省>学校体育の充実>指導資料集 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm</a> 小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック 学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」 学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」 学校体育実技指導資料第8集「ゲーム及びボール運動」 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」(改訂版) 学校体育実技指導資料第10集「器械運動指				
オフィスアワー	和久田 佳代(2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「公認中級パラスポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	英語指導法
科目責任者	池田 周
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	子どもの言語習得論や学びの特性、諸外国の小学校外国語教育の実際、日本の小学校への英語教育導入の背景と目的、年間指導計画と1時間の授業展開など、小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な基礎的理論を学ぶ。さらに ICT も積極的に活用しながら様々な言語活動を体験し、教材研究や模擬授業を通して実践的指導力を養成する。
到達目標	1. 児童の言語習得能力や発達段階、第一言語習得と第二言語習得の違いなどに関する理論的基盤を構築する。 2. 小学校外国語教育の意義と指導の特性を理解し、授業を展開するために必要な理論と指導技術を習得する。 3. 学習指導要領に基づく小学校外国語教育の目標と育成すべき資質・能力の理解に基づき、具体的な指導と評価の計画を立てる力を身に付ける。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション：小学校での英語教育実践に必要な知識・理解  第2回：第二言語習得理論と外国語教育実践  第3回：小学校外国語教育導入の背景・その目的と意義・特徴、学習指導要領  第4回：コミュニケーション能力・国際理解教育  第5回：年間指導計画・単元の指導と評価の計画の立て方、ALT とのティームティーチング  第6回：小学校外国語教育の評価  第7回：小学校外国語教育の教材・教具、指導法、音声言語から文字言語へ  第8回：教材研究1〔歌・チャンツ〕・Classroom English 1〔授業運営〕  第9回：教材研究2〔トピックの選定、タスク活動・ゲーム〕・Classroom English 2〔指導〕  第10回：教材研究3〔絵本・その他〕・発音指導  第11回：授業研究1 (Small Talk の指導、パフォーマンス評価の実施)  第12回：授業研究2 (ICT、デジタル教材の活用)  第13回：授業研究3 (文字指導、音声と文字とを関係づける指導)  第14回：小・中・高等学校の外国語教育の連携の意義とあり方  第15回：まとめ：今後の小学校英語教育の動向、カリキュラムマネジメント、国語科との連携</p> <p>定期試験</p>
アクティブラーニング	指導と評価の計画、模擬授業計画作成などにおいては、積極的にグループ学修を取り入れる。 ディスカッションやディベートも行います。
授業内の ICT 活用	電子黒板上でデジタル教材を活用した模擬授業を行う。
評価方法	授業参加 (30%)、課題・模擬授業やプレゼンテーションへの取り組み (35%)、定期試験 (35%) などを基に、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業内外で取り組む課題については、コメントや授業中での講評の形でフィードバックを行う。
指定図書	<p>以下に記載します。</p> <p>*以下は適宜ダウンロードして使用する  『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』  <a href="https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf</a>  『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語・外国語活動編</p>

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
最新 小学校英語教育法入門	樋口 忠彦	研究社	2200	9784327411084	
参考図書	その他、授業の進行に合わせて適宜指示します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	「予習」：関係諸理論の資料確認。教材研究および模擬授業・プレゼンテーション準備（40分） 「復習」：授業の振り返り記録〔ポートフォリオ〕（40分）				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として文部科学省 MEXT Channel の視聴を勧めます。 <a href="https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f">https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f</a>				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は文部科学省「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」委員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国語
科目責任者	福重 浩之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	初等国語教育の目標・内容・方法のすべてにわたり、国語の授業を担当するための基礎となる知識、理解、技能の修得をめざす。幼児教育との連携も視野にいれている。そのためにはまず、国語教育とは何であるかを考えていく。そして、各領域の目標や内容を段階的に理解し、現代の子どもたちに合った実践方法を構築する。 本講義は、「みんなで楽しむ」ことを基本にしている。力を結集し、実のある授業にしていきたい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初等国語の構造と内容についての知識の獲得。</li> <li>・ 初等国語指導法についての理論的理解。</li> <li>・ 初等国語授業を構想する力量の習得。</li> </ul>
授業計画	<p>担当教員 福重浩之&lt;第 1 回と第 7 回から第 15 回まで&gt; 菅井篤&lt;第 2 回から第 6 回まで&gt;</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス  第 2 回：読解、暗記、理解  第 3 回：読解力と忘却  第 4 回：図・イラスト・プレゼンテーション  第 5 回：読解力とメタ認知  第 6 回：批判的思考  第 7 回：話しことば教育の目標・内容・方法（各学年の指導事項を中心に）  第 8 回：文学教育の目標・内容・方法Ⅰ（絵本を中心に）  第 9 回：文学教育の目標・内容・方法Ⅱ（古典的物語を中心に）  第 10 回：文学教育の目標・内容・方法Ⅲ（現代的物語を中心に）  第 11 回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅰ（低学年の指導事項を中心に）  第 12 回：説明的文章教育の目標・内容・方法Ⅱ（中・高学年の指導事項を中心に）  第 13 回：「我が国の言語文化に関する事項（語彙・文法）」  第 14 回：「我が国の言語文化に関する事項（書写）」  第 15 回：まとめ—これからの国語教育の展望</p>
アクティブラーニング	単元・教材に学習指導要領は何を求めているのかを、ディスカッションし、グループワークを通して、指導内容を考え、実践方法をも構築する。
授業内の ICT 活用	グループ発表時のプレゼンテーションは、パワーポイントの利用を推奨する。 WebClass の活用
評価方法	<p>&lt;第 2 回から第 6 回：担当 菅井&gt;</p> <p>1) 授業に対する姿勢 10%  2) 毎時間の振り返り 10%  3) 提出物（レポート）10%</p> <p>&lt;第 1 回、第 7 回から第 15 回：福重&gt;</p> <p>1) 授業に対する姿勢 10%  2) 毎時間の振り返り 10%  3) 確認試験 50%</p> <p style="text-align: right;">計 100%</p>
課題に対するフィードバック	毎時間の小集団学修時では口頭で、各自の「学びへのふりかえり」に対しては論評を加え、返却する。また、取り上げるべき課題は、次回の授業の中で解決する。
指定図書	

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
14歳からの読解力教室	犬塚美輪	笠間書院	1400	9784305709226	
小学校学習指導要領解説 国語編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	162	9.7844910346e+12	
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前・事後：毎回、「今日の学び」に関して理解したことを整理しながら疑問点（もっと知りたいことも含む）を見出し、WebClassにまとめ、次回の授業に臨む。（40分程度）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	社会				
科目責任者	中村 俊哉				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	・学習指導要領に示されている社会科の目標、内容について、それぞれの領域の具体的な事例を取り上げ、その背後にある理論の理解や、問題を解くことで指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の目的、目標、内容について理解する。</li> <li>・具体的な問題演習を通じて指導に必要な力を身につける。</li> <li>・それぞれの領域の背景及び指導上の留意点を理解する。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 : オリエンテーション 私が考える社会科</p> <p>第 2 回 : 今日的な教育の意義と社会科の目的</p> <p>第 3 回 : 学習指導要領と社会科の目標</p> <p>第 4 回 : 生活科と社会科の系統性と相違一町探検を中心にー</p> <p>第 5 回 : 教材づくりの方法と各学年の目標・内容</p> <p>第 6 回 : 身近な地域や市・県の様子</p> <p>第 7 回 : 地域の人々の生産・販売、災害・事故の防止</p> <p>第 8 回 : 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理</p> <p>第 9 回 : 地域の人々の生活 (古くからの道具・暮らし)</p> <p>第 10 回 : 地域の人々の生活 (文化財や年中行事、発展に尽くした先人)</p> <p>第 11 回 : 我が国の農業や水産業・工業生産・情報産業</p> <p>第 12 回 : 我が国の歴史</p> <p>第 13 回 : 我が国の政治の働き</p> <p>第 14 回 : 世界の中の日本の役割</p> <p>第 15 回 : まとめ</p>				
アクティブラーニング	簡易な模擬授業やグループワークを行う。				
授業内の ICT 活用	個人・グループ発表をプレゼンテーション形式で実施します。				
評価方法	筆記試験 (60%)、レポート・発表 (40%)				
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。				
指定図書	「小学校学習指導要領解説社会編」(平成 29 年 7 月 文部科学省)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業中に適宜資料を配付する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	<p>事前学修としては、配布したプリントを行う。</p> <p>事後学習としては、配布プリントや配布資料の振り返りを行う。(目安時間 40 分)</p>				

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	算数				
科目責任者	飯田 真也				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	小学校算数科の指導内容に関する数学的背景について理解することを目的とする。 具体的には、学習指導要領に示されている算数科の目標、内容について、それぞれの領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の具体的な事例を知り、その数学的背景についての問題を解くことで、指導に必要な知識、技能を身につける。				
到達目標	算数科の目的、目標、内容について理解する。 具体的な問題演習を通して指導に必要な力を身につける。 それぞれの領域の数学的背景及び指導上の留意点を理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：算数科の意義・目的・目標 第2回：算数と数学 第3回：数と計算：数とは何か 第4回：数と計算：数をどう表すか 第5回：数と計算：四則演算（乗法と除法） 第6回：数と計算：四則演算（加法と減法） 第7回：数と計算：四則演算のゴール 第8回：「九九表」を通じた各領域にまたがる数学的な考え方 第9回：量の分類 変化と関係 第10回：小数と分数 第11回：図形：図形の見方「構成要素」 第12回：図形：図形の見方「対称 比」 第13回：立体 面積・体積 第14回：データの活用：統計グラフと代表値等 第15回：まとめと授業内容理解度調査				
アクティブラーニング	演習及び問いに対する意見表明の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループでの協議 ・演習				
授業内の ICT 活用	WebClass の活用				
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 30% 授業内容理解度調査 70% 総合評価 60%以上でも授業内容理解度調査 60%未達の場合は特別再試を実施する。				
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。				
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）算数編』・文部科学省・東洋館出版社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要に応じて授業で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間 40 分） 第 12 回後～第 15 回前：レポート「算数に関する本を読み、テーマを設定し A4 1 枚に考えをまとめる」（320 分=8 回分を要する）				
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修				
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	理科					
科目責任者	飯田 真也					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	学習指導要領に示されている理科の目標、内容について、それぞれの領域の具体的な事例を取り上げ、その背後にある理論の理解や、問題を解くことで指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。					
到達目標	理科の目的、目標、内容について理解する。 取り上げる単元の背後にある理論を理解する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：理科の意義・目的 第2回：理科の見方・考え方で実験「身近な科学」 第3回：生命領域：生態学的見方とその活用 第4回：生命領域：「動物」と生存戦略 第5回：生命領域：「植物」と生存戦略 第6回：生命領域：「ウイルス」と「人体」の生存戦略 第7回：粒子・エネルギー領域：「物質の性質」 第8回：粒子・エネルギー領域：「物質の多様性」と「物質の変化」 第9回：粒子・エネルギー領域：「力学的エネルギー」 第10回：粒子・エネルギー領域：「音と光」 第11回：地球領域：「地球と天体の運動」 第12回：地球領域：「変動と循環：地質活動」 第13回：地球領域：「変動と循環：気象」 第14回：教科書教材研究 第15回：まとめ及び授業内容理解度調査					
アクティブラーニング	問いに対する意見表明や、課題を解決する小集団の場を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。 ・自力解決 ・ペア活動、グループ活動 ・演習					
授業内の ICT 活用	WebClass の活用					
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題 40% 授業内容理解度調査 60%					
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。					
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）理科編』・文部科学省・東洋館出版社					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	必要に応じて授業で紹介					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修） 記述による学習記録（事後学修） （目安 40 分） 第 15 回前：レポート「教科書教材研究に関する内容」（160 分＝4 回分を要する） 第 15 回前：レポート「理科に関する本を読み、テーマを決め A4 1 枚に考えをまとめる」 （280 分＝7 回分を要する）				
オープンエデュケーションの活用	レポート課題に向けた学修				
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生活				
科目責任者	飯田 真也				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	学習指導要領に示されている生活科の目標、内容について、それぞれの内容を追体験することや、生活科の背景にある理論を学ぶことで、指導に必要な知識、技能を身につけることを目的とする。				
到達目標	生活科の目的、目標、内容について理解する。 体験活動を通じて指導に必要な力を身につける。 それぞれの内容の指導上の留意点を理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：スタートカリキュラムとしての生活科の意義 第2回：生活科の意義・目的：生活科誕生に至った経緯 第3回：学習指導要領解説：生活科目標の構成 第4回：生活科の実際：スタートカリキュラムとしての学校探検 第5回：生活科の実際：「成長」「表現」を主題とした学校探検 第6回：生活科の実際：飼育・栽培活動 第7回：「生命尊重」を教科横断的に探究 第8回：幼小接続：「遊び」と「学習」をつなげるもの 第9回：幼小接続：「10の姿」から生活科を考える 第10回：生活科の実際：おもちゃを作り遊ぶ 第11回：「10の姿」からみた単元「おもちゃを作り遊ぶ」 第12回：生活科の実際：地域探検 第13回：生活科の実際：地域探検の成果の検討 第14回：生活科の実際：「10の姿」と生活科各内容 第15回：まとめと授業内容理解度調査				
アクティブラーニング	生活科の学習内容を体験する場を確保し、学習指導要領生活科編の理解深化を目指す。 ・体験活動 ・小集団での協議 ・演習				
授業内の ICT 活用	WebClass の活用				
評価方法	授業態度・振り返りの記述・課題70% 授業内容理解度調査30%				
課題に対するフィードバック	「振り返り」の記述を基に毎時間評価・コメントを記す。				
指定図書	『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説生活編』・文部科学省・東洋館出版社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要に応じて授業で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>毎回、学習指導要領等該当箇所の事前通読（事前学修）</p> <p>毎回、記述による学習記録（事後学修） （目安時間40分）</p> <p>第9回後～11回前：工作を完成させ、11回で成果を発表できるよう準備する（120分＝3回分を要する）。</p> <p>第12回～13回前：探究活動を実施し、13回で成果を発表できるよう準備する（240分＝6回分を要する）。</p>
オープンエデュケーションの活用	グループ発表に向けた探究活動
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	こどもと音楽				
科目責任者	二宮 貴之				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	児童の遊びと学びの精神に溢れた音楽活動ができる環境を設定できるように、教育者として必要な音楽の基本的知識と技能を身に付ける。具体的には、音楽指導と実践に必要な楽典を学ぶことで音楽理論に関する知識を得る。また、器楽や歌唱による音楽表現を体験し、その音楽的感覚を持って教育現場での音楽的活動の実践ができる技術を養う。				
到達目標	1. 楽典を学び、譜表、音名、リズム、音程、楽語、音階、調性などについて理解する。 2. 鍵盤楽器及び打楽器の構造や奏法を理解し演奏することが出来る。 3. 合唱曲に取り組み、和声感や音程感覚を身に付け演奏することが出来る。				
授業計画	<p>&lt;担当教員：二宮(第1～15)、金山(第6～11回)&gt; &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：小学校学習指導要領及び幼稚園教育要領の音楽に関する内容について理解する。 第2回：譜表、音名、音符、休符、リズム、拍子について理解する。 第3回：音程、音階、調性について理解する。 第4回：三声の基本コードについて理解する。 第5回：主要三和音、属七の和音、簡易伴奏について理解する。 第6回：小学校音楽科共通教材 1、2、3 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第7回：小学校音楽科共通教材 4、5、6 学年の弾き歌いを通して器楽の奏法について理解する。 第8回：小学校や幼稚園で扱う楽器を教材に用いて、奏法について理解する。 第9回：小学校や幼稚園で扱う鍵盤楽器、打楽器を用いて演奏し、合奏について理解する。 第10回：器楽合奏の発表を通して演奏方法について振り返りまとめる。 第11回：合唱の基礎である呼吸法と歌唱法を理解する。 第12回：二声体の曲を教材として用いて、二声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第13回：四声体の曲を教材として用いて、四声体の和声を感じ取りながら演奏する。 第14回：四声体の合唱を通して音楽のテクスチャを感じ取り歌唱表現について理解する。 第15回：四声体の合唱の発表を通して歌唱表現について振り返りまとめる。 定期試験</p>				
アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修に取り組みます。 音楽鑑賞や演奏に対してグループや個人で意見交換する場を設け、聴いた「音楽や音」からどのようなことを感じたのかを表出し合い学びを深めます。				
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。				
評価方法	器楽合奏の取り組み 30% 合唱の取り組み 30% 定期試験 40% (レポート)				
課題に対するフィードバック	譜読みした曲に取り組み、演奏法や音楽表現について講評します。				
指定図書	下記を指定図書とする。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新・幼児の音楽教育	井口太	朝日出版社	2400	9784255156279	
参考図書	参考図書・資料については適宜紹介・配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別

					／備考
事前・事後学修	指定図書・参考図書を読み、掲載されている楽譜の譜読みを行って下さい。事前・事後学修は、それぞれ40分間程度行って下さい。				
オープンエデュケーションの活用	合唱等の演奏を人前で披露し表現力の向上に生かす。				
オフィスアワー	二宮 貴之 (2602 研究室) メール: takayuki-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	図画工作
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、児童・幼児の発達と図画工作科学習や造形表現活動の関係をふまえた材料・技法についての検討、また作品制作の実習を通して、学生自身が造形表現の楽しさや喜びを体験し、児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動に適切な題材・教材の選択や支援ができるようにする。保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。</li> <li>2. 児童・幼児の図画工作科学習や造形表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義を理解する。</li> <li>3. 図画工作科学習や造形表現活動の基盤となる造形・美術の実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：材料との出会い-1：紙との出会い／オリエンテーション 《学生の準備物》はさみ、工作用接着剤（あるいは木工ボンド）、テープ</p> <p>第2回：材料との出会い-2：紙と対話する ・新聞紙をもとにした活動でアイスブレーキング・紙への造形操作（切る・折る・曲げる…） 《学生の準備物》新聞紙（1日分）</p> <p>第3回：材料との出会い-3：パスとの出会い ・パスによる多様な表現技法 《学生の準備物》パス（オイルパスもしくはクレヨン）</p> <p>第4回：行為の楽しさ-1：カラーポリ袋で遊ぶ 《学生の準備物》はさみ・テープ・体育館シューズ</p> <p>第5回：行為の楽しさ-2：絵の具を知る（色水屋さんごっこ・混色・重色） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第6回：行為の楽しさ-3：絵の具を知る（絵の具で描く・塗る） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第7回：行為の楽しさ-4 ・新聞紙とさくら紙によるプール遊びの環境設定 《学生の準備物》新聞紙・クレヨン・マジックなど、運動に適した服装・転げ回っても大丈夫な服装</p> <p>第8回：行為の楽しさ-5：絵の具をきわめる（筆洗・パレット・筆の基本的な扱い） ・ローラー遊び・スタンプング・指絵の具・デカルコマニー 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第9回：：絵の具をきわめる（絵の具と他の材料・用具との併用） ・スパッターリング・パチック・マーブリングなど 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第10回題材との出会い-1：版遊び・版画（スチレン版画） 《学生の準備物》スーパーなどのトレイ・カッターナイフ・ボンド・はさみ</p> <p>第11回：題材との出会い-2：版遊び・版画（紙版画） 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第12回：材料との出会い-5：水と墨の魅力 《学生の準備物》割り箸、エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第13回：子供と創る壁面構成-1：イメージの共有 浜松市立与進幼稚園等の実際の小学校や幼稚園の壁面構成を鑑賞しながら、小学校や幼稚園における壁面構成の意味と課題を探る。</p>

	<p>第 14 回：子供と創る壁面構成-2：共有（様々な表現技法や材料の特徴を生かした壁面構成、造形的な教室環境の設定を考える。）</p> <p>《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。</p> <p>第 15 回：子供と創る壁面構成-3：共創（共同制作する。）：鑑賞（展示し、鑑賞する。）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
アクティブラーニング	<p>LiTE (Learning in Teaching) を採り入れた学習の共有</p> <p>現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議</p> <p>グループによる共同制作と発表</p> <p>保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。</p>				
授業内の ICT 活用	<p>特になし。</p> <p>時に、Web 動画の視聴などに使用する。</p>				
評価方法	<p>(1) 授業で課した課題・作品（スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオ）の評価…40%</p> <p>(2) 授業態度（学習記述、参加態度など）…60%</p> <p>・スケッチブック・事前・事後学修含むポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。（提示方法：別紙配布）</p>				
課題に対するフィードバック	<p>振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを共有する。</p> <p>互いの表現や作品の鑑賞会などによりフィードバックする。</p>				
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	<p>槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林）</p> <p>大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」（日本文教出版）</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>全ての授業で、概ね 40 分を目安に事前・事後学修に取り組み、記述による学習記録（事後学修）・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオとしてのスケッチブックの作成・整理（事前・事後学修）</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。</p> <p>NHK「キミなら何つくる？」</p> <p><a href="https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000">https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000</a></p>				
オフィスアワー	<p>鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	家庭				
科目責任者	小清水 貴子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	小学校家庭科の学習指導要領や教科書に基づいて、基礎的・基本的な小学校家庭科の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関する理解を深めます。また、小学校家庭科の教材研究等に必要な知識及び技能を身につけます。				
到達目標	小学校教員として必要な家庭科に関する教科力を身につけることを目指します。具体的には、小学校家庭科の授業実践に求められる基礎的・基本的な知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を、授業場面を意識しながら身につけます。				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;  小清水 貴子 (第1~4、6~15 回担当)  古橋 啓子 (第5 回 調理実習担当)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  第1 回：小学校家庭科における指導内容と見方・考え方等の位置づけ  第2 回：「A 家族・家庭生活」の教材研究に必要な知識及び技能  第3 回：「A 家族・家庭生活」の学習指導のための教材研究  第4 回：「B 衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能(1) 栄養  第5 回：「B 衣食住の生活」の食生活の教材研究に必要な知識及び技能(2) 調理  第6 回：「B 衣食住の生活」の食生活の学習指導のための教材研究  第7 回：「B 衣食住の生活」の衣生活の教材研究に必要な知識及び技能  第8 回：布を用いた製作の実習における指導法の体験(1) 基礎縫い  第9 回：布を用いた製作の実習における指導法の体験(2) 袋の製作  第10 回：布を用いた製作の場面指導における模擬授業の実践と振り返り  第11 回：「B 衣食住の生活」の住生活の教材研究に必要な知識及び技能  第12 回：「B 衣食住の生活」の住生活の学習指導のための教材研究  第13 回：「C 消費生活と環境」の教材研究に必要な知識及び技能  第14 回：「C 消費生活と環境」の学習指導のための教材研究  第15 回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，実習，対話・討議を行います。				
授業内の ICT 活用	情報機器を活用して，指導内容や教材研究のプレゼンテーションを行います。				
評価方法	課題レポート (60%)，毎回の演習および授業の最後に提出する小レポート (40%) 演習・レポートで評価するが，ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説をします。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
【新版】授業力UP 家庭科の授業	伊藤葉子 / 編著	日本標準	2000	9784820806462	
小学校学習指導要領解説 家庭編 (平成29 年告示)	文部科学省	東洋館出版社	95	9.7844910347e+12	
参考図書	授業中に随時連絡します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	毎回の授業で本時のまとめと次時の予告をします。授業内容について復習するとともに、次時の事前課題に取り組んでください。				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の番組の視聴路を進めます。 NHK for School カテイカ <a href="https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/">https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/</a>				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は家庭科教員の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	体育					
科目責任者	和久田 佳代					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	<p>子どもの体育活動、運動遊び及び身体表現活動を豊かに展開するために、子どもの発育・発達と運動機能や身体表現についての知識と技術を学び、発達にあった体育活動、運動遊びを促すことができる環境構成、具体的展開のための技術を習得する。</p> <p>子どもの指導・援助者として、子どもの表現を受け止め共有できる開かれた身体をつくることを目標に、柔軟性を高め、姿勢や歩行のレッスンをを行い、自らの身体や運動への意識を高める。</p>					
到達目標	<p>1 子どもの発育発達過程に沿った体育、運動遊びの重要性を理解する。</p> <p>2 発育発達過程をいかして体育活動、運動遊びや身体表現を促すことができる環境設営、指導方法を習得する。</p> <p>3 子どもの指導・支援者にふさわしい姿勢、柔軟性を身につけ、身体への意識を高める。</p>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 柔軟な身体的重要性 体ほぐしの運動(遊び)</p> <p>第2回：子どもの発育発達過程 姿勢の重要性</p> <p>第3回：指導者・支援者にふさわしい身体意識、体力を身につけるために</p> <p>第4回：発育発達過程に沿った運動遊び コアキッズ体操</p> <p>第5回：環境に適応するための運動遊び (くぐる、わたる、ぶらさがる、のぼる)</p> <p>第6回：運動遊びから児童の運動への展開 年齢に応じた運動(遊び)の実際</p> <p>第7回：多様な動きをつくる運動(遊び)</p> <p>第8回：器械・器具を使つての運動(遊び)</p> <p>第9回：表現リズム遊び(表現運動)</p> <p>第10回：走・跳の運動 (陸上運動)</p> <p>第11回：ボールゲーム(ボール運動)</p> <p>第12回：体つくりの運動遊び(小・低学年)</p> <p>第13回：体つくり運動 (小・中学年)</p> <p>第14回：体つくり運動 (小・高学年)</p> <p>第15回：実技発表 まとめ</p> <p>*運動着、体育館シューズを用意してください。</p>					
アクティブラーニング	○実技 ○グループワーク ○実技発表 実技科目です。					
授業内の ICT 活用	実技動画視聴のためにプロジェクター、iPad を使用する。 WebClass を活用する。					
評価方法	実技発表 50% 授業への取組 (意欲・積極性 WebClass への学びの記録) 50%					
課題に対するフィードバック	実技発表についてはその場で講評します。 WebClass のタイムラインで、意見・質問に対応します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別	

					／備考
小学校学習指導要領解説 体育編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	312	9784491034676	
幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために	幼児期運動指針策定委員会／〔著〕	サンライフ企画	1300	9.7849040115e+12	
事前・事後学修	<p>子どもの支援者にふさわしいように健康状態、身なりを整えて、授業に臨む。            毎回、授業後にWebClassに学びを記録する。(30分)            授業での学びを日常生活に活かし、姿勢を意識し、身体への意識を高め、生活する。            ストレッチなどの運動を習慣化する。(10分、週3日以上)</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>文部科学省&gt;学校体育の充実&gt;指導資料集            小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm</a>            2020応援ソングプロジェクト  <a href="https://sports.nhk.or.jp/dream/song/about/">https://sports.nhk.or.jp/dream/song/about/</a></p>				
オフィスアワー	和久田 佳代(2709研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「幼児体育指導員」「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	こどもと英語				
科目責任者	Donald Patterson				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	小学校における授業実践に必要な英語力と知識を身につけることを目的とする。学生自身が英語の4技能・コミュニケーション能力を向上させるための方法を学ぶ。さらに、英語に関する基礎的な知識(音声・語彙・文構造・文法等)、第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。また、英米の児童文学や言語の背景にある文化の理解への興味や知見を広げる。				
到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践運用能力を授業場を意識しながら身につける。 2. 中学校への接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。				
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド <授業内容・テーマ等> 第1回：音声による授業実践「聞くこと・話すこと（やりとり・発表）」 第2回：英語ネイティブの人々との話し合い 第3回：文字による授業実践「読むこと・書くこと」 第4回：英語でeメールをする 第5回：技能統合型の活動 実践の様子から学ぶ（小学校での英語活動に参加） 第6回：第二言語習得論と言語学 第7回：英語の音声の仕組み 第8回：英語の音声と綴りの問題及びフォニックス指導、中間テスト 第9回：英語の文法及び構文法 第10回：英語の伝承童謡（マザーグース等）（小学校・こども園での英語活動に参加） 第11回：英米の絵本（エリック・カール等）（小学校・こども園での読み聞かせを行う） 第12回：英米の児童文学（CSルイス等） 第13回：英米の文学と生活 第14回：多様性と異文化理解と 第15回：異文化交流と言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション、最終テスト				
アクティブラーニング	グループ学修、ロールプレイング、プレゼンテーション、Google Classroom の活用				
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	授業への参加度・提出課題（60%）、中間テスト（20%）、最終テスト（20%）				
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント				
指定図書	『Hello, English』（成美堂）Fujiwara, Aiba, Byrd, Barrows（作者）（ISBN 9784791947973）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	『小学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省				

	『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』東京書籍 『フォニックス指導の実際』ハイルマン、A.W(松香洋子監訳) 玉川大学出版部 『先生、英語のお話を聞かせて！-小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』 ゲイルエリス他著 玉川大学出版部 『Planet Eigo: Down to Earth Team Teaching』Association for Japan Exchange and Teaching				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	Google Classroomによる課題、レポート。 ※原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	パターソン・ドナルド (Donald Patterson) (5704 研究室) メール： patterson@seirei.ac.jp 時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	こどもと健康					
科目責任者	和久田 佳代					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを支援するために必要な知識・技能を身につける。					
到達目標	1. 乳幼児の発達における健康の重要性を理解する。 2. 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 3. 乳幼児の発育発達過程について、説明できる。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 健康とは 健康のために心がけていること 第2回：乳幼児期の健康な生活 健康課題 第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 第4回：乳幼児の体の発達、発育発達過程、幼児期運動指針 第5回：基本的な生活習慣の重要性（1）生活リズム、睡眠 第6回：基本的な生活習慣の重要性（2）食事 第7回：安全教育と安全管理 第8回：遊びとしての運動 確認テスト					
アクティブラーニング	○ディスカッション ○プレゼンテーション					
授業内の ICT 活用	WebClass に学びを記録する。					
評価方法	確認テスト 50% 授業への取組 50%(参加度、ワークシート、WebClass)					
課題に対するフィードバック	WebClass への記録について、次の授業でフィードバックする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	下記参照 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 谷田貝公昭「基本的な生活習慣の発達基準に関する研究—子育ての目安—」一藝社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
0 歳～6 歳子どもの発達と保育の本 第2版	河原 紀子 監修・執筆	学研プラス	1700	9784058008676		
事前・事後学修	WebClass 掲載資料を予習・復習する。(目安時間 40 分) 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。					
オープンエデュケーション	文部科学省 > スポーツ > 子どもの体力向上 > 幼児期の運動 幼児期運動指針について					

の活用	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm</a>
オフィスアワー	和久田 佳代 (2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと言葉					
科目責任者	杉山 沙旺美					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	子どもの豊かな言葉や表現を育み、創造する楽しさを広げていくために必要な基礎的知識や技術を学び、その育ちを支える視点について事例をもとに理解を深める。子どもの言葉の発達の過程を知り、保育の中で言葉がどのように関わるかについて理解を深め、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。					
到達目標	1. 子どもの発達過程一言葉の意義や機能について理解する。 2. 子どもの言葉に対する感覚を豊かにするための遊びや活動について理解する。 3. 児童文化財について理解し、保育実践のための方法・技術を習得する。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：領域「言葉」のねらい・内容について</p> <p>第2回：乳幼児期の発達と言葉の意義・機能について</p> <p>第3回：言葉と想像力・思考力の育ちについて（ごっこ遊び）</p> <p>第4回：乳幼児期の言語感覚・言語表現</p> <p>第5回：視聴覚教材とは何か（ゲスト：瀬戸美江先生）</p> <p>第6回：言葉を育む保育教材</p> <p>第7回：「言葉」と遊び・活動の実際</p> <p>第8回：全体的振り返りと総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p>					
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、発表等を取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパーの提出、授業時の資料等の提示を行います。					
評価方法	リアクションペーパー：40% 教材作成・発表：30% レポート：30%					
課題に対するフィードバック	リフレクションペーパーの内容について、次回の授業でコメント、新たな学習の提示を行う。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499		
参考図書	授業の中で提示する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。授業内容に関連する事後課題を提示する。(学修の目安時間は40分)					
オープンエデュケーション	なし					

の活用	
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」の実務経験を有する教員が担当します。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こどもと人間関係					
科目責任者	杉山 沙旺美					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	本授業では、現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について学び、その育ちを支える視点について事例をもとに理解を深めます。特に、自己や身近な人とのかわりから子どもの世界が広がっていく過程を知り、他者や集団との関係の中で子ども達が人とかわる力をどのように育んでいくのかについて学びます。					
到達目標	1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の諸課題を理解し、説明できる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解し、説明できる。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> (担当教員：杉山沙旺美・渡邊拓真) 第1回：現代社会と子ども人間関係の発達 (杉山) 第2回：3歳未満児における人間関係の発達 (杉山) 第3回：遊びや生活を通して育つ人と関わる力 (渡邊) 第4回：乳幼児期における自立の芽生え (杉山) 第5回：幼児期における協同性の育ち (杉山) 第6回：幼児期の道徳性・規範意識の育ち (杉山) 第7回：乳幼児期の人間関係の広がり (渡邊) 第8回：乳幼児期に育みたい資質能力と人間関係・まとめ (杉山) 定期試験は実施しない。					
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションやグループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパーの提出、授業時の資料等の提示を行います。					
評価方法	授業への取り組み (グループ活動への参加や発言、ミニ課題) : 40% ポートフォリオ : 60% ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業内で提示し説明する。					
課題に対するフィードバック	各回に提出したポートフォリオについて、次の授業でフィードバックを行う。最終提出時にポートフォリオにコメントし、返却する。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府 / [著] 文部科学省 / [著] 厚生労働省 / [著]	フレーベル館	350	9784577814499		
参考図書	下記参照。その他、授業の中で提示する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省 / 編	フレーベル館	320	9784577814482		
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館	240	9.7845778145e+12		
事前・事後学修	・事前学修として、指定図書の関連する部分を読み、予習する。					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後学修として、学んだ内容についてプリント等を再読し、理解を深め、不明点は質問すること。</li> <li>・ポートフォリオについては授業内で課題を提示する。関連サイトや文献を用いながら作成し、必ず期日までに提出すること。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修の日安時間は40分程度&gt;</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は保育所、幼稚園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	こどもと環境				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理解や技術を体系的に修得している。				
科目概要	本科目では、領域「環境」の指導に関連するこどもを取り巻く環境やこどもと環境とのかかわりについての多様な専門的事項を学ぶ。保育者として必要な感性を養うとともに、こどもの育ちを支える視点について、実践事例をもとに理解を深める。				
到達目標	1) こどもを取り巻く環境とこどもの発達との関係を説明できる。 2) こどもの思考・科学的概念の発達を説明できる。 3) こども期における標識・文字・情報・文化との関わりの発達を説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：こどもを取り巻く環境・領域「環境」とは 第2回：こどもと環境とのかかわりー森での活動から 第3回：乳幼児期・児童期の認知的発達 第4回：こどもと自然とのかかわり①ー自然物の遊び・自然体験活動等 第5回：こどもと自然とのかかわり②ー飼育・栽培等 第6回：こどもとモノとのかかわり 第7回：こどもと社会とのかかわり 第8回：領域「環境」にかかわる現代的課題・まとめ 定期試験は実施しない。				
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションやグループワークを取り入れ実施します。また、植物の栽培や遊び等の体験活動を通して学びます。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み（活動への参加や発言、ミニ課題等）：40% ポートフォリオ：60% ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックは授業内で提示し説明する。				
課題に対するフィードバック	各回に提出したポートフォリオについて、次の授業でフィードバックを行う。最終提出時にポートフォリオにコメントし、返却する。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
参考図書	・「0-5 歳児 子どもの「やりたい！」が発揮される保育環境～主体的・対話的で深い学びへと誘う～」宮里暁美監修（学研プラス） 他は以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館	240	9784577814475	
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9.7845778145e+12	

事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する。</li> <li>・事後学修として学んだ内容についてプリント等を再読して理解を深め、不明点は質問すること。</li> <li>・ポートフォリオについては授業内で課題を提示するので、関連サイトや文献を用いながら作成し、必ず期日までに提出すること。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修の目安時間は40分程度&gt;</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や保育所での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	こどもと表現
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、乳幼児や児童の発達とその時々の表現活動の関係をふまえた環境・材料・用具・技法についての検討、また表現活動の実習を通して、学生自身が表現の楽しさや喜びを体験し、乳幼児や児童の表現活動に適切な題材・教材の選択や支援ができるようにする。保育所・幼稚園、小学校等の表現を中核とした課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児や児童の表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。</li> <li>2. 乳幼児や児童の表現活動のプロセスを検討することによりその教育的な意義や価値を理解する。</li> <li>3. 表現活動の基盤となる実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方、準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようにする。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション（シラバス説明・授業概要）  ・「表現とは何か」「子供の表現の特徴と魅力」について、10の姿「豊かな感性と表現」と結び付けて考える。  ・レッジョ・エミリアアプローチなど世界の先進事例に学ぶ①</p> <p>第2回：幼児教育における表現①「比べる・感じる」  ・レッジョ・エミリアアプローチなど世界の先進事例に学ぶ②  ・創造性と感性を育む「見えないものを描く・表す・奏でる」活動の探究</p> <p>第3回：環境との出会い①：自然を味わう  ・森探検からの音や色、形、香りなどの模索と探求</p> <p>第4回：環境との出会い②：感触遊び  ・素材～水、紙、石、ひも、葉等やICT機器を使っての色、形の表現探索（上記4～10回は天候などの関係で前後することが予想されます。）  ・ワークショップ…身近なもので動く人形・風車をつくろう</p> <p>第5回：素材との出会い①  ・身の回りにあるプラスチックの容器やストロー、紙皿、紙コップなどを使って造形遊びをしたり、人形や音の出る楽器をつくったりなどして、活動展開を考える。</p> <p>第6回：素材との出会い②  ・砂や粘土、スライムなどの感触遊び・身体活動の展開</p> <p>第7回：表現活動の展開と提案  ・つくった遊びやものを使った活動を発表する。</p> <p>第8回：みる・きく・さわるー総合的な表現の遊びと展開  ・アートゲームや鑑賞遊びなどの体験  ・まとめとふり返り</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
アクティブラーニング	LiTe(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の具体的な実践や、そこで生まれた子供の作品などの検討や考察、協議グループによる共同制作と発表 保育所・幼稚園、小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内のICT活用	ICT機器を活用した表現や鑑賞活動の体験、遊びを通じた扱い方の検討をする。 Web動画などの視聴にも使用する。

評価方法	(1) 授業で課した課題・作品をもとにしたレポートの評価…40% (2) 授業態度 (事後のリアクションペーパー記述、参加態度など) …60% ・リアクションペーパーやレポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。(提示方法:別紙配布)					
課題に対するフィードバック	ふり返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを共有する。互いの表現や作品の鑑賞会などによりフィードバックする。					
指定図書	『小学校学習指導要領解説』『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」(萌文書林) 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論(新訂版)」(日本文教出版)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
事前・事後学修	全ての授業で、概ね40分を目安に事前・事後学修に取り組み、記述による学習記録(事後学修)・習得した技法による作品制作とスケッチブックの整理・ポートフォリオとしてのスケッチブックの作成・整理(事前・事後学修)					
オープンエデュケーションの活用	・自主学习として、以下のURLの番組の受講を勧めます。 NHK「キミなら何つくる？」 <a href="https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000">https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000</a>					
オフィスアワー	鈴木 光男(1613研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	こどもの歌と伴奏				
科目責任者	二宮 貴之				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 34 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	本科目は、幼児教育の現場に必要なピアノの弾き歌いに関する知識と技術について学習する。それぞれのレベルに応じた個人レッスンを中心に、グループ単位の実技のレッスンやクラス単位で音楽理論に関する講義も行う。過去の採用試験に出題されたピアノ曲や弾き歌い曲などにも挑戦する。伴奏技術の修得のみならず歌唱の技術の修得にも重きを置く。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 弾き歌いに関する様々な伴奏法について理解できる。</li> <li>2. コード進行法を理解し、コード伴奏を使った弾き歌いができる。</li> <li>3. 弾き歌いのレパートリーを広げ、保育・教育の現場で即座に実践できる弾き歌いができる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;二宮、笹瀬、藤井、金山          &lt;授業内容・テーマ等&gt;          保育士・幼稚園教諭として現場で弾き歌いができるよう、技術や表現力を個人レッスンによってみにつける          第1回：オリエンテーション          第2回：季節の歌①春 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）正しい発声          第3回：季節の歌②夏 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）響く声          第4回：季節の歌③秋 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）息の流れと共鳴のさせ方          第5回：季節の歌④冬 コード弾き（Ⅰ度Ⅳ度Ⅴ度）頭声と胸声          第6回：生活の歌①登園時 朝、園で歌う歌などを中心にレッスンする          第7回：生活の歌②降園時 お片付けや帰り際に歌う歌などを中心にレッスンする          第8回：行事の歌①春～夏 入学時から春にかけての行事の歌をレッスンする          第9回：行事の歌②秋～冬 秋から冬にかけての行事の歌をレッスンする          第10回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの速い曲          第11回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 特徴的なリズムの曲          第12回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて テンポの緩やかな曲          第13回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて就職試験に出された曲 東海地方          第14回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて就職試験に出された曲 関東地方          第15回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて 演奏会          定期試験</p>				
アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの 双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。				
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。				
評価方法	授業態度 30% 定期試験 70%				
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする				
指定図書	指定図書は『保育で使えるこどものうた 230 曲! 季節行事で使おう! 編』 著者・監修：坂田おさむ監修 出版社：リットーミュージック 出版年：2017 年 ISBN-13 (978-4845631544)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	適宜資料を配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲についてリズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 事前学修2時間、事後学修2時間程度行うこと。				
オープンエデュケーションの活用	ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現や演奏技術の向上に生かす。※状況によりま すので、詳細は授業の中でお伝えいたします。				
オフィスアワー	二宮 貴之 (2602 研究室) メール：takayuki-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授 業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア授業 の実施につ いて	なし				

科目名	器楽				
科目責任者	二宮 貴之				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 12 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽 I では最低限習得しなければならないピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学習する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。				
到達目標	1. ピアノ演奏における基礎的な知識と奏法を身に付け、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 2. 子どもの歌の伴奏法を身に付け、個々のレベルに応じてピアノを弾きながら歌うことができる。				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;二宮、笹瀬、藤井、金山 &lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：ピアノを弾く姿勢、手の形、指使いについて 第3回：音部記号（ト音記号とヘ音記号）について 第4回：音符の種類、拍子、付点のリズムについて 第5回：変化記号、音階について 第6回：右手でト音記号の練習、左手でヘ音記号の練習をする 第7回：左手と右手のユニゾンと反進行の練習、指の交差について 第8回：調号について 第9回：長調について 第10回：短調について 第11回：速度、強弱、いろいろな記号や用語について 第12回：実技試験に向けてのレッスン①楽譜に照らし合わせて音の確認 第13回：実技試験に向けてのレッスン②両手で練習をする 第14回：実技試験に向けてのレッスン③表情をつけて弾く 第15回：実技試験に向けてのレッスン④曲想やダイナミクスをつけて仕上げる 定期試験</p>				
アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み 30% 実技試験70%				
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする。				
指定図書	指定図書は下記に掲載しています。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育士・幼稚園教諭・小学校教諭のためのピアノテキスト		カワイ出版	2400	9784760903382	
やさしく弾けるピアノ伴奏保育のうた12か月 幼稚園・保育園現場の声から選ばれた全141曲	新星出版社編集部／編 河本芳子／〔編曲〕 小泉八重子／〔アドバイザー〕	新星出版社	1600	9.7844050714e+12	
参考図書	適宜配布します。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの階名読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。</p> <p>事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。</p> <p>事前学修1時間、事後学修1時間程度行うこと。</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>ピアニストの公開レッスンを受講し音楽表現力や技術の向上に生かす。※状況によりますので、詳細は授業の中でお知らせいたします。</p>				
オフィスアワー	<p>二宮 貴之 (2602 研究室) メール: takayuki-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	保育内容（健康）				
科目責任者	和久田 佳代				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	<p>子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことができるよう、「明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことを支援する方法を様々な視点から理解し、考察し、実践につなげる。</p> <p>具体的には、映像を通して発達段階をとらえ、各年齢に応じた健康の支援を理解した上で、生活リズム、遊び、運動、食事、排泄、清潔等をテーマとして、新聞記事や調査結果から現状を把握し、絵本や紙芝居等を活用した指導案、保護者向けおたよりを作成する。</p>				
到達目標	<p>1. 子どもの健康に関する現状・課題を理解し、健康的な生活を支援する方法を考察し、指導案、保護者向けおたよりを作成できる。</p> <p>2. 自身の健康について考え、支援者としてふさわしい健康習慣を身につける。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 健康とは</p> <p>第2回：幼児期の健康な生活 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」領域のねらいと内容</p> <p>第3回：現代社会における子どもの健康の現状と課題 基本的生活習慣の重要性</p> <p>第4回：1歳児の健康とその支援 運動発達</p> <p>第5回：2歳児の健康とその支援 生活リズム、睡眠、食事</p> <p>第6回：3歳児の健康とその支援 排泄の習慣と自立</p> <p>第7回：4歳児の健康とその支援 清潔、着脱の習慣と自立</p> <p>第8回：5歳児の健康とその支援 遊びの発達とその支援</p> <p>第9回：健康な生活習慣の形成の指導、援助と評価</p> <p>第10回：テーマ別研究 子どもの姿を知る 情報機器及び教材の活用</p> <p>第11回：援助計画（指導案）の作成 活用する教材の選定</p> <p>第12回：保護者向けおたよりの作成 情報機器の活用</p> <p>第13回：援助計画（指導案）に応じた模擬保育の実施</p> <p>第14回：安全教育と安全管理 幼保小接続と生涯発達</p> <p>第15回：まとめ 支援者の健康習慣</p> <p>定期試験</p>				
アクティブラーニング	○ディスカッション ○グループワーク ○ポスターセッション 子どもの健康生活習慣をテーマにグループ学習し、ポスターセッションで発表する。				
授業内の ICT 活用	WebClass に学びを記録する。WebClass 掲示板を活用する。				
評価方法	筆記試験 50% グループ発表 30% 授業への取組 20% (参加度、ワークシート、WebClass)				
課題に対するフィードバック	グループ学習については授業内でフィードバックする。 試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
0歳～6歳子どもの発達と保育の本 第2版	河原 紀子 監修・執筆	学研プラス	1700	9784058008676	

参考図書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」 谷田貝公昭「基本的な生活習慣の発達基準に関する研究—子育ての目安—」一藝社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	指定図書に関連する部分を予習・復習する。(目安時間 40 分) 「保育内容」「発達心理学」「子どもの保健」等での学びと結びつける。 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	和久田 佳代 (2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育内容（言葉）
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位（30時間） 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	本授業は講義と演習により構成され、講義を通して保育内容 5 領域全体の理解と「言葉」の領域の位置付けについて学び、保育実践のあり方について、子どもの発達段階、個人の特性、及び保育環境という視点から理解を深めます。演習では、保育計画（指導案）を作成し、実際に教材を用いて授業で発表します。さらに、保育・幼稚教育の歴史的経緯、現代の保育現場の多様性、現代的課題についても学び、これからの多様な保育の二ーズに対応できる知識と実践力を身につけます。
到達目標	「言葉」の領域のねらいに沿って、保育の現場においてどのように具現化するか、その実践について学び、子どもの姿や環境に配慮した保育実践を学ぶ。 1 子どもの姿や発達段階に配慮した教材作成や言葉かけができる。 2 保育の本質と保育と家庭生活の連続性を理解し、保育指導案を作成する。 3 子どもの言葉を豊かに育む保育環境を構成し、実践しようとする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション（教材の購入について）・要領・指針における領域「言葉」 第2回：保育の基本と領域「言葉」 第3回：「エプロンシアター」について《鈴木まき子先生》 第4回：「わらべ歌」の演習《鈴木まき子先生》 第5回：「わらべ歌」と乳幼児の言葉の発達《鈴木まき子先生》 第6回：視聴覚教材の種類（パネルシアター・ペープサート等）《瀬戸美江先生》 第7回：「手袋シアター」の作成と実践《瀬戸美江先生》 第8回：言葉とコミュニケーション、発達の道筋 第9回：「紙芝居」の歴史や意義《橋口英二郎氏（童心社編集部）》 第10回：「紙芝居」の作成と語り 第11回：「紙芝居」の実践 第12回：言葉を育む保育者の役割と援助 第13回：領域「言葉」を育むための保育実践－模擬保育（計画立案） 第14回：領域「言葉」を育むための保育実践－模擬保育（実践） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない
アクティブラーニング	演習科目です。体験的に学ぶ中で、保育をする上での要点について考え、洞察を深めたいと考えます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパーや課題の提出、授業資料の閲覧、発表課題の作成等を行います。 また、作成した教材を使った実践を撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、実践の振り返りを実施します。
評価方法	リアクションペーパー・課題：30% 教材の作成・実践・振り返り：40% レポート：30% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	「こどもと言葉」の授業内容と連動して進めます。リアクションペーパーの内容について、次回の授業でコメントをします。また、子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の児童文化教材を中心に保育現場で活かせる必要な言葉の表現技術を養うことができたか、「模擬保育」「子育て広場」での実践の振り返りを行います。
指定図書	下記参照

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部 科学省／〔著〕 厚生 労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
参考図書	授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】子育てひろば、附属こども園での実践にあたり、発達にあった視聴覚教材を選ぶこと、グループごとで活動内容に関する指導計画の作成と準備をします。</p> <p>【事後学修】課題項目に基づいた振り返りを行い、レポートの提出をします。 (目安時間 40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) saomi-s@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は保育士の実務経験を有する教員が担当します。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育内容（人間関係）				
科目責任者	杉山 沙旺美				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	本授業では、領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めます。具体的な活動や事例を通して、領域「人間関係」を園生活や遊びの中で捉えながら、子どもの育ちを支える実践を計画、実践、評価できる力を培います。				
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい・内容について、子どもの姿と関連させて理解し、説明できる。 2. 領域「人間関係」に必要な援助と環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「人間関係」にかかわる諸実践や基本教材について学び、実践の構想力をつける。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;（担当教員：杉山沙旺美・渡邊拓真）</p> <p>第1回：オリエンテーション・領域「人間関係」の全体像（杉山）</p> <p>第2回：個々への丁寧な関わりと集団保育の展開（杉山）</p> <p>第3回：育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成（杉山）</p> <p>第4回：多様な感情の経験と人との関わりを支える保育者の在り方（杉山）</p> <p>第5回：きまりをめぐる様々な子どもの葛藤・ルールのある遊びと保育者の援助（渡邊）</p> <p>第6回：附属こども園での観察①ー参加観察（渡邊・杉山）</p> <p>第7回：附属こども園での観察②ー記録の作成（渡邊・杉山）</p> <p>第8回：指導計画案の作成①ー立案・実践・評価について（渡邊・杉山）</p> <p>第9回：指導計画案の作成②ー指導計画案の作成方法について（渡邊・杉山）</p> <p>第10回：附属こども園における参加観察の記録の共有（杉山）</p> <p>第11回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり（杉山）</p> <p>第12回：多様な配慮と保育構想（渡邊）</p> <p>第13回：領域「人間関係」を育むための保育実践ー模擬保育（計画立案）（渡邊・杉山）</p> <p>第14回：領域「人間関係」を育むための保育実践ー模擬保育（実践）（渡邊・杉山）</p> <p>第15回：領域「人間関係」に関わる現代的課題・授業のまとめと振り返り（杉山）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
アクティブラーニング	本授業では、保育実践方法を実際に遊びや活動を通して学びます。またこども園や子育て広場に参加します。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用し、リアクションペーパーや課題の提出、資料の閲覧、発表資料の作成等を行います。				
評価方法	<p>授業への取り組み（グループ活動への参加、ミニ課題）：20%</p> <p>指導計画案作成・模擬保育への取り組み：30%</p> <p>ポートフォリオ・事後学修課題：50%</p> <p>ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックは授業中に提示し説明する。</p>				
課題に対するフィードバック	各回に提出したポートフォリオについて、次の授業でフィードバックを行う。また、ポートフォリオ及び指導計画案については、最終提出時にコメントし返却する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
参考図書	下記参照				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
保育所保育指針解説 平成30年 3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9784577814482	
幼稚園教育要領解説 平成30年 3月		フレーベル館	240	9.7845778145e+12	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修として、指定図書の授業内容に関わる部分に目を通しておくこと。指導計画案の作成にあたっては、グループごとで活動内容に関する準備を行う。</li> <li>・事後学修では各回ポートフォリオを作成する。その際には授業で学んだ内容だけでなく、関連サイトや文献を用いながら作成し、次の回で提出すること。</li> </ul> <目安時間は40分程度>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は保育所、幼稚園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育内容（環境）				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	本科目では具体的な活動や事例を通して、子どもを取り巻く環境や、子どもと環境とのかかわりについての理解を深める。子ども達が多様な環境とかがわることで生まれる育ちや学びを支えていくための保育の在り方について学び、実践を計画、実践、評価できる力を培う。				
到達目標	1. 領域「環境」のねらい・内容について、子どもの姿と関連させて理解し、説明できる。 2. 領域「環境」に関わる援助と環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「環境」にかかわる諸実践や基本教材について学び、実践の構想力をつける。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション：乳幼児教育の基本と保育内容「環境」 第2回：環境デザインと保育者の役割 第3回：自然とのかかわりを支える保育の展開－計画 第4回：自然とのかかわりを支える保育の展開－実践 第5回：モノとのかかわりを支える保育の展開－計画 第6回：モノとのかかわりを支える保育の展開－実践 第7回：社会とのかかわりを支える保育の展開 第8回：領域「環境」と小学校教育のつながり 第9回：保育における飼育栽培の実践事例 第10回：保育における飼育栽培と調理 第11回：環境に関わる現代的課題 第12回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（計画立案） 第13回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（実践） 第14回：身近な素材を用いた保育の実際－模擬保育（振り返り） 第15回：まとめと振り返り 定期試験は実施しない。				
アクティブラーニング	本授業では、実際に遊びや活動を行うことを通して学ぶとともに、子育て広場に参加しその実践に学ぶ。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み（グループ活動への参加、課題、指導計画案作成、模擬保育等）：40% ポートフォリオ：60% ポートフォリオはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックは授業中に提示し説明する。				
課題に対するフィードバック	各回に提出したポートフォリオについて、次の授業でフィードバックを行う。最終提出時にポートフォリオにコメントし、返却する。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
参考図書	・「0-5 歳児 子どもの「やりたい！」が発揮される保育環境～主体的・対話的で深い学び				

	<p>へと誘う〜」宮里暁美監修（学研プラス）          他は以下に記載します。</p> <p>その他、授業内で適宜提示する。</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼稚園教育要領解説 平成30年 3月		フレーベル館	240	9784577814475	
保育所保育指針解説 平成30年 3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9.7845778145e+12	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保育実践について学ぶ準備のための課題を事前に提示する。</li> <li>・事後学修では各回ポートフォリオを作成する。提示された課題だけでなく、授業内容を復習してまとめるなど工夫すること。</li> </ul> <p>&lt;それぞれの目安時間は40分程度&gt;</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は保育所での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	保育内容（表現）
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	子どもの発達を「表現」の領域の観点からとらえ、子どもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるよう支援する方法を習得する。身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。特にかいたりつくったりする活動では、用具の基本的な扱い方など保育実践に生きる学びを自ら積み上げ整理していく。保育所・幼稚園等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 2. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 鈴木光男 和久田佳代</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：鈴木光男 幼稚園教育要領や保育所保育指針などで「表現」がどのような位置づけやねらい及び内容となっているかを理解し、今後の学習の見通しを持つ。</p> <p>身体表現・音楽表現に関する知識と技術：和久田佳代</p> <p>第2回：さくら・さくらんぼのリズム遊び 第3回：リズム遊びの体験と支援 演習 第4回：発育発達過程を活かした表現、リズム遊びの創作 第5回：子どもが進んで遊ぶ表現遊び、リズム遊び（発表）</p> <p>造形表現・即興的総合的な表現に関する知識と技術：鈴木光男</p> <p>第6回：子どもの表現と支援・指導のポイント① ・物語を紡ぎ出すアートの見立てを生かしたワークショップ インターネット上の事例や実践現場のビデオから見つけた保育のよい点、問題点などをもとに造形的な遊びや活動における支援・指導のポイントを理解した上で、色や形、あるいは音や動きなどから見立てたイメージを共有しながら楽しさをふくらませていく遊び・活動を体験する。</p> <p>第7回：子どもの表現と支援・指導のポイント② ・ワークショップ《遊びをつくる》を基本プランに 身近材を使った見立て遊びの保育実践を体験したり、表現主題と活動主題の違いを理解したりする。</p> <p>第8回：表現の実際と展開 ① ・3歳児「畑に花を咲かせましょう」の保育実践ビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成</p> <p>第9回：表現の実際と展開 ② ・3歳児「ケーキをつくろう」「お好み焼き」の保育実践ビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成</p> <p>第10回：表現の実際と展開 ③ ・ICTなどの機材を活用した保育実践や演劇などのビデオを視聴し、検討する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成</p> <p>第11回：表現の実際と展開④ ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 ・模擬保育の準備</p> <p>第12回：模擬保育の発表① ・模擬保育の発表と検討・協議</p>

	<p>第13回：模擬保育の発表② ・模擬保育の発表と検討・協議</p> <p>第14回：模擬保育の発表③ ・模擬保育の発表と検討・協議</p> <p>第15回：模擬保育の発表④ ・模擬保育の発表と検討・協議・まとめ</p> <p>※定期試験は実施しない</p>				
アクティブラーニング	<p>LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有</p> <p>現場実践の動画による検討や考察、協議</p> <p>グループによる模擬保育の立案と発表</p> <p>保育所・幼稚園等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。</p>				
授業内の ICT 活用	<p>ICT を活用した実践事例にふれたり、模擬保育で活用したりする。</p> <p>模擬保育指導案の共同作成や気付きの共有などはクラウドを活用して進める。</p>				
評価方法	<p>(1) 授業で課した課題 (模擬保育・保育案などのレポート) の評価…40%</p> <p>(2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …60%</p> <p>※ルーブリックについて</p> <p>保育案や模擬保育で評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、保育案や模擬保育については視点を授業内で示す。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを共有する。</p> <p>模擬保育のための指導案や模擬保育の発表をもとにフィードバック、ならびにフィードバックを FORWARD する。</p>				
指定図書	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	<p>斎藤公子著「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社</p> <p>槇英子著「保育をひらく造形表現」(萌文書林)</p> <p>大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論 (新訂版)」(日本文教出版)</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	<p>以下のような内容の事前・事後学修に取り組むものとして、それぞれの授業ごとに40分を目安に取り組むようにしましょう。</p> <p>和久田：WebClass に学びを記録する (事後学修) 2～5回</p> <p>和久田：WebClass による動画視聴 (事前学修) 3～5回</p> <p>鈴木：記述による学習記録 (事後学修)・10～15回では保育案の作成と模擬保育の準備 (事前・事後学修)</p> <p>※保育案を作成するに当たっては、必ず作品の試作などして教材研究を深めましょう。</p>				
オープンエデュケーションの活用	<p>・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。</p> <p>NHK「キミなら何つくる？」</p> <p><a href="https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000">https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000</a></p>				
オフィスアワー	<p>鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育内容総論				
科目責任者	山内 博子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容について理解し、子どもの発達との関係を理解する。</li> <li>・子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回： オリエンテーション</p> <p>第 2 回： 子どもを取り巻く環境とこれからの保育内容</p> <p>第 3 回： 保育所・幼稚園・認定子ども園の役割</p> <p>第 4 回： 乳幼児期にふさわしい生活</p> <p>第 5 回： 保育内容を展開するプロセス</p> <p>第 6 回： 乳児（1 歳未満）の保育内容</p> <p>第 7 回： 1・2 歳児の保育内容</p> <p>第 8 回： 3・4・5 歳児の保育内容</p> <p>第 9 回： 幼保小の連携と接続</p> <p>第 10 回： 異年齢児の保育内容</p> <p>第 11 回： 子育て支援を創造する保育内容</p> <p>第 12 回： 地域に根差した保育内容の展開</p> <p>第 13 回： 保育内容の変遷</p> <p>第 14 回： 諸外国の保育内容</p> <p>第 15 回： これからの保育内容の課題</p>				
アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験（60%）、課題への取組（20%）、受講態度（20%）にて総合的に評価する				
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う				
指定図書	なし 授業ごとに資料を配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考

参考図書	保育所保育指針ハンドブック 2017 告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 2017 告示版 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領ハンドブック 2017 告示版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学習；保育実習を踏まえ、5つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について学びます。(目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	障害児保育				
科目責任者	松下 恵美子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する</li> <li>2. 様々な障害について理解し、こどもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ</li> <li>3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める</li> <li>4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する</li> <li>5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：なぜ特別な支援が必要なのか（到達目標－障害児の保育の重要世を学ぶ）</p> <p>第2回：発達を理解する（到達目標－標準発達を学ぶ）</p> <p>第3回：発達の違いを理解する（領域ごとにみた発達を学ぶ）</p> <p>第4回：障害の特性を理解する（1）（到達目標－肢体不自由／知的障害を学ぶ）</p> <p>第5回：障害の特性を理解する（2）（到達目標－発達障害の定義を学ぶ）</p> <p>第6回：支援方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心の支援（到達目標－支援の視点を学ぶ）</li> </ol> <p>第7回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 発達論による支援（到達目標－支援のアプローチを学ぶ）</li> </ol> <p>第8回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 行動への支援（到達目標－困った行動の意味を学ぶ）</li> </ol> <p>第9回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 環境調整による支援（到達目標－ものや時間の調整を学ぶ）</li> </ol> <p>第10回：支援方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 周囲の人の連携による支援（到達目標－連携について学ぶ）</li> </ol> <p>第11回：支援の方法を考える実践ワーク（到達目標－支援の実際を学ぶ）</p> <p>第12回：個別の支援計画をつくる（到達目標－支援計画を学ぶ）</p> <p>第13回：ケーススタディ（到達目標－ケースから何が分かるかを学ぶ）</p> <p>第14回：保護者支援と今後の課題（到達目標－障害を持つ親の気持ちを学ぶ）</p> <p>第15回：まとめ（到達目標－障害児保育から何を学べたか）</p>				
アクティブラーニング	この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントは毎回次の授業でフィードバックします。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
障害児保育ワークブック	星山麻木	萌文書林	1900	9784893474094	

参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	毎回教科書のワークシートを使って事前課題・事後課題を出します。（目安時間 40 分）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う場合もある。その場合、1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。				

科目名	発達支援総論
科目責任者	和久田佳代
単位数他	2単位(時間) 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	発達支援にかかわる教育・保育者に求められる知識・理論を修得する。具体的には、発達障害や発達が気になる子について、それぞれの特性に関すること、様々な課題がある子どものアセスメント、それぞれの課題に対する支援方法、家庭や医療機関、関係機関との連携方法について、理解する。特別支援教育、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、社会福祉、心理学などそれぞれの専門家によるオムニバスで授業を行う。
到達目標	1. 発達障害(神経発達症)について説明できる。 2. 様々な特性の背景と支援方法について、説明できる。 3. 家庭や医療機関、関係機関との連携方法について、説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：発達支援とは 第2回：これまでの学びを整理する 第3回：これまでの学びを共有する 第4回：自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの発達 第5回：注意欠如・多動症(ADHD)の子どもの発達 第6回：限局性学習症(SLD)の子どもの発達 第7回：発達性協調運動症(DCD)の子どもの発達 第8回：コミュニケーション症の子どもの発達 第9回：子どもの感覚運動経験の発達と支援 第10回：基礎感覚を育てる 第11回：保育園等での支援 第12回：特別支援学校での支援 第13回：特別支援学級での支援 第14回：通級指導教室における支援 第15回：まとめ 確認テスト</p>
アクティブラーニング	○ディスカッション ○プレゼンテーション 意見交換を多く行い、学び合います。
授業内のICT活用	WebClass を活用する。

評価方法	確認テスト 50% 授業への取組 50% (参加度、ワークシート、WebClass)
課題に対するフィードバック	WebClass への記録について、次の授業でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	大城昌平編著「子どもの感覚運動機能の発達と支援」メジカルビュー 吉田ゆり編著「特別な支援を必要とする多様な子供の理解 医教連携で読み解く発達支援」北大路書房
事前・事後学修	WebClass 掲載資料を予習・復習する。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709                      時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし



科目名	発達支援演習
科目責任者	和久田佳代
単位数他	1単位（時間） 選択 6セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	「発達支援総論」や「特別支援教育」等での学修で得た知識・理論を実践に結びつけるために、保育実習、小学校インターンシップ等で出会った気になる子供や支援が必要な子供の具体的な事例を考察し、そのアセスメントや支援計画、家庭・医療・地域との連携・協働について理解を深める。そして、児童発達支援施設や放課後デイサービス等での演習を通して、現場実践力を身に付けるとともに、子供の発達特性、発達過程に応じた個別支援計画を作成できるようになる。
到達目標	1. 様々な発達特性について、理解を深め、考察できる。 2. 子供の発達特性、発達過程に応じた個別支援計画を作成できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：発達特性に応じた支援とは</p> <p>第2回：これまでの学びと実習での体験を整理する</p> <p>第3回：これまでの学びと実習での体験を共有する</p> <p>第4回：事例を通して自閉スペクトラム症とその支援を学ぶ</p> <p>第5回：事例を通して注意欠如・多動症とその支援を学ぶ</p> <p>第6回：事例を通してと限局性学習症その支援を学ぶ</p> <p>第7回：事例を通して発達性協調運動症とその支援を学ぶ</p> <p>第8回：事例を通してコミュニケーション症とその支援を学ぶ</p> <p>第9回：個別支援計画のためのアセスメント</p> <p>第10回：個別支援計画の作成（1）</p> <p>第11回：個別支援計画の作成（2）</p> <p>第12回：個別支援計画の実施（1）</p> <p>第13回：個別支援計画の実施（2）</p> <p>第14回：個別支援計画の評価</p> <p>第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	○ディスカッション ○グループワーク ○プレゼンテーション 意見交換を多く行い、学び合います。
授業内のICT活用	WebClass を活用する。

評価方法	個別支援計画（レポート）50% 授業への取組50%（参加度、ワークシート、WebClass）
課題に対するフィードバック	WebClass への記録について、次の授業でフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	木村順「発達が気になる子の感覚統合」学研 池畑美恵子「感覚と運動の高次化理論から見た発達支援の展開」学苑社 林万里「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万里「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会
事前・事後学修	WebClass 掲載資料を予習・復習する。（目安時間 40 分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	小学校インターンシップ I
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習 I～IIIを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 20 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木光男、飯田真也、福重浩之、竹本石樹 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【事前指導】</b> 第 1 回： ガイダンス (7 月) 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は夏季休業中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第 2 回： 小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定 (9 月) 第 3 回： 実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※10 月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。 <b>【実習の進め方】</b> 1. 学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 <b>【実習内容】</b> ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助・手伝いなど ③学級経営 (主に掲示) での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ など <b>【事中指導】</b> (11 月、12 月、1 月に 1 時間ずつ計 3 回実施) インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 <b>【事後指導】</b> (1 月) 実習の振り返り (発表と共有)</p>
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価 (40%) 実習ノート (30%)、

	<p>学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし、評価を確かなものとする。</p>																								
課題に対するフィードバック	<p>課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。</p>																								
指定図書	<p>授業時に適宜資料等を配布する。</p>																								
書籍名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>発売元出版社</th> <th>価格</th> <th>ISBN</th> <th>媒体種別／備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考																				
参考図書	<p>特になし</p>																								
書籍名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>発売元出版社</th> <th>価格</th> <th>ISBN</th> <th>媒体種別／備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考																				
事前・事後学修	<p>事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間40分。月に1度、確認する）。</p>																								
オープンエデュケーションの活用	<p>なし</p>																								
オフィスアワー	<p>福重 浩之（2607 研究室） メール：hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>																								
実務経験に関する記述	<p>本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>																								
メディア授業の実施について	<p>なし</p>																								

科目名	小学校インターンシップⅡ
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習Ⅰ～Ⅲを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木光男、飯田真也、福重浩之、竹本石樹 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【事前指導】</b> 第1回： ガイダンス（4月） 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は4月中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第2回： 小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定（4月） 第3回：実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※5月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。</p> <p><b>【実習の進め方】</b> 1. 学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。</p> <p><b>【実習内容】</b> ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助・手伝いなど ③学級経営（主に掲示）での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ など</p> <p><b>【事中指導】</b>（5月、6月、7月に1時間ずつ計3回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定</p> <p><b>【事後指導】</b>（8月） 実習の振り返り（発表と共有）</p>
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	授業時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価（40%） 実習ノート（30%） 学生と教員との面談における振り返り（30%）

	計100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし、評価を確かなものとする。				
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。				
指定図書	授業時に適宜資料等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間40分。月に1度、確認する）。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	小学校インターンシップⅢ					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ⅱ同様に、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科・領域の学習や特別活動など主には授業場面で児童と関わり、授業の進め方を実践的に理解することを目的とする。					
到達目標	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱ、教育実習を踏まえ、同じ小学校にて実習し、主には教科・領域の授業内での児童の学習指導に関わり、教師の役割を知ると共に基本的な授業の進め方を理解し、現職教師としての資質能力につなげる。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;鈴木光男、飯田真也、福重浩之、竹本石樹          &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【事前指導】</b>          目標と計画の設定          授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定          ※受け入れ先小学校への事前訪問は 10 月初旬までに済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。          ※その後、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。</p> <p><b>【実習の進め方】</b>          1. 学生はインターンシップ実習ⅠⅡと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。          2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う。          3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。          4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。</p> <p><b>【実習内容】</b>          ①Ⅰ・Ⅱから引き続き授業内外の活動を通して、児童への関わりを深める。          ②つまずきのある児童や特別な支援を必要とする児童への支援・指導のあり方を知り、授業内で関わる。          ・教師の支援・指導上のポイントの把握 など          ③授業や特別活動を通して、児童へのかかわり方を理解し、実践する。          ・運動会や各種行事での指導のあり方の把握          ・各授業の学習過程の違いやポイントの理解など</p> <p><b>【事中指導】</b> (11 月、12 月、1 月に 1 時間ずつ 3 回実施)          インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定</p> <p><b>【事後指導】</b> (1 月)          実習の振り返り (発表と共有)</p>					
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業内の ICT 活用	授業時に指導案の作成や実践報告時に使用する。					
評価方法	実習先小学校からの評価 (40%)、実習ノート (30%)、学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100%					
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。					
指定図書	授業時に適宜資料等を配布する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	

参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。</p> <p>事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール:hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	総合演習 I
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。          直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</li> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員の Web シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<p>&lt;こども教育福祉学科&gt;          I : 授業への参加状況 (出席、参加度 (意欲・態度)、レジュメ等) 50%、レポート 50%          II : 授業等への参加状況 (出席、参加度 (意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終提出物はルーブリック (WebClass に掲載) を用いて評価する。</li> </ul>
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。

ク						
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること					
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照					
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照					
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照					
メディア授業の実施について	基本的にはなし。 必要に応じて実施する。					

科目名	総合演習Ⅱ
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位 (30時間) 必修 78セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。          直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員の Web シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<p>&lt;こども教育福祉学科&gt;</p> <p>Ⅰ：授業への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、レジュメ等) 50%、レポート 50%</p> <p>Ⅱ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終提出物はルーブリック (WebClass に掲載) を用いて評価する。</li> </ul>
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。

ク						
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
事前・事後学習	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえて自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること					
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照					
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照					
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照					
メディア授業の実施について	基本的にはなし。 必要に応じて実施する。					

科目名	国際バカロレア教育概論				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	国際的視野を持つ人間へと育つためには、国際教育とは何かについて、国際バカロレア (IB) の枠組み—概論を通して理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際バカロレア (IB) における教師の役割を理解する。</li> <li>2. 国際教育や国際バカロレア (IB) の理念に影響を与えた方法論について把握する。</li> <li>3. 国際バカロレア (IB) の学習者像やエイジェンシーに焦点を当て、アイデンティティと生涯学習者としての学びについて考える。</li> <li>4. 教育における自己肯定感の大切や役割について省察する。</li> <li>5. 国際バカロレア (IB) における国際教育の学びを成果について考察する。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          &lt;担当教員名&gt;モーテン・ヴァテン、太田雅子          第1・2回：授業のオリエンテーション (課題と評価について) 国際教育と IB。隣人愛と国際教育、多様性、国際的視野と異文化理解について          ヴァテン、太田          第3・4回：IB と PYP (初等教育プログラム) の5つの基本要素          ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン)          第5・6回：様々な思考法 (批判的・創造的・言語的・概念的思考など)、構成主義 (主体的)          ヴァテン、菅井          第7・8回：IB の学習者と国際的視野、社会的構成主義(対話的)          ヴァテン・菅井          第9・10回：IB の学習者：エイジェンシー          ヴァテン、菅井          第11・12回：IB の学習者：声・選択・オーナーシップ          ヴァテン          第13・14回：IB の学習者：行動          ヴァテン          第15回：まとめと振り返り          ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン)</p>				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加：45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む)：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MYIB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育課程論				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	国際バカロレア (IB) 教育・PYP (プライマリーイヤーズ) のカリキュラムの構造、特徴について理解をする。21 世紀型の教育実践について学びを深める。				
到達目標	1. PYP のカリキュラム (逆向き設計、パフォーマンス評価と協働学習) について理解する。 2. PYP における探究型学習の実践について理解する。 3. 21 世紀型スキルと PYP におけるテクノロジーについて理解する。 4. 持続可能な開発のための教育 (ESD/SDG) 授業のつくり方と環境教育の今後の方向性について理解する。 5. PYP における日本と国際カリキュラムについて理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン、鈴木光男 第1・2回: IB/PYP のカリキュラムとは?概念型探究学習と IB の学習者像 ヴァテン、ゲストスピーカー(ピーター・サガン) 第3・4回: 生涯学習者のスキルを育てる。21 世紀型スキルと目標設定 ヴァテン 第5・6回: カリキュラムは何のためのものか、PYP カリキュラムの原理 ヴァテン 第7・8回: 逆向き設計、パフォーマンス課題の指導案 ヴァテン 第9・10回: PYP におけるテクノロジー (グローバル・デジタルシティズンシップ) ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン) 第11・12回: 持続可能な開発のための教育、学習者の行動について考える (SDGs ワークショップ) ヴァテン、鈴木 第13・14回: 日本と国際カリキュラム: 比較検討, パフォーマンス課題の実践 ヴァテン 第15回: パフォーマンス課題の実践、まとめと振り返り ヴァテン、鈴木				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加: 45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む): 55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」を作成すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				



科目名	国際バカロレア教育方法論					
科目責任者	Morten J. Vatn					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	PYP の教育アプローチ (方法) を理解する。また、教科横断的なテーマ (TT)、中心的アイデア (CI)、探究の流れ (LOI)、探究プログラム (POI)、探究の単元 (UOI) をどのように作成し、評価するかを学ぶ。さらに、PYP のエキシビション (PYPX) の位置付けを理解する。					
到達目標	1. PYP の学校で行われている概念型探究学習について、より深く理解する。 2. 探究の単元 (UOI) を作成する。 3. 中心的アイデア (CI)、探究の流れ (LOI)、重要概念 (KC)、関連概念 (RC)、学習者像が POI の内外でどのように統合され、発展していくかを検討する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第1・2回: 教科横断的な枠組みの中での教師の役割と協働設計とは ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン) 第3・4回: 中心的アイデア (CI) を作成する。関連概念とは? ヴァテン 第5・6回: 探究の単元プランナー (UOI) を通して協働設計と逆向き設計を再検討する。 ヴァテン 第7・8回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ① ヴァテン 第9・10回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ② ヴァテン 第11・12回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ③ ヴァテン 第13・14回: PYPX (PYP エキシビション) 実戦と評価 ヴァテン 第15回: まとめと振り返り ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン)					
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。					
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。					
評価方法	授業参加: 45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む): 55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。					
指定図書	講義の中で随時、案内する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	講義の中で随時、案内する。					

	グラント ウィギンズ (著), ジェイ マクタイ (著), Grant Wiggins (原名), Jay McTighe (原名). 理解をもたらすカリキュラム設計―「逆向き設計」の理論と方法. 2012				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践 不確実な時代を生き抜く力	H. リン・エリクソン 著	北大路書房	3400	9784762831201	
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます (毎回の学習時間の目安は約 40 分)。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること (各 40 分、2 回から 15 回まで)</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること (各 40 分、2 回から 15 回まで)</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと (全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること)</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ルーブリックで自己評価してから提出すること (80 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO (国際バカロレア機構・MY IB) が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部 研究室：5706 (5 号館) 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (morten@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場がある。				

科目名	国際バカロレア教育学習アセスメント				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	PYP における評価の目的、効果的な評価の特徴、また、PYP 校でどのように統合的な評価の文化を育めるかについて学びます。そして、評価する能力のある教師になるために、フィードバックや多数のストラテジーを活用して自分の学習を調整し、改善します。さらに、PYP における評価はどのように行われるか、つまり学習のモニタリング、記録、測定や報告をどのように支えることができるかを理解します。				
到達目標	1. 学習評価の在り方について理解する。 2. PYP の教師として学習のモニタリング、記録、測定や報告の実践を理解する。 3. 厳格な評価の仕組みを計画的に協働設計する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第 1・2 回：学習評価の在り方について、学習のための評価 学習の評価 学習としての評価 ヴァテン 第 3・4 回：IB 国際バカロレアの厳格な評価の仕組み、効果的なフィードバック（フィードバックを受ける, フィードフォワードを提供する） ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 5・6 回：評価戦略の開発 - 創造性は評価できるのか？ ヴァテン 第 7・8 回：感情知能（E I）」と「文化の知能指数 C Q）」を探り、自己肯定感を育む ヴァテン 第 9・10 回：評価の最適個別化, SOLO を使った理解の評価 主体性の評価 ヴァテン 第 11・12 回：PYPX（PYP エクシビション）実戦と評価 ヴァテン 第 13・14 回：PYPX（PYP エクシビション）実戦と評価 ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 15 回：まとめと振り返り ヴァテン				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加：45% 毎回の課題（レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育総合演習				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	IBEC コース 1～4 を踏まえて、PYP 教員の実力を想定した実習を行う。また、実践を通して、協働設計と反省的实践家のスキルを高め、IB における指導と学習の意味を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロセスジャーナルを作成する。</li> <li>2. 個別化された学習者の対応をする。</li> <li>3. アクティブラーニングを実践する。</li> <li>4. 形成的評価を行う。</li> <li>5. 様々なリソースを活用する。</li> <li>6. プロジェクトを報告する。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;          &lt;担当教員名&gt;モーテン・ヴァテン、太田雅子、二宮貴之、鈴木光男          第1・2回：オリエンテーション、IB/ PYP の「学習と指導」の境界を設定する。IB/PYP 認定校実践の内容について検討する。          ヴァテン、二宮          第3・4回： 実践の事前準備 ― 聖隷クリストファー小学校と子ども園での「教師の役割」・「POI・UOI」 ・「ファシリテーション」          ヴァテン、二宮          第5～12回：実践Ⅰ 聖隷クリストファー小学校・子ども園（認定校）での実習（プロセスジャーナルに記録・毎回提出）          ヴァテン、二宮          第13～14回：実践Ⅱ サレジオ小学校と名古屋インターナショナル（認定校）での実習          ヴァテン、二宮          第15回：まとめ、振り返り（レポート、プロセスジャーナル提出）</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。          ※実戦はIB認定校である聖隷クリストファー小学校・聖隷クリストファー大学附属クリストファー子ども園・静岡サレジオ幼稚園・小学校と名古屋インターナショナルスクールで行います。</p>				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」を作成すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ 実習中にグループでのプロセスジャーナルを作成し、次回の実習日までに提出すること（40分）</p> <p>⑤ 実習期間終了後にレポートを作成し、ルーブリックで自己評価を行った後、提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部  研究室：5706（5号館）  時間については、初回授業時に提示します。  上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	多文化共生と教育					
科目責任者	宇都宮 裕章					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	グローバル化の進行に伴い、国籍や文化的背景・使用言語が異なる人々との間の相互理解と共生に向けて必要とされる点 (価値観・ゴール・方法) について学ぶ。特に、公教育場面における言語 (日本語) 教育の実態・内容・方法について検討し、外国に繋がる子どもたちの学習・生活支援について理解を深める。					
到達目標	1. 地域共生社会における教育について、その理論と実際を理解する。 2. 国際理解教育・多文化共生教育・言語教育について理解する。 3. 外国に繋がる子どもたちの学習・支援について理解する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 公教育場面での多文化共生 (授業概要・現状・背景) 第2回 多文化・多言語環境への対応 (目標・方向性) 第3回 学習者 (主体) を考える 1 第4回 学習者 (主体) を考える 2 第5回 実践研究演習 1 (資料分析・文献調査) 第6回 教育内容 (素材) を考える 1 (素材観) 第7回 教育内容 (素材) を考える 2 (種類) 第8回 教育内容 (素材) を考える 3 (対応) 第9回 教育内容 (素材) を考える 4 (取り扱い方) 第10回 実践研究演習 2 (素材分析) 第11回 教育環境 (場面) を考える 1 (環境・状況) 第12回 教育環境 (場面) を考える 2 (活動方法) 第13回 教育環境 (場面) を考える 3 (形成過程) 第14回 教育環境 (場面) を考える 4 (評価・デザイン) 第15回 実践研究演習 3 (場面分析)					
アクティブラーニング	グループディスカッションやプレゼンテーション等、共同的な学びを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	中間課題 15%、授業への取り組み 75%、期末課題 10%					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、ワークシート等を元に授業時間の中でフィードバックをする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	宇都宮裕章(2011)『新ことば教育論』風間書房					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として1時間程度の事前・事後学					

	修をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	日本語教育の実務経験者による講義
メディア授業の実施について	なし



科目名	多様な子どもの理解				
科目責任者	池田 信子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	子どもの複雑化・多様化した課題（不登校・貧困・外国国籍・発達支援等）に対応するための理解を深める。個々の問題やニーズの理解と方法、協力体制の作り方について理解を深める。				
到達目標	1. 様々な課題を抱える子どもやその家庭の現状について理解する。 2. 支援のための方法を理解する。 3. チーム・アプローチについて理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 特別な支援を必要とする子どもについての理解（現状） 第2回 発達障害特性がある子どもについての理解 第3回 発達障害特性がある子どもへの支援（事例検討） 第4回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもについての理解 第5回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討） 第6回 ヤングケアラーの実際 第7回 言語・文化の異なる子ども（外国国籍）についての理解 第8回 家庭支援が必要なケースについて（貧困・養育の問題、マルチリトメント） 第9回 特別な課題のある子どもの理解（LEBT、ギフテッド） 第10回 特別な課題のある子どもの理解（災害被災者、産前産後のケア） 第11回 特別な課題のある子どもの理解（見た目問題等） 第12回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて「Team 学校」（概要） 第13回 連携、インクルーシブを学ぶ 第14回 グループワーク（ケース検討） 第15回 まとめ・小テスト				
アクティブラーニング	事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート課題(2回)60% 授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20% 小テスト20% ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。				
指定図書	プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習				

	をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	多様な子どもの支援				
科目責任者	池田 信子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	複雑化・多様化する子どもの問題構造と支援方法について、事例から理解する。子どもの背景・文脈を含めた多様なアセスメントと問題解決の実際を学ぶ。「チーム学校」の展開について理解する。組織として機能するための自己のあり方について理解を深める。				
到達目標	1. 個別アセスメントの方法を理解する。 2. 学習支援の方法について理解する。 3. 校（園）内連携・専門職連携の実際について理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 支援のためのアセスメントとは 第2回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法(理論、ワーク) 第3回 愛着障害についての理解と支援 第4回 発達障害の理解と支援 第5回 発達障害の二次障害の理解と支援 第6回 クラスにおけるユニバーサルデザインの視点 第7回 指導計画と模擬授業についての説明 第8回 個別課題に合わせた指導計画と模擬授業（保育）・発表① 第9回 個別課題に合わせた指導計画と模擬授業（保育）・発表②、フィードバック 第10回 相談援助技術演習(自分の価値観、他者の価値観) 第11回 保護者に対する相談支援の技法①(多様性を受け入れる) 第12回 保護者に対する相談支援の技法②(振り返る・学ぶ) 第13回 療育的アプローチの実際 第14回 チーム学校についての理解を深める 第15回 まとめ ・小テスト				
アクティブラーニング	ワークや事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート課題(2回)60% 授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20% 小テスト20% ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。				
指定図書	プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として40分程度の事前・事後学習				

	をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	プログラミング教育 I				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	<p>●小学生に必要な「プログラミング的思考」を学ぶ。</p> <p>●具体的には、ゲームづくりや生活に役立つものづくり等に取り組む中で、体験的に「プログラミング的思考」についての理解を深める。</p> <p>*「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>小学生に「プログラミング的思考」を育成する必要性を理解できる。</li> <li>小学校における「プログラミング的思考」育成のための教材活用スキルを習得できる。</li> <li>小学校の授業場面における「プログラミング的思考」育成のためのポイントを習得できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス (現代社会とプログラミング、プログラミング的思考、基本アルゴリズム、小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯など)</p> <p>第2回：理科・プログラミング授業の検討(MESH 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第3回：理科・プログラミング授業の検討(MESH 活用演習①)</p> <p>第4回：理科・プログラミング授業の検討(MESH を活用演習②)</p> <p>第5回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第6回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習①)</p> <p>第7回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習②)</p> <p>第8回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習③)</p> <p>第9回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第10回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習①)</p> <p>第11回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習②)</p> <p>第12回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習③)</p> <p>第13回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想 (検討)</p> <p>第14回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想 (発表)</p> <p>第15回：授業のまとめと振り返り</p>				
アクティブラーニング	ものづくりの重視 グループによる模擬授業の検討と発表、リフレクション				
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。				
評価方法	(1) 授業で課した課題 (教材開発、プレゼンテーションなど) の評価…60% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …40%				
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
指定図書	授業時に資料配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	プログラミング教育Ⅱ				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	<p>●「プログラミング教育Ⅰ」で育成した「プログラミング的思考」を基礎とし、小学校のプログラミング教育実践を行う上で必要とされる教材開発や指導の手法等を習得する。</p> <p>●具体的には、小学校の算数、理科、総合的な学習の時間等におけるプログラミング教育実践を構想し、その指導案を作成する。そして、それに基づいた模擬授業を行うことにより、プログラミング教育における実践的指導力を育成する。</p> <p>*「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>小学生に「プログラミング的思考」を育成する必要性を理解できる。</li> <li>小学校におけるプログラミング教育の教材開発方法や指導方法を習得できる。</li> <li>小学校におけるプログラミング教育の授業を構想し実践できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス (小学校におけるプログラミング実践、教師に必要な実践的指導力)</p> <p>第2回：先進的な取組 (STEAM 教育、未来の教室等)</p> <p>第3回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_実践の方向性検討</p> <p>第4回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_教材開発</p> <p>第5回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_教材開発</p> <p>第6回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_指導案作成</p> <p>第7回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_模擬授業とリフレクション</p> <p>第8回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_授業改善</p> <p>第9回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_実践の方向性検討</p> <p>第10回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_教材開発</p> <p>第11回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_教材開発</p> <p>第12回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_指導案作成</p> <p>第13回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_模擬授業とリフレクション</p> <p>第14回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_授業改善</p> <p>第15回：総括 (カリキュラムマネジメント、教師に必要な実践的指導力)</p>				
アクティブラーニング	ものづくりの重視 グループによる模擬授業の検討と発表、リフレクション				
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。				
評価方法	(1) 授業で課した課題 (模擬授業、指導案、教材開発など) の評価…60% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …40%				
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
指定図書	授業時に資料配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	国際教育実習 I
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。</p> <p>「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。</li> <li>2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。</li> <li>3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。</li> <li>4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。</li> <li>5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン &lt;授業内容・テーマ等&gt; 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる—実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト）</li> <li>2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習</li> <li>3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察</li> <li>4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する</li> </ol>
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者の評価</li> <li>・事前事後学習の取り組み（レポートを含む）</li> <li>・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。</li> </ul>
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	インマヌエルカレッジに関するパンフレット等					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は40分					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際教育実習Ⅱ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。</p> <p>「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。</li> <li>2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。</li> <li>3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。</li> <li>4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。</li> <li>5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン &lt;授業内容・テーマ等&gt; 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる—実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト）</li> <li>2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習</li> <li>3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察</li> <li>4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する</li> </ol>
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者の評価</li> <li>・事前事後学習の取り組み（レポートを含む）</li> <li>・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。</li> </ul>
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。          事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える          学修の目安時間は 40 分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	保育原理				
科目責任者	太田 雅子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	子どもの育ちは、その社会環境に大きく影響をされる。保育の現状と課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・法令・制度について理解を深める。保育所の役割・責任と保育所保育の基本（保育所保育指針に示される内容）について理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義と目的について理解する（法的根拠・制度的位置づけを理解する）</li> <li>2. 保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。</li> <li>4. 保育の思想・歴史的変遷について理解する。</li> <li>5. 保育の現状と課題について理解する。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・保育についてこれから学ぶこと</p> <p>第2回：子ども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任</p> <p>第3回：保育に関する法令・制度（子ども・子育て支援制度）</p> <p>第4回：保育の目標及び内容（保育所保育指針）</p> <p>第5回：保育に関する基本原則—環境を通して行う保育</p> <p>第6回：保育に関する基本原則—遊びを通しての学び</p> <p>第7回：子どもの理解に基づく保育</p> <p>第8回：保育の計画と評価</p> <p>第9回：保護者支援（地域子育て支援）</p> <p>第10回：地域社会で行う子育ての支援</p> <p>第11回：特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ</p> <p>第12回：保育所職員の資質・専門性の向上</p> <p>第13回：日本における保育の思想・歴史的変遷・制度</p> <p>第14回：子どもの育ちと社会環境、現代の保育（育児）の課題と取り組み</p> <p>第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	小テスト（50%）、授業態度（20%）リアクションペーパー・課題等（30%）計100% ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。				
指定図書	保育所保育指針解説（平成30年3月・厚生労働省編）フレーベル館				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	保育所保育指針解説（平成30年3月・厚生労働省編）・フレーベル館				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくはオフィスアワー等にメールにて事前連絡によって対応いたします。				
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	児童・家庭福祉論				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	子どもは一人の人間として尊重されるべき存在であるが、成長・発達段階にある子どもの声は、一緒に生活する家族や大人の声にかき消されてしまうことがある。この科目では、子どもが権利の主体であることを理解し、子どもと家族を取り巻く社会環境や子ども観・子育て観、児童福祉施策・制度・サービスについて学び、子どもの権利に主眼をおいた子どもと家族への支援のあり方を理解することを目的としている。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの権利、変容する家族形態について理解できる</li> <li>2. 子どもと家族の生活実態とこれを取りまく取り巻く社会環境について理解できる</li> <li>3. 児童・家庭に係る法制度について説明できる</li> <li>4. 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職の役割について説明できる</li> <li>5. 児童・家庭に対する支援の実際について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<授業内容・テーマ>  第1回 オリエンテーション、児童・家庭福祉の理念 第2回 子どもの最善の利益、子どもの権利保障 第3回 児童・家庭福祉の変遷 第4回 子どもと家族の生活とこれを取り巻く社会環境 第5回 児童・家庭福祉を支える法制度、実施体制 第6回 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職 第7回 児童・家庭福祉の支援の実際① 母子保健 第8回 児童・家庭福祉の支援の実際② 子ども・子育て支援、保育サービス 第9回 児童・家庭福祉の支援の実際③ 障害児支援 第10回 児童・家庭福祉の支援の実際④ 学齢期の子どもへの支援 (外部講師) 第11回 児童・家庭福祉の支援の実際⑤ 子どもの貧困 第12回 児童・家庭福祉の支援の実際⑥ ひとり親家庭への支援 第13回 児童・家庭福祉の支援の実際⑦ 児童虐待とドメスティック・バイオレンス 第14回 児童・家庭福祉の支援の実際⑧ 社会的養護 第15回 今後の児童・家庭福祉				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う</li> <li>・講義中、発言を求めることがある</li> </ul>				
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う。授業中、インターネットで検索する等PCを用いるため、PCは必携。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー30%、レポート10%、期末テスト60%</li> <li>リアクションペーパーについては、事後学修の欄を参照すること。</li> <li>・レポート評価にルーブリックを用いる。</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパーについては、授業内でフィードバックを行う</li> </ul>				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 児童・家庭福祉	岩崎 晋也	ミネルヴァ書房	2600	9784623092703	冊子版

参考図書	授業中に随時提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく（40分）</p> <p>【事後学修】授業資料・教科書等を用いて授業内容を振り返ること。毎回授業で学んだことをまとめ、リアクションペーパーとともにWebClassに提出する（40分）</p> <p>・第10回外部講師の授業に関してレポート課題を課す。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708） 日時については初回授業時に提示する メール：tomoko-iz@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	社会福祉論				
科目責任者	坂本 道子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している				
科目概要	本科目は保育士資格取得のための科目として、子どもや子どもを取り巻く人々や環境の「しあわせ」を実現するために、「社会福祉」がどのようなシステムを形成し、役割を果たしているのか、その実現の方法は何かを理解し、保育士として自らがかわる基礎的知識を習得することを目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉および保育の意義と歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</li> <li>2. 社会福祉および保育の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉、特に保育・療育場面における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉、特に保育・療育における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉、特に保育・療育の動向と課題について理解する。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;坂本道子</p> <p>第1回：オリエンテーション、保育士が「社会福祉」を学ぶ意義、視点  第2回：序章 社会福祉へようこそ——人の生涯と社会福祉  第3回：子どもと家族の福祉①——女の子誕生、子育て、離婚、親権  第4回：子どもと家族の福祉②——母子家庭、貧困、行政、権利  第5回：子どもと家族の福祉③——施設、サービス、社会的養護、法律  第6回：社会保障——就職、社会保障の仕組み、年金制度、医療保険  第7回：障がい児・者福祉①——障がい児の担任、障がいの捉え方・種類  第8回：障がい児・者福祉②——障がい児の法律・制度  第9回：女性への福祉的支援——DV 被害、自立、産休・育休  第10回：地域福祉——保育士として地域とかわる  第11回：保育ソーシャルワークとは——相談援助の意義と機能  第12回：保護者支援——相談援助の方法・過程・技術  第13回：低所得者の福祉——実父がリストラに  第14回：高齢者福祉——介護と穏やかな老後  第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイ、グループワークなど、演習形式も取り入れ展開します。				
授業内の ICT 活用	Webclass を使用します				
評価方法	評価は 100 点満点とし、評価方法ごとの点数配分は次のとおりです。 授業への取組姿勢 25%、毎回授業終了後 WebClass 入力 25%、 定期試験テスト（レポート） 50%				
課題に対するフィードバック	アクティブラーニングに基づく対話型課題に対するフィードバックやリアクションペーパーに対するフィードバックを授業中に行います				
指定図書	直島正樹・原田旬哉編著 2015・2022 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林 2100 円＋税				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	相澤譲治・杉山博昭編集 200・2024『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』みらい 2200 円＋税 その他授業中に提示します				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	1. テキストや Webclass に掲載された資料を、事前・事後に熟読し、授業内容を理解する (30分-40分) 2. 毎回、授業によって得た知識や感想、考察や課題をリアクションペーパーとして Webclass に入力し、知識の定着と自己覚知を進める (40分) 3. 期末のレポートを作成する (目安時間 90分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	子ども家庭支援論				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	この科目では、各家庭の背景、家族の状況を理解するための視点、子どもと家族が安全に安心して生活できるよう、保育の専門性を活かした子ども家庭支援について学ぶ。地域の資源の活用、関係機関との連携・協力等により展開されている子どもと家族のニーズに応じた多様な支援について、事例や映像教材を用いて学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭支援の意義について理解できる</li> <li>2. 子ども家庭支援に係る制度や実施体系等について説明できる</li> <li>3. 子どもの最善の利益、子どもの権利保障について説明できる</li> <li>4. 地域資源の活用、関係機関との連携等により行われている家族のニーズに応じた支援について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 子ども家庭支援の意義と目的</p> <p>第2回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</p> <p>第3回 子ども家庭支援に関連する社会資源</p> <p>第4回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援</p> <p>第5回 支援に必要な基本的態度・姿勢</p> <p>第6回 子ども家庭支援の形態と支援方法</p> <p>第7回 家庭の状況に応じた支援① 家族とは</p> <p>第8回 家庭の状況に応じた支援② ひとり親家庭への支援</p> <p>第9回 家庭の状況に応じた支援③ 障害のある子どもとその家族への支援</p> <p>第10回 家庭の状況に応じた支援④ 外国にルーツを持つ子どもと家族への支援</p> <p>第11回 家庭の状況に応じた支援⑤ 要支援・要保護児童とその家族への支援</p> <p>第12回 保育所等を利用する子どもと家族への支援</p> <p>第13回 地域の子育て家庭への支援</p> <p>第14回 子ども家庭支援における関係機関との連携・協働</p> <p>第15回 これからの子ども家庭支援</p>				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う</li> <li>・講義中、発言を求めることがある</li> </ul>				
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、課題・レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う。授業中にPCの利用を認める				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー30%、課題30%、最終レポート40%</li> <li>・授業への取り組み、課題、レポート評価にルーブリックを用いる。</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー、課題、レポートについては、授業内でフィードバックを行う</li> </ul>				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子ども家庭支援論 第2版	公益財団法人児童育成協会	中央法規出版	2000	9784805887882	
参考図書	授業時に提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する。(40分)</p> <p>【事後学修】授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、WebClass に提出する (40分)</p> <p>・課題、最終レポートについては初回授業で説明する。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>科目責任者の研究室 (2708)</p> <p>日時については、初回授業時に提示する</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会的養護 I
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解し、日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶ。また、家族から子どもへの虐待、施設入所中の子ども（被措置児童）への虐待の発見・対応・防止について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明できる。</li> <li>2. 子どもの権利擁護に基づく社会的養護の基本について理解できる。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明できる。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念</p> <p>第2回：社会的養護の歴史的変遷</p> <p>第3回：子どもの権利擁護と社会的養護</p> <p>第4回：社会的養護の基本原則</p> <p>第5回：社会的養護における保育士などの倫理と責務</p> <p>第6回：社会的養護の制度と法体系</p> <p>第7回：社会的養護のしくみと実施体系</p> <p>第8回：社会的養護の対象と支援のあり方</p> <p>第9回：家庭養護と施設養護</p> <p>第10回：社会的養護にかかわる専門職</p> <p>第11回：社会的養護に関する社会的状況</p> <p>第12回：施設等の運営管理の現状と課題</p> <p>第13回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題</p> <p>第14回：社会的養護と地域福祉の現状と課題</p> <p>第15回：社会的養護 I のまとめと社会的養護 II とのつながり</p>
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた社会的養護を必要とする子どもや家庭への支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート課題（60%）課題提出物（30%）、授業への取り組み・発表（10%）計 100%（課題提出物については、講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容

	などの全体から判断します)				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
社会的養護 I 第2版	公益財団法人児童育成協会	中央法規出版	2000	9784805887899	
参考図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
図解で学ぶ保育 社会的養護 I	原田旬哉	萌文書林	2000	9784893472793	
社会的養護 1	喜多 一憲 監修	みらい	2100	9.784860155e+12	
社会的養護入門	芝野 松次郎	ミネルヴァ書房	2400	9.7846230922e+12	
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分あててください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が児童家庭福祉支援における実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育者論
科目責任者	太田 雅子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	保育のプロフェッショナルを目指すとはどういうことなのかを考察します。保育士（保育教諭）の責務や倫理について理解を深めます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解し説明することができる。</li> <li>2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の制度的位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 「いのち」を育むって？保育って何？保育者を目指すと思ったのはなぜ？ 保育士（保育教諭）の制度的位置づけ 保育のプロフェッショナルを目指すとはどういうことなのか</p> <p>第2回： 保育園の目的・内容と保育士の役割・保育士の専門的な知識と技術とは？ 幼児教育の目的・内容と保育者の役割</p> <p>第3回： 「いのち」を守るって？ 保育者の資質として求められること 保育観とは？ 自分の理想とする保育とは？</p> <p>第4回： 保育士の責務と倫理①—子供の最善の利益の尊重・子供の発達保障 保護者との協力・プライバシーの保護</p> <p>第5回； 保育士の責務と倫理②—利用者の代弁・地域子育て支援 専門職としての責務</p> <p>第6回： 連携・協働・チームワークに必要なこと</p> <p>第7回： 子供と保育の実際：保育現場見学（こども園） こども園を見学して—ディスカッション</p> <p>第8回： 保育者を目指す者としての成長、キャリア・パス、研修 まとめと今後の課題（小テスト）</p>
アクティブラーニング	こども園見学・協同的ワーク等を通して体験的に理解する方法を用いる。提示された教材をもとにグループディスカッションや発表を行う。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。
評価方法	<p>小テスト 60%</p> <p>課題提出物 30%</p> <p>授業への取り組み 10%</p> <p>演習・課題提出物・小テストにより評価をするが、ルーブリックは用いない。</p>
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを次の回にできる限り返却する。また授業の中でそれについてのフィードバックをする。

指定図書	保育所保育指針解説（平成30年3月・厚生労働省編）フレーベル館				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	その都度、紹介いたします。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として40分程度の事前・事後学習をすること				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	子ども家庭支援の心理学				
科目責任者	鈴木 文子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	生涯発達および各発達段階の特徴を学び、子育て家庭の現状と課題を理解する。また、親子関係や家族関係を発達の観点から捉え、子どもと家庭を包括的に援助できる知識・技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達の視点を持ち、各発達段階の特徴を理解し説明できる。</li> <li>2. 家族・家庭の意義と役割、家族関係・親子関係について理解し、子どもや家族への援助について理解し説明できる。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を説明できる。</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について説明できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：イントロダクション、授業の進め方・生涯発達とは何か  第2回：乳児期の発達  第3回：幼児期の発達  第4回：学童期の発達  第5回：青年期の発達  第6回：成人期・中年期の発達  第7回：高齢期の発達  第8回：家族・家庭の意義と機能、家族関係・親子関係の理解  第9回：子育ての経験と親としての育ち  第10回：子育てを取り巻く社会的状況  第11回：ライフコースと仕事・子育て  第12回：多様な家庭とその理解  第13回：特別な配慮を要する家庭  第14回：子どもの生活・生育環境とその影響  第15回：子どものこころの健康に関わる問題</p>				
アクティブラーニング	事例をもとに、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用してグループワークおよびプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションでは、PC 等を用いて資料を作成し、プロジェクターを用いて発表を行います。				
評価方法	筆記試験 (50%) 課題提出物 (40%) 授業への取り組み・発表 (10%) により、総合的に評価する。 課題提出物は、個人課題およびグループ課題が含まれる。 授業への取り組み・発表は、リアクションペーパーの提出や発表状況、グループワークへの参加状況から判断する。				
課題に対するフィードバック	課題について、授業中に口頭で全体に対してフィードバックを行い、個別のフィードバックには Web Class を用いる。 リアクションペーパーの内容については、授業中に全体に対してコメント内容を紹介しながらフィードバックを行う。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
子ども家庭支援の心理学	児童育成協会 監修	中央法規出版	2000	9784805857892	

参考図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
子どもとかかわる人のための心理学	沼山博	萌文書林	2000	9784893473691	
事前・事後学修	<p>事前学習として、テキストを読み、分からない語句について調べておく。</p> <p>事後学習として、授業で行った内容について復習し、まとめる。授業中に提示された課題を行う。</p> <p>事前・事後学習は、各回 40 分間程度行うこと。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	研究室 時間帯については授業時に提示。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」として、医療、福祉、教育の分野で実践経験のある教員が担当します。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	子どもの保健
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の成長・発達、保健との関連、健康状態の把握と主な事故や疾病等の特徴を学ぶ。また、疾病の予防や適切な対応・方法、保育所保育指針に示される「養護」について、虐待防止、他職種との連携・協働について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の成長・発達の特徴、各発達段階における成長・発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面について理解する。</li> <li>2. 成長・発達における親・家族の関係について理解する。</li> <li>3. 現代社会における小児の健康状態と環境の問題と課題について学ぶ。</li> <li>4. 小児の食生活、基本的な生活習慣について理解する。</li> <li>5. 小児保健の動向を知り、小児の健全な成長・発達を支える養護について理解する。</li> <li>6. 乳幼児の健康診査と保健指導、小児の安全対策・応急処置、小児の主な疾患と予防および適切な対応を学び、保育における養護について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：宮谷 恵 小児と家族の心身の健康と保健の意義</p> <p>第2回：市江 和子 小児の成長・発達（1）形態・機能的側面</p> <p>第3回：市江 和子 小児の成長・発達（2）心理・社会的側面</p> <p>第4回：市江 和子 現代社会における小児の健康の現状と発達評価</p> <p>第5回：市江 和子 発達と母子相互作用</p> <p>第6回：宮谷 恵 小児の基本的な生活習慣（1）新生児期・乳児期</p> <p>第7回：宮谷 恵 小児の基本的な生活習慣（2）幼児期・学童期</p> <p>第8回：宮谷 恵 小児期の栄養と食生活</p> <p>第9回：小出 扶美子 小児の虐待を取り巻く環境と虐待が小児に与える影響</p> <p>第10回：宮谷 恵 小児の事故と安全対策・応急処置</p> <p>第11回：宮谷 恵 小児保健の動向（1）小児を取り巻く社会環境と法律</p> <p>第12回：宮谷 恵 小児保健の動向（2）小児保健に関する統計</p> <p>第13回：小出 扶美子 乳幼児期の健康診査と保健指導</p> <p>第14回：宮谷 恵 小児の主な疾患の特徴</p> <p>第15回：宮谷 恵 小児の主な疾患の予防と適切な対応</p>
アクティブラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClass で返答する。
授業内の ICT 活用	授業ごとのリアクションペーパーはWeb Class を活用する。

評価方法	定期試験 90%、リアクションペーパー10%だが、授業への参加状況も加味して、総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	自己学修ノート（ワークシート）への回答は、授業時に提示する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの保健 [改訂第3版]	渡辺 博	中山書店	2200	9784521744872	
参考図書	必要時に提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習としてはその日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、他の授業科目の内容でもすでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノート（ワークシート）が提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1コマあたりの時間の目安は事前学習 20 分、事後学習 20 分です。				
オープンエデュケーションの活用	講義の理解に役立つ動画やインターネット上のサイトは講義時に紹介、または WebClass に掲載します。				
オフィスアワー	宮谷恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	実施なし				

科目名	子どもの食と栄養				
科目責任者	古橋 啓子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	子どもの食は心身の健全な成長に影響を及ぼす。栄養学の基礎、小児期に必要な栄養の特性や健康、食育について理解を深め、教育・保育の専門職として子どもの食や健康に対する関心を高める教育力・実践力の涵養を目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明できる。</li> <li>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。</li> <li>3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化の関りの中で理解する。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について説明できる。</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：金谷節子、古橋啓子 ガイダンス 第2～15回担当：古橋啓子 第2回：栄養の基礎 第3回：生涯発達と食生活 第4回：子どもの食生活の現状と課題 第5回：小児期の特徴、身体発育と栄養 第6回：栄養状態の評価 第7回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本 第8回：乳児期の栄養 第9回：幼児期の栄養 第10回：乳幼児演習 第11回：乳幼児演習 第12回：食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回：小児の疾病の特徴と食生活 第14回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際 第15回：食育基本法と食育の実際、まとめ		<担当教員名>		
アクティブラーニング	なし				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 70%、課題提出（リアクションペーパー） 30%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント・返却等、課題に対するフィードバック				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
子どもの食生活	上田 玲子	ななみ書房	2400	9784903355986	
参考図書	『乳幼児の食行動と食支援』 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社 他は以下に記載します。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
【改訂第2版】子どもの食と栄養	児玉浩子／編集・執筆 太田百合子／執筆 風 見公子／執筆 小林陽 子／執筆 藤澤由美子 ／執筆	中山書店	2100	9784521746036	
事前・事後学修	配布資料に従って予習・復習や課題を行うこと				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は管理栄養士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育の計画と評価				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	保育の充実と質の向上に対する役割を担う保育の計画と評価（改善を含む）の意義と実際について学ぶ。保育所保育指針等に表示される目標と計画について、全体的計画と指導計画の関連性、全体的な計画及び指導計画の作成について理解し、作成方法を習得する。				
到達目標	1. 全体的計画の編成について理解する。 2. 指導計画の作成方法について理解する。 3. 教材研究を行い、指導計画（部分）を作成する。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：カリキュラム・マネジメントについて  第2回：「全体的計画」の編成（保育所、保育所保育指針）  第3回：園目標の設定 教育課程編成会議模擬（幼稚園、幼稚園教育要領）  第4回：保育の構想 教育課程終了後の保育について（幼稚園）  第5回：指導計画と実践① ねらいと遊び・活動のつながり 評価について  幼稚園指導要録及び抄本  第6回：指導計画と実践② 遊び・活動の発展  第7回：指導計画と実践③ 集団ゲーム等模擬保育  第8回：指導計画と実践④ 登園・降園時 まとめと今後の課題（小テスト）</p>				
アクティブラーニング	保育指導計画を作成し模擬保育を行う。また保育教材に実際に触れたり活用したりしながら学生が相互に学び合う。グループディスカッションや発表を行う。				
授業内の ICT 活用	模擬保育をビデオ撮影し、幼児理解、保育環境、援助、言葉掛け等、指導計画の作成から実践の振り返りをします。				
評価方法	授業への取り組み（授業への参加、記録、ディスカッション等）：40% 学びの記録（小レポート）：20% 小テスト：50% ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	各回に記入する学びの記録（小レポート）をもとに、次の授業でフィードバックや解説を行う。				
指定図書	「幼児理解に基づいた評価」文部科学省：フレーベル 他は以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9784577814482	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9.7845778145e+12	
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館	240	9.7845778145e+12	
参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動(遊び)や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40分】				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	乳児保育 I					
科目責任者	小楠 美貴					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	2018 年に施行された保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では乳児保育の位置づけが一層重要なものとされ、特に 3 歳未満児では保育内容の整合性がはかられ、養護と教育の一体性が重視されている。本授業では、子どもの発達段階をふまえて、乳幼児における発達援助の意義を理解し、保育者として果たすべき役割を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児期の発達の特徴に応じた保育内容や運営体制について理解することができる。</li> <li>2. 乳児保育の意義と社会情勢の変化をふまえ、乳児保育の現状と課題について考察することができる。</li> <li>3. 乳児保育を担う保育者のあり方について、意見を述べるすることができる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：乳児保育の意義・目的と歴史の変遷</p> <p>第 2 回：乳児保育の現状と課題</p> <p>第 3 回：3 歳未満児の発育・発達（0 歳前半）</p> <p>第 4 回：3 歳未満児の発育・発達（0 歳後半）</p> <p>第 5 回：3 歳未満児の発育・発達（1 歳児）</p> <p>第 6 回：3 歳未満児の発育・発達（2 歳児）</p> <p>第 7 回：3 歳未満児の生活と環境</p> <p>第 8 回：3 歳未満児の遊びと環境</p> <p>第 9 回：3 歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり</p> <p>第 10 回：3 歳未満児の発達・発育をふまえた保育における配慮</p> <p>第 11 回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義</p> <p>第 12 回：乳児保育における連携・協働</p> <p>第 13 回：事例検討（ディスカッション、グループワークを含む）</p> <p>第 14 回：事例検討会（全体発表を含む）</p> <p>第 15 回：求められる保育者とは</p>					
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行います。					
評価方法	筆記試験 50%、レポート 40%、リアクションペーパー 10%、計 100%					
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントの上、返却します。					
指定図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
乳児保育 I・II	児童育成協会 監修	中央法規出版	2600	9784805857953		
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	事前：乳児保育や子育て家庭に関する新聞記事、本、雑誌を読み、社会情勢を把握しておきましょう。(60分) 事後：授業内容を再度確認し、ノートに意見をまとめておきましょう。(30分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	乳児保育Ⅱ					
科目責任者	和久田 佳代					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。					
科目概要	乳児保育では、家庭との連携をとりながら子ども一人ひとりの成長にあわせて環境設定やかかわり方を考え変化させ続けること、かつその営みを保育者間で共有することが求められる。この授業では「乳児保育Ⅰ」での理解を基礎として、実際の保育の中で保育者が持つべき多様な視点に触れ、より具体的な実践方法を学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育に関する基本的事項を説明できる。</li> <li>2. 家庭生活と乳児保育との連携について実例を挙げながら説明できる。</li> <li>3. 乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;担当者：和久田佳代、杉山沙旺美、黒野智子、室加千佳</p> <p>第1回：(杉山) 乳児保育に関わるねらい及び内容-保育所保育指針</p> <p>第2回：(杉山、和久田) 参加観察 クリストファーこども園・わかば保育園</p> <p>第3回：(杉山) 参加観察の振り返り</p> <p>第4回：(ゲストスピーカー・和久田) 家庭との連携・協力の中で育ちを支える</p> <p>第5回：(杉山) 家庭との連携に関する考察 (ディスカッション)</p> <p>第6回：(黒野・室加) 実技・沐浴実習</p> <p>第7回：(和久田) 身体の育ちの傾向とかかわり方</p> <p>第8回：(和久田) 身体の育ちの傾向と環境の工夫</p>					
アクティブラーニング	<p>実際の保育場面に参加観察を行います。</p> <p>○参加観察 ○ディスカッション ○学内実習 (演習)</p>					
授業内の ICT 活用	WebClass を活用する。					
評価方法	<p>授業参加態度 (リアクションペーパーや各課題を含む) : 50%</p> <p>レポート課題 : 50%</p>					
課題に対するフィードバック	WebClass への学びの記録について、次の授業でフィードバックする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	<p>保育所保育指針</p> <p>乳児保育Ⅰで使用したもの</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<p>事前：次回の講義に使用するテキストや資料の該当箇所を示すので読んでみてください。(30分)</p> <p>事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノート等にまとめておきましょう。(30分)</p> <p>毎回、WebClass へ学びの記録を記載します。</p>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	和久田 佳代 (2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。 杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール:saomi-s@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は保育の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	子どもの健康と安全				
科目責任者	太田 雅子				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	保育所保育指針に示される「健康及び安全」を踏まえた保育環境の管理や対策を学ぶ。体調不良や傷害などへの対応、感染症対策、個別的配慮の必要な子どもへの対応方法を学び、保健活動の計画・評価、管理・実施体制、他専門機関との連携・協働について理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針に示される子どもの健康および安全に係るねらい・内容について理解する。</li> <li>2. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。</li> <li>3. 感染症やアレルギー対策の実際を理解し、方法を身につける。</li> <li>4. 保育における保健活動計画・評価について理解する。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;科目担当者&gt;太田雅子・山内博子・池永理恵 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：太田 イントロダクション・子どもの「いのち」を守るための意識・覚悟</p> <p>第2回：太田 保育における健康および安全管理の実際①：事故防止と安全対策</p> <p>第3回：太田 保育における健康および安全管理の実際②：危機管理・災害時への備え</p> <p>第4回：池永 健康観察と体調不良に対する気づき（講義）</p> <p>第5回：池永 健康観察と体調不良に対する気づき（演習）</p> <p>第6回：池永 感染症の対策・アレルギーへの対応（講義）</p> <p>第7回：池永 感染症の対策・アレルギーへの対応（演習）</p> <p>第8回：太田 まとめ（小テスト）</p>				
アクティブラーニング	保健計画の作成、演習（嘔吐処理、エピペンの使用など）を交えて行います。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	小テスト (50%)、授業態度 (20%)、リアクションペーパー・レポート等 (30%)、計 100% ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー等の内容についてフィードバックします。				
指定図書	保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月・厚生労働省編）フレーベル館				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	その都度、提示をします。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】実践をする場合は、該当ページを事前に提示します。演習がある回では、事前に資料を読み実践をすることが前提となります。</p> <p>【事後学修】授業の内容や配布されたプリント・資料の整理をします。</p> <p>各学修の目安は各 40 分</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」「幼稚園教諭」「認定こども園長」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会的養護Ⅱ					
科目責任者	泉谷 朋子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる					
科目概要	社会的養護Ⅰで学んだ社会的養護の基本理念や体系などに基づき、社会的養護の現場で実際に行われている支援について、事例や映像教材を通して実践的に学ぶ					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の基礎的な内容について説明できる</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護について説明できる</li> <li>3. 社会的養護における自立支援計画・記録・自己評価について理解できる</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる</li> </ol>					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション、社会的養護における子どもの理解 第2回：社会的養護の内容（日常生活支援・心理的支援・自立支援） 第3回：施設養護の生活特性および実際① 第4回：施設養護の生活特性および実際② 第5回：家庭養護の生活特性および実際 第6回：アセスメントと個人支援計画の作成・記録及び自己評価 第7回：社会的養護における家庭支援 第8回：今後の社会的養護の課題と展望					
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う</li> <li>・講義中、発言を求めることがある</li> </ul>					
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠管理、授業資料配布、課題・レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う</li> <li>・授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等にPCを用いるため、PCは必携</li> </ul>					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー30%、課題20%、最終レポート50%</li> <li>・授業への取り組み、課題・レポート評価にルーブリックを用いる</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー、課題、レポートについては、授業内でフィードバックを行う</li> </ul>					
指定図書	以下参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
社会的養護Ⅱ	児童育成協会 監修	中央法規出版	2000	9784805857984		
参考図書	授業時に提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する（40分）</p> <p>【事後学修】授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、リアクションペーパーと一緒にWebClassに提出する（40分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、最終レポートについては初回授業で説明する</li> </ul>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室 (2708) 日時については初回授業時に提示する
実務経験に関する記述	本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です
メディア授業の実施について	なし



科目名	子育て支援					
科目責任者	池田 信子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	保育士が行う子育て支援について、その状況・ニーズに合わせての内容・方法（技術）や展開の仕方について実践事例等を通して具体的に学ぶ。地域の関係機関との連携・協働、保育所全体の体制作りについて理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の専門性を用いての保護者に対する相談・助言（保育ソーシャルワーク）について理解する。</li> <li>2. 保育士が行う子育て支援について様々な場や対象に合わせての支援の内容・方法・技術を、実践（事例）を通して具体的に理解する。</li> <li>3. 「子育て支援」の課題となっている生活環境について、自分の言葉で説明できるようになる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：子育て支援・保護者支援とは</p> <p>第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成</p> <p>第3回：子育て支援の5つのプロセス（関係・課題・支援・振り返り・環境設定）</p> <p>第4回：障害のある子どもの家族に対する子育て支援</p> <p>第5回：多様なニーズを抱える子育て家庭（貧困・外国籍の子ども等）に対する支援</p> <p>第6回：研究発表（多様な子育て支援に関するケースに関するグループ発表）</p> <p>第7回：研究発表（多様な子育て支援に関するケースに関するグループ発表）</p> <p>第8回：まとめ（小テスト）</p>					
アクティブラーニング	学生自身が子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けての調査・グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	課題の発表（グループ）20%、小テスト20%、授業振り返りシートの記述10%、レポート50%。ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー等を次の授業の中でフィードバックをする。					
指定図書	その都度プリントを配布する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業の中で随時提示する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い子育て支援の実践準備をすること。					
オープンエデュケーション	なし					

の活用	
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導 I
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 4(5)セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習を実施するための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的が理解できる。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、渡邊拓真、坂本道子          &lt;授業内容・テーマ等&gt;  <b>【保育実習 I A・事前指導】</b>          第1回：杉山・渡邊          オリエンテーション、こども園プレイデーへの参加について          第2回：杉山          手続きなどの確認、実習の目的と内容          第3回：杉山・渡邊          実習の1日/実習生としての心構え(クリストファーこども園副園長)、保育実習 IB のオリエンテーション          第4回：杉山・渡邊          保育の記録とは、実習日誌の意義と書き方          第5回：杉山          0歳児～5歳児の発達の特徴と保育者の配慮          第6回：渡邊          教材研究と指導計画①(ねらいと展開・問い)          第7回：二宮          教材研究と指導計画②(音楽表現)          第8回：鈴木          教材研究と指導計画③(造形表現)          第9回：担当教員全員          模擬保育に向けての指導計画の作成          第10回：担当教員全員          模擬保育(第1グループ)          第11回：担当教員全員          模擬保育(第2グループ)          第12回：担当教員全員          個人情報の管理・SNSを中心とした扱い、実習直前指導  <b>【保育実習 I A・事後指導】</b>          第13回・第14回：担当教員全員          実習の振り返り・共有、個人面談          第15回・第16回：担当教員全員          1年生に向けた実習報告会          第17回：担当教員全員          3年生の実習報告会参加(保育実習Ⅱ・Ⅲ)  <b>【保育実習 I B・事前指導】</b>          第18回：渡邊          オリエンテーション(授業の進め方、実習内容、手続きの確認)          第19回：渡邊・坂本          施設実習における保育士の役割          第20回：渡邊・坂本          実習記録の書き方          第21回：渡邊・坂本</p>

	<p>実習先の種別</p> <p>第22回：渡邊 実習先種別について調べる（グループ学習）</p> <p>第23回：渡邊 実習先種別についての発表準備（グループ学習）</p> <p>第24回：担当教員全員 実習先種別についての発表</p> <p>第25回：渡邊・杉山 実習生としての心構え・実習の目標《ゲストスピーカー 卒業生》</p> <p>第26回：渡邊・杉山 実習直前指導</p> <p>【保育実習 I B・事後指導】</p> <p>第27回：渡邊 種別ごとの振り返り（グループワーク）</p> <p>第28回：担当教員全員 実習報告会の準備・個人面談</p> <p>第29回・第30回：担当教員全員 2年生に向けた実習報告会</p>				
アクティブラーニング	遊びや活動の実践（模擬保育・発表）や附属こども園の保育に参加します。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用した資料の閲覧や課題の提示、グループ発表資料の作成等を行います。				
評価方法	<p>授業への取り組み（20%）</p> <p>指導計画の作成・教材の作成・模擬保育（30%）</p> <p>実習振り返りレポート（30%）</p> <p>実習報告会（20%）</p> <p>ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。</p>				
課題に対するフィードバック	模擬保育等についてフィードバックをします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田 啓友	中央法規出版	1800	9784805882221	
保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9.7845778145e+12	
参考図書	下記参照。その他授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
事前・事後学修	<p>【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。授業内で提示したワークシートを各自で進めていきます。</p> <p>【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。</p> <p>&lt;それぞれの目安時間は約40分&gt;</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点から教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習指導Ⅱ				
科目責任者	杉山 沙旺美				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	保育実習ⅠAを踏まえ、実習の全領域(半日実習もしくは1日実習)にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的が理解できる。</li> <li>2. 保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。</li> <li>3. 保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。</li> <li>4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、渡邊拓真 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【事前指導】</b></p> <p>第1回：杉山 オリエンテーション(保育実習Ⅱの目的・事務手続き)</p> <p>第2回：杉山 保育の記録の作成</p> <p>第3回：渡邊 保護者への支援・地域子育て支援とは</p> <p>第4回：担当者全員 教材研究と指導計画の作成・模擬保育①(前半)</p> <p>第5回：担当者全員 教材研究と指導計画の作成・模擬保育②(後半)</p> <p>第6回：担当者全員 実習直前指導、事務連絡</p> <p><b>【事後指導】</b></p> <p>第7回：杉山 実習の振り返り</p> <p>第8回：担当者全員 実習報告会・個人面談</p>				
アクティブラーニング	演習科目です。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	<p>授業への取り組み(20%) 指導計画の作成・教材の作成・模擬保育(30%) 実習振り返りレポート(30%) 実習報告会(20%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。</p>				
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削し返却をします。また、実習報告会では教員からの講評をします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田 啓友	中央法規出版	1800	9784805882221	

保育所保育指針解説 平成30年 3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9.7845778145e+12	
参考図書	下記参照。その他授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部 科学省／〔著〕 厚生 労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習ノートにオリエンテーション内容の記入、ピアノ練習、教材研究など、実習で必要となる内容について作成します。</p> <p>【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。</p> <p>&lt;それぞれの目安時間は約40分&gt;</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習指導Ⅲ				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習 I B の経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める</li> <li>2. 領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化する</li> <li>3. 施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する</li> <li>4. 他の専門職との連携について理解する</li> </ol>				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション・保育実習 I B との違いについて 第2回：実習日誌とオリエンテーションについて 第3回：各配属領域の保育内容について(発表) 第4回：職員の職務や連携の重要性について 第5回：入所理由の理解と関わり方について 第6回：各配属領域と地域との連携について・直前指導 第7回：事後指導① 実習の振り返り 第8回：事後指導② 実習報告				
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み (20%)、課題 (20%)、レポート (30%)、実習報告会 (30%) 計 100% で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。				
指定図書	ありません				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
福祉施設実習テキストブック	栗山 宣夫	建帛社	2100	9784767951362	
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				

実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や福祉での臨床経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	保育実習 I A				
科目責任者	杉山 沙旺美				
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	保育所・認定こども園の機能ならびに保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。				
到達目標	1. 観察実習および部分実習を中心として、理論と実践の結びつきを通して乳幼児を理解する。 2. 保育所・認定こども園における生活とその概要を理解する。 3. 保育士として必要な知識、技能、態度を身につけ、その任務・使命を理解する。				
授業計画	<担当教員名>杉山沙旺美、鈴木光男、渡邊拓真、二宮貴之、和久田佳代、飯田真也、福重浩之、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 実習の進め方 1. 学生は保育所・認定こども園にて 90 時間 (10 日間) 以上の配属実習を行う。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じる。 3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 4. 実習日誌は、学校指定の用紙もしくは園指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。  実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 1. 観察実習 1) 乳幼児の 1 日の生活の流れを理解する。 2) 乳幼児の集団での姿、個々の姿を観察し、人とのかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。  2. 参加・部分実習 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習園からの評価 (40%) 実習日誌・指導計画 (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	なし				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行きましょう。</p> <p>【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。</p> <p>各学修の目安は40分。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習 I B					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					
到達目標	1. 子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わるができる。 2. 児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 3. 保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;渡邊拓真、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、杉山沙旺美、飯田真也、竹本石樹</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>実習内容：詳細は保育実習 I B の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護の一日の流れを理解し、参加する。</li> <li>2. 子ども集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。</li> <li>3. 子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。</li> <li>4. 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。</li> <li>5. 施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。</li> <li>6. 施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。</li> <li>○実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。</li> <li>○実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。</li> </ul>					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	実習施設からの評価（40%） 実習日誌（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%） ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。					
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
施設実習パーフェクトガイド		かわば社	1400	9784907270094		

事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに必要箇所の記入をします。</p> <p>【事後学修】 実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。</p> <p>学修の目安は40分</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習Ⅱ
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位 (90時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ⅠAでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的保育の活動を計画、実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。</li> <li>2. 保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。</li> <li>3. 家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;杉山沙旺美、鈴木光男、渡邊拓真、和久田佳代、飯田真也、福重浩之、竹本石樹</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は保育所・認定こども園にて90時間(10日間)以上の配属実習を行う。</li> <li>2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早班・遅番)を必ず行うこととする。</li> <li>3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。</li> <li>4. 実習日誌は、学校指定の用紙もしくは園指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。</li> <li>5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。</li> </ol> <p>実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の1日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもの関わりを深める。</li> <li>2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とのかかわり方を知る。</li> <li>3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>2. 参加・部分実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。</li> <li>2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。</li> <li>3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。</li> </ol> </li> <li>3. 責任実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。</li> <li>2) 保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。</li> <li>3) 1日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。</li> <li>4) 課題を設定し、問題意識をもって実習をする。</li> </ol> </li> </ol>
アクティブラーニング	実習科目
授業内のICT活用	なし
評価方法	<p>実習園からの評価 (40%)</p> <p>実習日誌・指導計画 (30%)</p> <p>学生と教員との面談における振り返り (30%)</p> <p>ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。</p>
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

ク						
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】各年齢の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行きましょう。 また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達に則した内容を作成しましょう。</p> <p>【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 学修の目安は40分。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観 点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	保育実習Ⅲ					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2単位 (90時間) 選択 6セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育実習ⅠBでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に行い、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童を理解する。</li> <li>2. 保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。</li> <li>3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。</li> <li>4. 施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;坂渡邊拓真、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、杉山沙旺美、飯田真也、竹本石樹</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の社会的使命を理解する</li> <li>2. 職員の職務やチームワークを理解する</li> <li>3. 施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する</li> <li>4. 担当する子どものケーススタディの実践を理解する</li> <li>5. 地域事業との関連について理解する</li> <li>6. 各種法令・法規と施設との関係について理解する</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所以外の児童福祉施設等にて10日間の配属実習を行う</li> <li>・実習日誌に1日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける</li> <li>・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に進行</li> </ul>					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	実習園からの評価 (40%)、実習日誌・指導計画 (30%)、学生と教員との面談における振り返り (30%) で総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

福祉施設実習テキストブック	栗山 宣夫	建帛社	2100	9784767951362	
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。事前・事後学修にはそれぞれ40分をあてること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は認定こども園や幼稚園、小学校の実務経験と福祉の指導経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	保育実践演習
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育者の資質として、①使命感（倫理）や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やマネジメント、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を考案する。
到達目標	1. 保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2. 保育職の意義や役割を確認する。 3. クラス運営について理解する。 4. 保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 5. 援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員：杉山沙旺美・太田雅子&gt;</p> <p>第1回：杉山 オリエンテーション 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする</p> <p>第2回：杉山 子育て広場たつくんへの参加（計画と実践）</p> <p>第3回：太田・杉山 新任保育者としての課題《附属こども園保育者より》</p> <p>第4回：太田・杉山 保育者を志すものとして《附属こども園保育者より》</p> <p>第5回：杉山 保育者の専門性とは</p> <p>第6回：杉山 保育者の専門性（関わり）</p> <p>第7回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い①《ゲストスピーカー：宮里暁美氏》</p> <p>第8回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い②《ゲストスピーカー：宮里暁美氏》</p> <p>第9回：太田 チームの質を高める関わりの技術 ①自分の意見を伝える</p> <p>第10回：太田 チームの質を高める関わりの技術 ②互いの強み弱みを生かした関わり</p> <p>第11回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりとは</p> <p>第12回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりをなくす環境づくり</p> <p>第13回：杉山 保育者として求められること①《ゲストスピーカー：鈴木まき子氏》</p> <p>第14回：杉山 保育者として求められること②《ゲストスピーカー：鈴木まき子氏》</p> <p>第15回：杉山・太田 まとめ 保育者になることへの期待と希望</p> <p>※定期試験は実施しない</p>
アクティブラーニング	学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、協働的な学びを進める。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度（リアクションペーパー・課題）：30% 子育て広場のプランと実践：30%

	レポート：40% レポートについてルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	記入したリアクションペーパーはコメントして返却及び授業の中でフィードバックをする。課題・レポートについては添削して返却する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂 保育者の関わりの理論と実践：保育の専門性に基づいて	高山静子	郁洋舎	2000	9784910467016	
参考図書	授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学修すること。また、教材研究を十分に行い、保育・子育て支援の実践準備をすること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、保育所、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワーク演習				
科目責任者	坂本 道子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター				
DP 番号と科目領域	DP3 専門				
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。				
科目概要	本科目は人と関わる仕事に就く学生に対して、対人関係における基礎的な技術の取得を目的とする。具体的には①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解）、②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力の涵養、③対人関係の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得、④具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）である。これらを演習形式で行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。</li> <li>受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。</li> <li>自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。</li> <li>専門職としての基礎的なコミュニケーション能力を身につける。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;坂本道子</p> <p>第1回：オリエンテーション、人と関わる仕事における基礎的な技術の習得のためには</p> <p>第2回：コミュニケーションの基礎①コミュニケーションの構造と種類</p> <p>第3回： // ②双方向・単方向のコミュニケーション</p> <p>第4回： // ③ラポールを確立するための態度</p> <p>第5回： // ④ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際</p> <p>第6回： // ⑤バーバルコミュニケーションの実際</p> <p>第7回：自己理解と他者理解①多様な価値のなかでの自己理解</p> <p>第8回： // ②心理性格テストによる自己理解</p> <p>第9回： // ③食べさせられる体験、聞こえない体験</p> <p>第10回： // ④話せない体験、見えない体験</p> <p>第11回： // ⑤車いす体験</p> <p>第12回： // ⑥高齢者体験</p> <p>第13回：コミュニケーション技法①促しの技法、繰返しの技法、要約の技法</p> <p>第14回： // ②共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法</p> <p>第15回：事例によるまとめと振り返り</p>				
アクティブラーニング	演習科目であるため、ディスカッション、ディベート、グループワークを行う。また課題解決型学習や擬似体験を伴う自己学習の課題を提示する。授業には、出席するだけではなく、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。				
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションなどプロジェクターを利用して行うことがある。また、Zoomで授業を展開せざるを得ないときは、双方向授業やグループセッションを取り入れる。				
評価方法	評価は100点満点とし、評価方法ごとの点数配分は次のとおりである。 授業への取組姿勢25%、毎回授業終了後WebClass入力25%、 WebClass入力事項を用いた定期試験レポート50% なおこの科目では再試験は実施しません。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントなど、授業中に行う				
指定図書	特にありません				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	授業中に紹介します				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：毎回、WebClass やプリント等を事前に読む (20-30 分)</p> <p>事後学修：授業内容を、毎回、WebClass に①事実 ②感想 ③考察 に区分して言語化文字化する。合わせて 40 分程度</p> <p>期末のレポート (授業の振り返り) の準備をする (90 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	アダプテッド・スポーツ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP5 専門 (EC) DP5 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (EC) 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。
到達目標	1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。 2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。 3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：スポーツの意義と価値 学びへの導入 スポーツとは〇〇〇である</p> <p>第2回：障がいとは アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり</p> <p>第3回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前 パラリンピックの発展</p> <p>第4回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを数えるな。残されたものを最大限生かせ」</p> <p>第5回：身体障がいとスポーツ（1） 身体障がいの理解と支援 車いす利用者 その他の肢体不自由</p> <p>第6回：身体障がいとスポーツ（2）（実技含む） 視覚障がい 聴覚障がい</p> <p>第7回：身体障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第8回：知的障がいとスポーツ（1） 知的障がいの理解と支援</p> <p>第9回：知的障がいとスポーツ（2）（実技含む） 発達障がいの理解と支援</p> <p>第10回：知的障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第11回：精神障がいとスポーツ（実技含む） 精神障がいの理解、障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第12回：パラ・アスリート等に関する書籍からの学びを共有し、深める（グループワーク） 障がいを負った経緯とスポーツをはじめたきっかけ</p> <p>第13回：パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する（発表） スポーツの意義・魅力、効果・影響</p> <p>第14回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他</p> <p>第15回：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、安全管理 障がい者スポーツ指導者制度 確認テスト</p> <p>*各実技において、安全管理の内容を含む。 *実施順序は、体育館や車いす等の使用可能状況により、前後します。</p>

	<p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;          初級パラスポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得希望者は、同時に地域実践「アクティブラーニング」（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。履修希望の学生は、第1回目から出席してください。          体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p>					
アクティブラーニング	<p>○実技、演習 ○グループワーク ○プレゼンテーション          意見交換を多く行い、学び合います。          体育館での実技と連動しながら行います。</p>					
授業内の ICT 活用	<p>WebClass のアンケート機能を活用する。          グループ発表をプロジェクターを活用して行う。</p>					
評価方法	<p>確認テスト 50%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、WebClass への学びの記録）50%</p>					
課題に対するフィードバック	<p>授業内及びWebClass やメールを活用し、フィードバックする。</p>					
指定図書	<p>（公財）日本パラスポーツ協会／編「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」ぎょうせい          下記参照</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高	矢部 京之助 他編著	市村出版	3800	9784902109016	冊子版	
イラスト イラストアダプテッド・スポーツ概論	植木章三／著者代表	東京教学社	2200	9784808260507	冊子版	
教養としての アダプテッド体育・スポーツ学	齊藤まゆみ／編著	大修館書店	1800	9784469268461	冊子版	
事前・事後学修	<p>授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。          毎回、授業後にWebClass にて学びを記録し、課題に取り組む。（40分）          第13回グループ発表に向けて、課題に取り組み、発表準備をする。          課題「パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する」（120分）          授業での学びを実習等に活用する。</p>					
オープンエデュケーションの活用	<p>事前事後学修、自主学修として、以下のURL の受講を勧めます。          日本パラスポーツ協会 パラスポーツ映像配信  <a href="https://www.jsad.or.jp/movie/index.html">https://www.jsad.or.jp/movie/index.html</a>          国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版  <a href="https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible/">https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible/</a></p>					
オフィスアワー	<p>和久田 佳代 (2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>					
実務経験に関する記述	<p>本科目は「公認パラスポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習 I
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・IIを履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IVの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘  <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)  ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)  実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)  ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、</li> <li>・事前・事後学習の取り組み (30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表 (10%)      ルーブリックは用いない。</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室)    メール:masahiro-k@seirei.ac.jp    時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (90時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等>  ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)  ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)  実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)  ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内のICT活用	ZOOMを使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、</li> <li>・事前・事後学習の取り組み (30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表 (10%)      ルーブリックは用いない。</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室)    メール:masahiro-k@seirei.ac.jp    時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	インターンシップ I				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3,4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育活動や保育実践を知る。				
到達目標	1. 保育実習 IA の実施を前に、保育施設についての理解を深める。 2. 見学・観察・参加実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解しようとする。 3. 保育や幼児教育に必要となる知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。				
授業計画	<担当教員> 福重浩之、杉山沙旺美 <授業内容・担当> <b>【事前指導】</b> 第1回 (福重・杉山) : オリエンテーション・園への依頼について 第2回 (杉山) : 保育参加時に注意点・マナー 第3回 (杉山) : 記録の視点・書き方 第4回 : (福重・杉山) : 直前指導・手続き等  <b>【実習中 (インターンシップ)】</b> ・保育所・幼稚園・認定こども園において、6 回以上・計 50 時間以上の実習を行う。 ・2 カ月に 1 度大学にて、振り返り・時間数の確認等を行う。 第5回・第6回・第7回 (福重・杉山) : 振り返り・時間数の確認等  <b>【事後指導】</b> 第8回 (杉山) : インターンシップの振り返り 第9回 (福重・杉山) : インターンシップ報告会				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。				
評価方法	・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% (計 100%) ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。記録、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します (40 分)。  【事後学修】 授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします (40 分)。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」「保育士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	インターンシップⅡ					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 5,6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育実習ⅠA やインターンシップⅠでの学修を踏まえ、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けた課題を明確化し、実習体験を深化させる。					
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 保育実習Ⅱ・Ⅲにおける自分の課題を明確化し、実践を通して学ぼうとする。					
授業計画	<担当教員> 福重浩之、杉山沙旺美、渡邊拓真 <授業内容・担当> <b>【事前指導】</b> 第1回 (福重・杉山) : オリエンテーション・園への依頼について 第2回 (杉山・渡邊) : 保育参加時に注意点・マナー 第3回 (杉山) : 記録の視点・書き方 第4回 (福重・杉山・渡邊) : 直前指導・手続き等  <b>【実習中 (インターンシップ)】</b> ・保育所・幼稚園・認定こども園において、6回以上・計50時間以上の実習を行う。 ・2カ月に1度大学にて、振り返り・時間数の確認等を行う。 第5回・第6回・第7回 (福重・杉山・渡邊) : 振り返り・時間数の確認等  <b>【事後指導】</b> 第8回 (杉山・渡邊) : インターンシップの振り返り 第9回 (福重・杉山・渡邊) : インターンシップ報告会					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。					
評価方法	・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% (計100%) ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。					
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します (40 分)。  【事後学修】 授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします (40 分)。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」「保育士」「幼稚園教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	公認心理師の職責				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP6 専門				
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	<p>本科目では、公認心理師の法的義務や守秘義務、チーム支援について理解した上で業務を遂行できるようになることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>① 公認心理師の役割  ② 公認心理師の法的義務及び倫理  ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保  ④ 情報の適切な取扱い  ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務  ⑥ 自己課題発見・解決能力  ⑦ 生涯学習への準備  ⑧ 多職種連携及び地域連携</p>				
到達目標	<p>1. 公認心理師の役割、法的義務及び倫理について理解できる  2. 支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱いについて理解できる  3. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について理解できる。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;  第1回：公認心理師の役割と求められる資質（コンピテンシー）  第2回：公認心理師の法的義務、公認心理師の倫理  第3回：クライアント/患者らの安全の確保、情報の適切な取り扱いについて  第4回：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務①  第5回：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務②  第6回：福祉分野における公認心理師の具体的な業務①  第7回：福祉分野における公認心理師の具体的な業務②  第8回：教育分野における公認心理師の具体的な業務①  第9回：教育分野における公認心理師の具体的な業務②  第10回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務①  第11回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務②  第12回：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務①  第13回：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務②  第14回：支援者としての自己課題発見・解決能力  第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	知識付与型授業、PBL（課題解決型学習）、グループワークなどを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修（リアクションペーパーで確認）提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで投影しながら口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考

参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
図解でわかる障害児・難病児サー ビス	二本柳 覚	中央法規出版	2200	9784805889510	冊子版
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たな気づき・理解を深めたこと・質問をリアクションペ ーパーに書く。疑問点は図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を 毎回40分程度行うこと。				
オープンエデ ュケーション の活用	なし				
オフィスアワ ー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。				
実務経験に関 する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を 有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。				
メディア授業 の実施につい て	なし				



科目名	臨床心理学概論				
科目責任者	藤田 美枝子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、臨床心理学の成り立ちおよび代表的な理論について、基礎的かつ全般的な理解を深めることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①臨床における心理実践活動 (i) 臨床心理学とは何か (ii) 臨床心理実践の構造とプロセス (iii) 心理的アセスメント、②臨床心理学の基本モデル (i) 臨床心理学の歴史 (ii) 心理実践と研究 (iii) 生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ、③事例における心理的アプローチの方法 (i) 人間性アプローチ (クライアント中心療法) (ii) 精神力動的アプローチ (精神分析学) (iii) 行動主義 (行動療法) (iv) 認知モデル (認知行動療法)、④事例における心理社会的アプローチの方法 (i) システム論 (家族療法) (ii) コミュニティアプローチ (コミュニティ心理学) (iii) 社会構成主義 (ナラティブ・アプローチ) (iv) 社会問題化する心理的問題—児童虐待をめぐって— (v) 物語と心理的支援</p>				
到達目標	<p>1. 臨床心理学の成り立ちについて理解できる 2. 臨床心理学の代表的な理論について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理実践の構造とプロセス 第3回：心理的アセスメント 第4回：臨床心理学の歴史 第5回：心理実践と研究 第6回：生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ 第7回：人間性アプローチ (クライアント中心療法) 第8回：精神力動的アプローチ (精神分析学) 第9回：行動主義 (行動療法) 第10回：認知モデル (認知行動療法) 第11回：システム論 (家族療法) 第12回：コミュニティアプローチ (コミュニティ心理学) 第13回：社会構成主義 (ナラティブ・アプローチ) 第14回：社会問題化する心理的問題—児童虐待をめぐって— 第15回：物語と心理的支援</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、WebClass への学びの記録				
授業内の ICT 活用	WebClass にて学びの確認をします。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	授業中またはWebClass のメール等でフィードバックします。				
指定図書	ミネルヴァ書房 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3 臨床心理学概論				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	ナカニシヤ出版 心とかかわる臨床心理[第3版]: 基礎・実際・方法				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
事前・事後学修	教科書を事前によく読み、事後学習は授業や議論の内容をまとめ、質問を考えて次回の授業に臨むこと。(目安時間は、事前・事後学習それぞれ40分程度)				
オープンエデュケーションの活用	自主的な学修として、以下のURLから情報収集等を勧めます。 一般社団法人 日本心理臨床学会の公式ページ <a href="https://www.ajcp.info/">https://www.ajcp.info/</a>				
オフィスアワー	社会福祉学部2号館6階の2610研究室。時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」および「臨床心理士」の実務経験を有する講師が、子どもにおける心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について					

科目名	心理学研究法
科目責任者	内山 敏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題についての自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心の働きや行動を科学的に検証する手段として用いられる代表的な研究法（実験法、質問紙法、観察法、面接法など）について、その内容や、一連の手続きを理解できるようになることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）（i）科学と実証（ii）実験的方法と観察的方法（iii）実証の手続き（iv）実験的方法（実験法）（v）実験的方法（実験法と準実験法）（vi）観察的方法（調査法）（vii）観察的方法（検査法）（viii）観察的方法（観察法）（ix）実験的方法（面接法）、②データを用いた実証的な思考方法（i）相関関係から因果関係へ（ii）定性的研究から定量的研究へ（iii）データの統計的記述（iv）複雑な心理事象のモデリング、③研究における倫理（i）人権尊重とインフォームドコンセント（ii）研究の不正の禁止</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における実証的研究法について理解できる</li> <li>2. データを用いた実証的な思考方法について理解できる</li> <li>3. 研究における倫理について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学研究法</p> <p>第2回：実験法の基礎</p> <p>第3回：実験法の実際</p> <p>第4回：質問紙調査法の基礎</p> <p>第5回：質問紙調査法の実際</p> <p>第6回：観察法の基礎</p> <p>第7回：観察法の実際</p> <p>第8回：面接法の基礎</p> <p>第9回：面接法の実際</p> <p>第10回：検査法</p> <p>第11回：実践的研究法</p> <p>第12回：精神生理学的研究法</p> <p>第13回：研究レビュー</p> <p>第14回：研究倫理</p> <p>第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。

授業内のICT活用	PC等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClassを利用する。
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践④ 心理学研究法
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理学統計法
科目責任者	高木 邦子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題についての自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心理統計に関する基礎的な知識を身に着けるとともに、心理学で用いられるさまざまな統計手法を実データに適用できるようになることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①心理学で用いられる統計手法 (i) 記述統計:代表値と散布度 (ii) 記述統計:相関 (iii) 記述統計:回帰 (iv) 離散分布:二項分布を中心として (v) 連続分布:正規分布を中心として (vi) 推測統計:代表値と散布度 (vii) 推測統計:頻度と比率、②統計に関する基礎的な知識 (i) 統計分析の基礎:母集団と標本 (ii) 確率と確率分布 (iii) エクセル, R, SPSS 入門</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学で用いられる統計手法について理解できる</li> <li>2. 統計に関する基礎的な知識について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回: データ・変数・尺度水準</p> <p>第2回: 1つの変数の記述統計—データの記述</p> <p>第3回: 2つの変数の記述統計—相関と回帰</p> <p>第4回: 統計的推測の基礎</p> <p>第5回: クロス集計表の検定</p> <p>第6回: 2群の平均値差の検定</p> <p>第7回: 複数の群の平均値差の検定—実験計画と分散分析</p> <p>第8回: 重回帰分析と階層線形モデル</p> <p>第9回: 因子分析</p> <p>第10回: 共分散構造分析</p> <p>第11回: そのほかの多変量解析</p> <p>第12回: ノンパラメトリック検定</p> <p>第13回: テスト得点の分析—古典的テスト理論と項目反応理論</p> <p>第14回: 効果量と信頼区間, メタ分析</p> <p>第15回: ベイズ統計学</p>
アクティブラーニング	本授業では、データ処理を実際に行いますが、その際にグループワークを取り入れます。
授業内のICT活用	PCを使ったデータ処理を行います。

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題に対してのフィードバックを行います。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法
参考図書	なし
事前・事後学修	授業毎に演習課題を提示するため、課題を実施して授業に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理学実験 I
科目責任者	内山 敏
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題についての自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心理学的課題（テーマ）について科学的に研究する方法を学ぶために、自ら実験を計画・立案し、実験や演習を通じてデータを収集し、統計に関する基礎的な知識にもとづき分析を行い、その結果について考察をするという心理学研究の基本を体験する。そのために、グループに分かれ、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>実験の計画立案 (i) レポートの書き方・心理学実験の倫理 (ii) 調整法 (iii) 極限法 (iv) 恒常法 (v) マグニチュード推定法 (vi) 一対比較法 (vii) 正反応・誤反応 (viii) 実験とモデル構成 (ix) 反応時間 (x) 潜在性 (xi) 実験と理論構成</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学実験の計画立案について理解できた</li> <li>2. 心理学実験の測定について理解できた</li> <li>3. グループ学習に積極的に参加し、協力して取り組んだ</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学実験とは</p> <p>第2回：レポートの書き方・心理学実験の倫理</p> <p>第3回：統計の基礎（データ・変数・尺度水準）</p> <p>第4回：統計の基礎（データの記述）</p> <p>第5回：統計の基礎（相関と回帰）</p> <p>第6回：調整法・極限法</p> <p>第7回：マグニチュード推定法・一対比較法</p> <p>第8回：正反応・誤反応</p> <p>第9回：実験とモデル構成</p> <p>第10回：反応時間</p> <p>第11回：潜在性</p> <p>第12回：実験と理論構成</p> <p>第13回：心理量と物理量—錯覚の定量的な測定</p> <p>第14回：閾値</p> <p>第15回：反応時間</p>
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法 遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑥ 心理学実験
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	心理学実験Ⅱ
科目責任者	鈴木 文子
単位数他	2単位 (60時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	設定した課題についての自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、心理学的課題（テーマ）について科学的に研究する方法を学ぶために、自ら実験を計画・立案し、実験や演習を通じてデータを収集し、統計に関する基礎的な知識にもとづき分析を行い、その結果について考察をするという心理学研究の基本を体験する。そのために、グループに分かれ、以下の内容について学修し、理解する。 統計に関する基礎的な知識（i）統計手法と科学的表記法（ii）質問紙調査法（母集団と標本, サンプルング）（iii）クラスター分析, 因子分析などの多変量の統計的取り扱い（iv）時系列データの統計的取り扱い
到達目標	1. 統計に関する基礎的な知識について理解できた 2. データにもとづき分析を行い、その結果について考察を行うことができた 3. グループ学習に積極的に参加し、協力して取り組んだ
授業計画	<授業計画・テーマ等> 第1回：統計に関する基礎的な知識 第2回：統計手法と科学的表記法 第3回：質問紙調査法（母集団と標本） 第4回：質問紙調査法（サンプルング） 第5回：クラスター分析 第6回：因子分析 第7回：時系列データの統計的取り扱い 第8回：感覚運動学習 第9回：動物実験 第10回：ワーキングメモリ 第11回：注意 第12回：生理的指標 第13回：脳活動の測定 第14回：潜在的態度 第15回：発達の実験
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。
授業内のICT活用	PC等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClassを利用する。

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法 遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑥ 心理学実験
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし

科目名	知覚・認知心理学					
科目責任者	中村 洋子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、認知心理学の様々な研究方法、これまでの研究内容などを理解し、人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害を理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①人の感覚・知覚等の機序及びその障害 (i) 感覚の種類と構造 (ii) 感覚・知覚の基本的特性 (iii) 視覚 (iv) 聴覚 (v) 化学的感覚・体性感覚他 (vi) 対象認知他 (vii) 感覚・知覚の障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害 (i) 認知の基本的特性 (ii) 記憶のメカニズム(ワーキングメモリ) (iii) 記憶のメカニズム(長期記憶) (iv) 記憶のメカニズム(日常的記憶) (v) 注意のメカニズム (vi) 知識の表象と構造 (vii) 問題解決と推論 (viii) 認知・思考の障害</p>					
到達目標	<p>1. 人の感覚・知覚等の機序及びその障害について理解できる 2. 人の認知・思考等の機序及びその障害について理解できる</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：知覚・認知心理学とは 第2回：感覚の種類と構造 第3回：感覚・知覚の基本的特性 第4回：視覚 第5回：聴覚 第6回：化学的感覚・体性感覚他 第7回：対象認知他 第8回：感覚・知覚の障害 第9回：認知の基本的特性 第10回：記憶のメカニズム(ワーキングメモリ) 第11回：記憶のメカニズム(長期記憶・日常的記憶) 第12回：注意のメカニズム 第13回：知識の表象と構造 第14回：問題解決と推論 第15回：認知・思考の障害</p>					
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 7 知覚・認知心理学	野島一彦／監修 繁柘 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160573	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにして下さい。事前・事後の学習には、それぞれ40分をあてて下さい。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	学習・言語心理学				
科目責任者	大場 いずみ				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、学習心理学的観点から、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序を学び、理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①人の行動が変化する過程 (i) 学習・行動領域の心理学 (ii) 行動の測定と実験デザイン (iii) 生得性行動 (iv) レスポンデント (古典的) 条件づけ (v) オペラント (道具的) 条件づけ (vi) 強化随伴性 (vii) 刺激性制御 (viii) 高次の学習・行動、②言語の習得における機序 (i) 言語に関する理論と研究 (ii) 語彙の獲得過程 (iii) 文法能力の発達 (iv) 言語の生物学的基礎と障害</p>				
到達目標	<p>1. 人の行動が変化する過程について理解できる</p> <p>2. 言語の習得における機序について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：学習・言語心理学とは 第2回：学習・行動 第3回：行動の測定と実験デザイン 第4回：生得性行動 第5回：レスポンデント (古典的) 条件づけ 第6回：オペラント (道具的) 条件づけ 第7回：強化随伴性 第8回：刺激性制御 第9回：高次の学習・行動 第10回：言語に関する理論 第11回：言語に関する研究 第12回：語彙の獲得過程 第13回：文法能力の発達 第14回：言語の生物学的基礎と障害 第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	100 点満点とし、レポート 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20% として評価します。				
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
ライブラリ 心理学の杜 学習・言語心理学	木山 幸子	サイエンス社	2850	9784781915500	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。</p> <p>事後学修として、授業の振り返りを行ってください。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	感情・人格心理学				
科目責任者	角谷 基文				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、感情・人格心理学に関する理論及び感情喚起の機序、基礎知識について体系的に学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①感情に関する理論及び感情喚起の機序 (i) 感情の基礎 (ii) 感情の生物学的基礎 (iii) 感情の理論(古典的理論) (iv) 感情の理論(基本的感情説と次元説) (v) 感情と行動 (vi) 感情の測定、②感情が行動に及ぼす影響 (i) 援助行動・共感性 (ii) 感情の制御、③人格の概念及び形成過程 (i) 人格の概念 (ii) 知的機能の個人差 (iii) 人格の形成と変容、④人格の類型、特性等 (i) 人格の理論 (ii) 性格5因子論 (iii) 人格の障害</p>				
到達目標	<p>1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序について理解できる</p> <p>2. 感情が行動に及ぼす影響について理解できる</p> <p>3. 人格の概念及び形成過程・人格の類型・特性について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：感情・人格心理学とは</p> <p>第2回：感情の基礎</p> <p>第3回：感情の生物学的基礎</p> <p>第4回：感情の理論(古典的理論)</p> <p>第5回：感情の理論(基本的感情説と次元説)</p> <p>第6回：感情と行動</p> <p>第7回：感情の測定</p> <p>第8回：援助行動・共感性</p> <p>第9回：感情の制御</p> <p>第10回：人格の概念</p> <p>第11回：知的機能の個人差</p> <p>第12回：人格の形成と変容</p> <p>第13回：人格の理論</p> <p>第14回：性格5因子論</p> <p>第15回：人格の障害</p>				
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	PC 等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験(筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 9 感情・人格心理学	野島一彦／監修 繁桝 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160597	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	神経・生理心理学					
科目責任者	岩淵 俊樹					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	本科目では、生理心理学を中心とする心理学の独創的な研究についてさまざまな視聴覚体験および講義を通して、諸研究手法および理論等を理解し、心理学的な観点から心身の諸機能について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。 ①脳神経系の構造及び機能 (i) 脳神経系の解剖 (ii) 神経系の情報伝達 (iii) 大脳皮質の機能局在 (iv) 脳神経系機能の研究手法 (v) 神経の可塑性と環境の影響、②記憶、感情等の生理学的反応の機序 (i) 感覚・知覚と脳神経系 (ii) 運動と脳神経系 (iii) 記憶と脳神経系 (iv) 感情と脳神経系 (v) 動機づけと脳神経系、③高次脳機能障害の概要 (i) 高次脳機能障害 (ii) 精神疾患と脳神経系					
到達目標	1. 脳神経系の構造及び機能について理解できる 2. 記憶・感情等の生理学的反応の機序について理解できる 3. 高次脳機能障害の概要について理解できる					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：神経・生理心理学とは 第2回：脳波研究・画像研究 第3回：脳神経系の解剖 第4回：神経系の情報伝達 第5回：大脳皮質の機能局在 第6回：脳神経系機能の研究手法 第7回：神経の可塑性と環境の影響 第8回：感覚・知覚と脳神経系 第9回：運動と脳神経系 第10回：記憶と脳神経系 第11回：感情と脳神経系 第12回：動機づけと脳神経系 第13回：高次脳機能障害 第14回：精神疾患と脳神経系 第15回：睡眠の生理</p>					
アクティブラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「神経と心理」について考え、発表してもらう時間を設けます。					
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて授業資料の提供、演習問題やリアクションペーパーの実施などを行います。					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問への回答や授業中の小テストの解説は、WebClass を介した返信や資料配布などにより随時行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 10 神経・生理心理学	野島一彦／監修 繁柁 算男／監修	遠見書房	2800	9784866160603	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	授業前にWebClassにアップされた資料に目を通してください。授業後は各回のキーワードをまとめ、知識を整理してください。理解を深めるために小テストまたは課題を課す場合があります。					
オープンエデュケーションの活用	授業資料の中で、内容に関連するWeb上の資料や動画等のURL情報を提示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	社会・集団・家族心理学					
科目責任者	松下 恵美子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度と行動、家族・集団・文化が個人に及ぼす影響に焦点を当て、関連する主要な理論について理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 (i) 社会的認知 (ii) 社会的自己 (iii) 対人関係・対人行動 (iv) コミュニケーション (v) 集団・組織、②人の態度及び行動 (i) 態度の機能と構造 (ii) 説得による態度と行動の変化、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 (i) 家族の機能 (ii) 家族内の関係 (iii) 集団・組織の影響 (iv) 文化の影響</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係並びに集団における人の意識及び行動について理解できる</li> <li>2. 人の態度及び行動について理解できる</li> <li>3. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：社会・集団・家族心理学とは  第2回：社会的認知  第3回：社会的自己  第4回：対人関係・対人行動  第5回：コミュニケーション  第6回：集団・組織  第7回：態度の機能と構造  第8回：説得による態度と行動の変化  第9回：家族の機能  第10回：家族内の関係  第11回：集団・組織の影響  第12回：文化の影響  第13回：ソーシャル・サポート  第14回：文化と社会心理  第15回：集合行動とマスコミュニケーション</p>					
アクティブラーニング	この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントを毎回次の授業でフィードバックします。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 1 1 社会・集団・家族心理学	野島一彦／監修 繁舩 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160610	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	適宜に課題を出します。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、座席間隔を保つため2教室での授業を行う場合もある。その場合、1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を実施する。					

科目名	障害者・障害児心理学					
科目責任者	猪原 裕子					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、障害をもって暮らす人々の自己実現と QOL の向上に受けて、心理学的立場から支援を実施する立場として必要な知識と基本的な支援方法について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①身体障害、知的障害及び精神障害の概要 (i) 身体障害 (ii) 知的障害 (iii) 精神障害(定義と分類) (iv) 精神障害(不安症関連) (v) 精神障害(うつ病関連) (vi) 精神障害(精神病性障害) (vii) 精神障害(その他の精神障害) (viii) 神経発達症(発達障害)、②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (i) 障害の生物・心理・社会モデル (ii) 障害受容過程 (iii) 精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論 (iv) 医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (v) 教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (vi) 福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援</p>					
到達目標	<p>1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解できる 2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害者・障害児心理学とは 第2回：身体障害の概要 第3回：知的障害の概要 第4回：精神障害(定義と分類)の概要 第5回：精神障害(不安症関連)の概要 第6回：精神障害(うつ病関連)の概要 第7回：精神障害(精神病性障害)の概要 第8回：精神障害(その他の精神障害)の概要 第9回：神経発達症(発達障害)の概要 第10回：障害の生物・心理・社会モデル 第11回：障害受容過程 第12回：精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論 第13回：医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 第14回：教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 第15回：福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援</p>					
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。					
授業内の ICT 活用	PC 等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。					
評価方法	100 点満点とし、定期試験(筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 1 3 障害者・障害児心理学	野島一彦／監修 繁桝 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160634	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。</p> <p>事後学修として、授業の振り返りを行ってください。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	心理的アセスメント					
科目責任者	大場 いずみ					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP4 専門					
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。					
科目概要	<p>本科目では、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法、適切な検査の記録及び報告について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①心理的アセスメントの目的及び倫理 (心理的アセスメントの目的及び倫理) ②心理的アセスメントの観点及び展開 (i) 有用な情報の総合的把握 (ii) 関与しながらの観察 (iii) 信頼性と妥当性、③心理的アセスメントの方法 (i) 面接法 (ii) 観察法 (iii) 知能検査 (iv) 発達検査 (v) 人格検査(質問紙法) (vi) 人格検査(投映法) (vii) 症状評価法・診断面接基準 (viii) 神経心理学検査 (ix) 認知機能検査 (x) テストバッテリー、④適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等)</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理的アセスメントの目的及び倫理について理解できる</li> <li>2. 心理的アセスメントの観点及び展開・方法について理解できる</li> <li>3. 適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等) について理解できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理的アセスメントとは 第2回：有用な情報の総合的把握 第3回：関与しながらの観察 第4回：信頼性と妥当性 第5回：面接法 第6回：観察法 第7回：知能検査 第8回：発達検査 第9回：人格検査(質問紙法) 第10回：人格検査(投映法) 第11回：症状評価法・診断面接基準 第12回：神経心理学検査 第13回：認知機能検査 第14回：テストバッテリー 第15回：適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等)</p>					
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、レポート 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20% として評価します。					
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
公認心理師の基礎と実践 1 4 心理的アセスメント	野島一彦 / 監修 繁舩 算男 / 監修	遠見書房	2600	9784866160641	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	心理学的支援法
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP4 専門
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、心理療法並びにカウンセリング等の心理的支援とはどのようなことかについて理解することを目指す。 そのために、以下の内容について学修し、理解する ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 (i) 精神分析療法・力動的心理療法 (ii) 芸術療法・表現療法 (iii) 行動療法 (iv) 行動分析 (v) 認知療法・認知行動療法 (vi) ストレスと心の健康への支援法 (vii) パーソンセンタード・アプローチ(人間学的アプローチを含む) (viii) カウンセリング (ix) 集団療法・グループカウンセリング (x) 家族療法 (xi) コミュニティアプローチ (xii) 技法の選択と効果のエビデンス、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育
到達目標	1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界・プライバシーへの配慮について理解できる 2. コミュニティアプローチ・訪問による支援や地域支援の意義について理解できる 3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援・心の健康教育について理解できる
授業計画	<授業計画・テーマ等>  第1回：心理学的支援法とは 第2回：精神分析療法・力動的心理療法 第3回：芸術療法・表現療法 第4回：行動療法・行動分析 第5回：認知療法・認知行動療法 第6回：ストレスと心の健康への支援法 第7回：パーソンセンタード・アプローチ(人間学的アプローチを含む) 第8回：カウンセリング 第9回：集団療法・グループカウンセリング 第10回：家族療法 第11回：コミュニティアプローチ・訪問による支援や地域支援の意義 第12回：技法の選択と効果のエビデンス・プライバシーへの配慮 第13回：良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 第14回：心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 第15回：心の健康教育
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	100点満点とし、定期試験(筆記試験)50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。

指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑮ 心理学的支援法				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにして下さい。事前・事後の学習には、それぞれ40分をあてて下さい。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が心理学的支援の実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	健康・医療心理学
科目責任者	鈴木 文子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、健康・医療心理学とはどのようなことかについて理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。 ①ストレスと心身の疾病との関係 (i) ストレスの心理とアセスメント (ii) ストレスの生理と心身の疾病 (iii) 心の健康とストレスマネジメント、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 医療現場における活動の基本 (ii) 保健・医療における法律・制度・倫理 (iii) 精神科 (小児・思春期) (iv) 精神科 (成人期) (v) 精神科 (高齢期) (vi) 医療観察法指定医療機関 (vii) 心療内科・内科 (viii) 小児科・母子保健領域 (ix) 神経科・リハビリテーション領域 (x) さまざまな医療現場 (高齢者医療, 先端医療等) とコンサルテーション、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) さまざまな保健活動 (ii) 健康支援活動とストレスチェック (iii) 自殺予防活動、④災害時等に必要な心理に関する支援
到達目標	1. ストレスと心身の疾病との関係について理解できる 2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる 3. 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる 4. 災害時等に必要な心理に関する支援について理解できる
授業計画	<授業計画・テーマ等>  第1回：健康・医療心理学とは 第2回：ストレスの心理とアセスメント 第3回：ストレスの生理と心身の疾病・心の健康とストレスマネジメント 第4回：医療現場における活動の基本及び保健・医療における法律・制度・倫理 第5回：精神科 (小児・思春期) 第6回：精神科 (成人期) 第7回：精神科 (高齢期) 第8回：医療観察法指定医療機関 第9回：心療内科・内科 第10回：小児科・母子保健領域 第11回：神経科・リハビリテーション領域 第12回：さまざまな医療現場 (高齢者医療, 先端医療等) とコンサルテーション 第13回：さまざまな保健活動・健康支援活動とストレスチェック 第14回：自殺予防活動 第15回：災害時等に必要な心理に関する支援
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを用いて授業を行う。
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、グループワーク、プレゼンテーションの準備を行い、プレゼンテーションはプロジェクターを使用して行います。WebClass を利用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	課題について、授業中に口頭で全体に対してフィードバックを行い、個別のフィードバックには Web Class を用いる。 リアクションペーパーの内容については、授業中に全体に対してコメント内容を紹介しながらフィードバックを行う。

指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
公認心理師の基礎と実践 健康・医療心理学		遠見書房	2600	9784866160665	冊子版	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
ライフコースの健康心理学	森 和代 監修	晃洋書房	2200	9784771028876	冊子版	
実践！ 健康心理学	日本健康心理学会	北大路書房	2500	9784762832079	冊子版	
事前・事後学修	事前学習として、各回のテーマについて分からないことや知らない用語について、本やインターネットで調べておく。事後学修として、リアクションペーパーの記入や課題を通して授業内容を振り返り、さらに発展学習として提示された課題について調べてまとめる。事前・事後学習は、毎回 40 分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」として、医療、福祉、教育の分野で実践経験のある教員が担当します。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	福祉心理学
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 78 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>本科目では、福祉領域の心理職として活動する際に必要な基本的な知識と支援方法、多職種連携について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①福祉現場において生じる問題及びその背景 (i) 社会福祉の歴史と動向 (ii) 社会福祉の理念 (iii) 社会福祉の制度・法律 (iv) 社会福祉の職種、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 福祉現場における活動の基本 (ii) 福祉分野の活動における倫理 (iii) 福祉における心理アセスメント (iv) 福祉における心理学的支援 (v) 児童福祉分野の活動 (vi) 家庭福祉分野の活動 (vii) 高齢者福祉分野の活動 (viii) 障害者福祉分野の活動、③虐待および認知症についての基本的知識 (i) 虐待 (ii) 認知症</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる</li> <li>2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</li> <li>3. 虐待および認知症についての基本的知識について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：福祉心理学とは</p> <p>第2回：社会福祉の歴史と動向・社会福祉の理念</p> <p>第3回：社会福祉の制度・法律・社会福祉の職種</p> <p>第4回：福祉現場における活動の基本・倫理</p> <p>第5回：福祉における心理アセスメント・福祉における心理学的支援</p> <p>第6回：児童福祉分野の活動</p> <p>第7回：家庭福祉分野の活動</p> <p>第8回：高齢者福祉分野の活動</p> <p>第9回：障害者福祉分野の活動</p> <p>第10回：ひきこもりの心理支援</p> <p>第11回：自殺予防の心理支援</p> <p>第12回：暴力被害者への心理支援</p> <p>第13回：生活困窮・貧困者への心理支援</p> <p>第14回：児童虐待への心理支援</p> <p>第15回：認知症高齢者の心理支援</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑱ 福祉心理学
参考図書	なし
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各20分2～15回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各20分2～15回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	司法・犯罪心理学				
科目責任者	今木 久子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識」「司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援」を学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 (i) 司法・犯罪分野の制度・法律・職種 (ii) 司法・犯罪分野での活動の倫理 (iii) 各機関における活動 (iv) 犯罪・非行の原因と支援 (v) 犯罪被害への支援 (vi) 家事事件、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 (i) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメント (ii) 司法・犯罪分野における心理学的援助 (iii) 法と心理学</p>				
到達目標	<p>1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識について理解できる</p> <p>2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：司法・犯罪心理学とは  第2回：司法・犯罪分野の制度・法律・職種  第3回：司法・犯罪分野での活動の倫理・法と心理学  第4回：司法・犯罪分野における心理学的アセスメント・心理支援  第5回：各機関・領域における心理的支援（非行少年）  第6回：各機関・領域における心理的支援（犯罪加害者）  第7回：各機関・領域における心理的支援（矯正施設における加害者臨床）  第8回：各機関・領域における心理的支援（犯罪被害者への心理支援）  第9回：各種犯罪類型の特徴と心理支援  第10回：社会内処遇における心理支援  第11回：家事事件の基礎と心理支援  第12回：家事事件における法律と制度  第13回：離婚と子どもの心理  第14回：離婚後の家族関係と子どもへの支援  第15回：司法・犯罪心理学と公認心理師の実践</p>				
アクティブラーニング	本授業は、主にパワーポイントや配布資料を使用した講義形式で行い、適宜グループワークやディスカッションを取り入れます。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	フィードバックは、全体の場合で行います。 個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学 第2版	野島一彦	遠見書房	2800	9784866161761	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前に指定図書を熟読し、関連する知識を調べる。(30分程度)</p> <p>事後には授業内容を復習し、確実に理解する。(30分程度)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	産業・組織心理学				
科目責任者	原田 悠紀				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、職場や組織における人の行動と、問題に対して必要な心理に関する支援を中心に理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①職場における問題に対して必要な心理に関する支援 (i) 産業・組織心理学とは (ii) 産業・組織分野の制度・法律・職種 (iii) 産業・組織分野での活動の倫理 (iv) 作業改善・安全衛生 (v) 職業性ストレスとメンタルヘルス (vi) 人事・ヒューマンリソースマネジメント (vii) キャリア形成 (viii) 消費者行動 (ix) 産業・組織分野における心理学的アセスメント (x) 産業・組織分野における心理学的援助、②組織における人の行動 (i) 職場集団のダイナミクスとコミュニケーション (ii) リーダーシップ理論 (iii) 組織成員の心理と行動</p>				
到達目標	<p>1. 職場における問題に対して必要な心理に関する支援について理解できる</p> <p>2. 組織における人の行動について理解できる</p> <p>3. 産業心理臨床における心理療法及び再就職・障害者就労における心理支援について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：産業・組織心理学とは</p> <p>第2回：産業・組織分野の制度・法律・職種</p> <p>第3回：産業・組織分野での活動の倫理</p> <p>第4回：産業・組織分野における心理学的アセスメント・心理学的援助</p> <p>第5回：従業員支援プログラム (EAP)</p> <p>第6回：作業改善・安全衛生</p> <p>第7回：職業性ストレスとメンタルヘルス</p> <p>第8回：職場でのトラウマケア</p> <p>第9回：人事・ヒューマンリソースマネジメント</p> <p>第10回：職場集団のダイナミクスとコミュニケーション</p> <p>第11回：再就職・障害者就労における心理支援</p> <p>第12回：産業心理臨床における心理療法 (認知行動療法)</p> <p>第13回：産業心理臨床における心理療法 (リワークプログラム)</p> <p>第14回：ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成</p> <p>第15回：リーダーシップ理論・組織成員の心理と行動</p>				
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・ グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (レポート) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
公認心理師の基礎と実践 産業・組織心理学	新田 泰生	遠見書房	2600	9784866160702	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること (各 20 分 2～15 回) ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること (各 20 分 2～15 回)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	人体の構造と機能及び疾病
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉・心理の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造(解剖)と働き(生理)や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常生活に関連させながら学習を進める。 さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリテーション、国際生活機能分類(ICF)、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などに関連づけて考えていく力を身につける。
到達目標	1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえた理解ができる。 2. 様々な疾患や障害の概要について、日常生活と関連づけた理解ができる。 3. リハビリテーションの概要について理解できる。 4. 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回：水野尚美 授業のガイダンス 健康及び疾病のとらえ方、ライフステージ別の健康課題</p> <p>第2回：齋藤直志 老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族、日本の人口統計</p> <p>第3回：齋藤直志 心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧、血液の成分、血液疾患と膠原病</p> <p>第4回：齋藤直志 神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病</p> <p>第5回：齋藤直志 呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策</p> <p>第6回：齋藤直志 消化と吸収、水分と脱水、消化器疾患、</p> <p>第7回：齋藤直志 腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患</p> <p>第8回：齋藤直志 内分泌器官、糖尿病と内分泌疾患、</p> <p>第9回：齋藤直志 支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由</p> <p>第10回：齋藤直志 感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患、視覚障害、聴覚障害</p> <p>第11回：齋藤直志 精神の成長・発達、知的障害、発達障害、精神障害</p> <p>第12回：齋藤直志 認知症、高次脳機能障害</p> <p>第13回：齋藤直志 内部障害、免疫機能、難病、悪性新生物、終末期医療と緩和ケア</p> <p>第14回：水野尚美 リハビリテーション、国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方、産業保健、歯科保健</p> <p>第15回：水野尚美 他職種チーム医療 まとめ</p>

アクティブラーニング	主体的な学びを実践するため、個別作業後にグループワークなどディスカッションを行います。					
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業の発表や意見交換を行う双方向型授業を実施することがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。 事前・事後学修課題についてはWebclass を活用します。					
評価方法	試験 100%					
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーにより、学びのポイント、気づきにマークし、次回授業時に疑問に答えフィードバックします。					
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読してください。(40分) 事後学修：毎回の授業内容をテキストと照合し、ノートにまとめてください。(40分)					
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： <a href="https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-">https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-</a>					
オフィスアワー	水野尚美 (社会福祉学部) 2707 研究室 naomi-mi@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。直接研究室に来ていただいても良いですが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できます。メールでの相談は随時受け付けています。					
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	精神疾患とその治療 I					
科目責任者	西村 克彦					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際の精神医学に関する知識として、精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などを身につけることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①精神疾患総論 (i) 精神疾患の成因, 症状, 診断法, 治療法 (ii) 経過, 本人や家族への支援 (iii) 統合失調症 (統合失調症スペクトラム障害) (iv) 双極性障害, 抑うつ障害 (v) 不安に関連した障害 (vi) 発達障害 (神経発達症群/神経発達障害群) (vii) 摂食障害, 排泄症, 睡眠-覚醒障害 (viii) 秩序破壊的・衝動制御・素行症 (ix) 物質関連障害および嗜癖性障害 (x) 認知症 (神経認知障害) (xi) パーソナリティ障害 (xii) その他の精神疾患、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 (向精神薬の種類, 作用, 副作用) ③医療機関との連携 (i) 医学的治療と心理学的ケア (ii) 精神科医療における公認心理師の役割 (iii) 医療機関への紹介</p>					
到達目標	<p>1. 精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解できる。</p> <p>2. 一般的な精神疾患について基礎知識を身に付け、説明することができる。</p> <p>3. 医療機関との連携について理解できる。</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt; (担当者)</p> <p>第1回：精神医学・医療の歴史・医療機関との連携 (西村)</p> <p>第2回：精神現象の生物学的基礎 (大城)</p> <p>第3回：精神障害の概念 (村山)</p> <p>第4回：精神疾患の成因と分類 (佐久間)</p> <p>第5回：診断、検査 (日比)</p> <p>第6回：器質性精神障害、認知症 (磯貝)</p> <p>第7回：精神作用物質使用による精神および行動の障害 (大城)</p> <p>第8回：統合失調症 (村山)</p> <p>第9回：気分障害 (佐久間)</p> <p>第10回：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (片山)</p> <p>第11回：生理学的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (山口)</p> <p>第12回：パーソナリティ障害と行動の障害 (片山)</p> <p>第13回：精神遅滞 (知的障害) (西村)</p> <p>第14回：心理的発達の障害 (山口)</p> <p>第15回：小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 (日比)</p>					
アクティブラーニング	なし					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	筆記試験 100%					
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882528	冊子版	

参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診療ガイドライン—』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	授業に先立ち指定図書の該当部分を通読すること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	関係行政論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	<p>本科目では、保健医療分野に関する制度、福祉分野に関する制度、教育分野に関する制度、司法・犯罪分野に関する制度、産業・労働分野に関する制度を網羅的に学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①法体系と公認心理師の理解 (i) 法体系と行政 (ii) 公認心理師法の理解、②保健医療分野に関する制度 (i) 保健医療分野の専門家と施設 (ii) 保健医療分野の法律と政策、③福祉分野に関する制度 (i) 福祉分野の専門家と施設 (ii) 福祉分野の基本となる法律、④教育分野に関する制度 (i) 教育分野の専門家と施設 (ii) 教育分野の基本となる法律、⑤司法・犯罪分野に関する制度 (i) 司法・犯罪分野の専門家と施設 (ii) 司法・犯罪分野の基本となる法律、⑥産業・労働分野に関する制度 (i) 産業・労働分野の専門家と施設 (ii) 産業・労働分野の基本となる法律</p>
到達目標	<p>1. 各分野（保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法・犯罪分野・産業労働分野）の法律と制度について理解できる</p> <p>2. 公認心理師の法的立場と各分野の専門家施設との多職種連携について理解できる</p> <p>3. 心の健康・自殺対策の基本となる法律や制度及び障害・多様性支援基本となる法律や制度について理解できる</p>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：公認心理師の法的立場と多職種連携</p> <p>第2回：法体系と行政</p> <p>第3回：公認心理師の各分野への展開</p> <p>第4回：保健医療分野の専門家と施設</p> <p>第5回：保健医療分野の法律と政策</p> <p>第6回：福祉分野の基本となる法律</p> <p>第7回：福祉分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第8回：教育分野の基本となる法律</p> <p>第9回：教育分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第10回：司法・犯罪分野の基本となる法律</p> <p>第11回：司法・犯罪分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第12回：産業労働分野の基本となる法律</p> <p>第13回：産業労働分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第14回：心の健康・自殺対策の基本となる法律や制度</p> <p>第15回：障害・多様性支援基本となる法律や制度</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。

授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の中でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践③ 関係行政論 第2版
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各20分2～15回）</p> <p>②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各20分2～15回）</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	心理演習
科目責任者	川瀬 正裕
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	<p>本科目では、具体的な場면을想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を中心に授業を展開し、現場で役立つ知識と技術の習得を目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、習得する。</p> <p>具体的な場면을想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。</p> <p>① 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（i）コミュニケーション（ii）心理検査（iii）心理面接（iv）地域支援等②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ④多職種連携及び地域連携⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得ができる</li> <li>2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について理解できる</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解できる</li> <li>4. 多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーションと心理的支援におけるかかわりの基本姿勢</p> <p>第2回：ロールプレイ（傾聴技法）</p> <p>第3回：心理的支援を要する模擬事例を用いたロールプレイ（開放質問）</p> <p>第4回：ロールプレイ振り返り（傾聴技法・開放質問）</p> <p>第5回：ロールプレイ（反射と要約）</p> <p>第6回：ロールプレイ（積極技法）</p> <p>第7回：ロールプレイ振り返り（反射と要約・積極技法）</p> <p>第8回：家族支援（ロールプレイ）</p> <p>第9回：心理検査への導入とフィードバックのロールプレイ</p> <p>第10回：困難事例（ロールプレイ）の心理的支援と支援計画の作成①</p> <p>第11回：困難事例（ロールプレイ）の心理的支援と支援計画の作成②</p> <p>第12回：支援計画を元にしたチームアプローチ（ロールプレイ）</p> <p>第13回：ロールプレイ振り返り（困難事例・チームアプローチ）</p> <p>第14回：多職種連携及び地域連携の理解（ロールプレイ）</p> <p>第15回：公認心理師としての職業倫理及び法的義務について</p>
アクティブラーニング	ロールプレイングを中心に行います。
授業内のICT活用	PC等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。

評価方法	100点満点とし、授業への取り組み60%、レポート40%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理実習
科目責任者	川瀬 正裕
単位数他	2単位 (90時間) 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	本科目では、保健医療、福祉、教育の施設において、見学等による実習を行いながら、教員による指導を受け、以下の内容について学修し、習得する。①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携及び地域連携、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
到達目標	1. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解できる 2. 多職種連携及び地域連携について理解できる 3. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について理解できる
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：実習記録の作り方</p> <p>第3回：教育領域に関する事前学習①</p> <p>第4回：教育領域に関する事前学習②</p> <p>教育領域における実習① (5時間)</p> <p>第5回：教育領域に関する中間振り返り①</p> <p>第6回：教育領域に関する中間振り返り②</p> <p>教育領域における実習② (5時間)</p> <p>第7回：教育領域に関する事後学習①</p> <p>第8回：教育領域に関する事後学習②</p> <p>第9回：教育領域に関する事後学習③</p> <p>第10回：福祉領域に関する事前学習①</p> <p>第11回：福祉領域に関する事前学習②</p> <p>福祉領域における実習① (5時間)</p> <p>第12回：福祉領域に関する中間振り返り①</p> <p>第13回：教育領域に関する中間振り返り②</p> <p>福祉領域における実習② (5時間)</p> <p>第14回：福祉領域に関する事後学習①</p> <p>第15回：福祉領域に関する事後学習②</p> <p>第16回：福祉領域に関する事後学習③</p> <p>第17回：医療領域に関する事前学習①</p> <p>第18回：医療領域に関する事前学習②</p> <p>医療領域における実習① (5時間)</p> <p>第19回：医療領域に関する中間振り返り①</p> <p>第20回：医療領域に関する中間振り返り②</p> <p>医療領域における実習② (5時間)</p> <p>第21回：医療領域に関する事後学習①</p> <p>第22回：医療領域に関する事後学習②</p> <p>第23回：医療領域に関する事後学習③</p> <p>第24回：実習全体を通じてのふりかえり①</p> <p>第25回：実習全体を通じてのふりかえり②</p> <p>第26回：実習全体を通じてのふりかえり③</p> <p>第27回：実習報告会①</p> <p>第28回：実習報告会②</p> <p>第29回：実習報告会③</p> <p>第30回：公認心理師の仕事</p>

アクティブラーニング	事前学習、事後学習において、グループワークを取り入れます。
授業内のICT活用	PC等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。
評価方法	100点満点とし、事前事後学修への取り組み30%、実習への取り組み40%、実習報告及びレポート30%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	実習施設に対する事前の調査を行ってください。 また、どのような観点で実習に臨むのかまとめを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし